

研修開催要領等（平成２７年度）

各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭及び中堅教員等に対する学校経営研修

1. 教職員等中央研修

第１回 校長マネジメント研修	1
第２回 校長マネジメント研修	3
第１回 副校長・教頭等研修	5
第２回 副校長・教頭等研修	7
第３回 副校長・教頭等研修	9
第４回 副校長・教頭等研修	11
第５回 副校長・教頭等研修	13
第１回 中堅教員研修	15
第２回 中堅教員研修	17
第３回 中堅教員研修	19
第４回 中堅教員研修	21

2. 英語教育海外派遣研修

23

学校現場が抱える喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の講師や企画・立案等を担う指導者の養成等を目的とした研修

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修

第１回	25
第２回	27
第３回（高等学校事務職員）	29
第４回（小・中学校事務職員）	31

2. 言語活動指導者養成研修（国語力向上指導者養成研修）

33

3. 道徳教育指導者養成研修

中央指導者研修	35
北海道・東北ブロック	38
関東・甲信越ブロック	40
東海・北陸ブロック	42
近畿ブロック	44
中国・四国ブロック	46
九州ブロック	48

4. 学校教育の情報化指導者養成研修	
第1回	50
第2回	52
5. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	54
日本語指導者用コース	56
6. 生徒指導指導者養成研修	60
7. 人権教育指導者養成研修	62
8. キャリア教育指導者養成研修	
第1回	65
第2回	68
9. 教育相談指導者養成研修	71
10. いじめの問題に関する指導者養成研修	
北海道・東北ブロック	73
関東・甲信越ブロック	75
東海・北陸ブロック	77
近畿ブロック	79
中国・四国ブロック	81
九州ブロック	83
11. 子供の体力向上指導者養成研修	
東部ブロック	85
西部ブロック	87
12. 健康教育指導者養成研修	
健康コース（第1回）	89
健康コース（第2回）	91
食育（基礎）コース	93
食育（発展）コース	95
学校安全コース	97
13. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	99
14. 教育課題研修指導者海外派遣プログラム	
学校経営の改善：A－1団	103
学校経営の改善：A－2団	104
言語力・コミュニケーション力の育成：B－1団	105
言語力・コミュニケーション力の育成：B－2団	106
P I S A型学力の育成：C－1団	107
P I S A型学力の育成：C－2団	108
P I S A型学力の育成：C－3団	109
生徒指導・教育相談の充実：D－1団	110
生徒指導・教育相談の充実：D－2団	111
キャリア教育の充実：E－1団	112
体力・運動能力の向上：F－1団	113
学校教育の情報化・I C Tの活用：G－1団	114
特別支援教育の充実：H－1団	115
学校と地域等の連携：I－1団	116
学校と地域等の連携：I－2団	117

地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

（所要経費の全額を派遣者が負担）

1. 産業・理科教育教員派遣研修	119
2. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A－1（生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習）	121
工業：B－1（教科「工業」における授業改善に関する講義と演習～工業科におけるPBL実践法～）	123
商業：C－1（教科「商業」における授業改善に関する講義と実習）	125
水産：D－1（水産物の資源管理と海洋環境に関する講義と演習）	127
家庭：E－1（社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービス等の生活産業に関する講義と実習）	129
看護：F－1（看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習）	131
情報：G－1（プログラミングツール・情報リテラシー等に関する講義と実習）	133
福祉：H－1（実践的介護の知識及び技術の向上を図るための講習（教員介護知識技能講習））	135
技術・家庭（技術）：I－1（これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価）	137
技術・家庭（技術）：I－2（これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価）	139
技術・家庭（家庭）：J－1（技術・家庭科における食育、幼児理解に関する講義と実習）	141
3. 産業教育実習助手研修	
教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習	143
4. 学校評価指導者養成研修	145
5. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	147
6. 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修	149

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回校長マネジメント研修 【第393回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の校長等 小学校・中学校・高等学校・中等教育及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者						
開 催 期 日	平成27年6月22日（月）～平成27年6月26日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	75	人	受講者数	72	人	参加率 96.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,526 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	65	90.3	6	8.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.4	72
		71		98.6										

2. 研修内容に関する主な意見

・最新の情報や一流の講師の指導により新しい視点や視野を持つことができました。 ・講師がすばらしく、貴重なお話を聞くことができました。また、全国教育状況を知ることができ、今後の取組の参考となりました。 ・これまでの自身の実践を振り返る機会となったほか、これからの教育実践の方向性がはっきりと見えました。 ・全体として、学校経営の責任者としての校長に求められる高度で専門的な知識・能力を総合的に修得できる研修でした。 ・一つ一つのプログラムの質が高く、有意義でした。他地域の校長先生との情報交換や交流を通して、学べることがたくさんありました。 ・グループでの協議の場も多くあり、外の校長の考え方を聞き、自分の考えが修正できたり、別の視点で考える機会はまさに先生方のアクティブラーニングだと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充した。 ・研修成果をどのように活用するかについて協議するため、「班別協議」の講座を新設した。 ・学校評価をどのように活用するかについて焦点を当てた内容を、「学校ビジョンと戦略」の講座の中で扱うこととし、「学校評価」の講座を廃止した。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・中教審の答申を踏まえ、「アクティブ・ラーニングの推進」と「カリキュラム・マネジメント」を新設する。 ・「リスクマネジメント」について、内容を精選し、6.5時間の実施を4時間に短縮する。 ・「リーダーシップとマネジメント」～民間に学ぶ～を「特別講義」に改める。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度教職員等中央研修 第1回校長マネジメント研修

	6月22日(月)	6月23日(火)	6月24日(水)	6月25日(木)	6月26日(金)
		8:30～9:30 学校運営演習②	8:30～9:30 学校運営演習③	8:30～9:30 学校運営演習④	8:30～9:15 班別協議
	受付				
	9:00～9:50 オリエンテーション	9:45～11:45 講義	9:45～11:45 講義・演習	9:45～11:45 講義	9:30～12:30 講義・演習
	10:00～10:20 開講式	校内指導体制の充実 (～道徳教育・生徒指導等の充実～)	リスクマネジメント	学校組織マネジメントⅢ (教職員のメンタルヘルス)	学校組織マネジメントⅣ (マネジメントの実践に向けて)
	10:20～11:45 新しい時代の教育	文部科学省 田村 学	損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社	早稲田大学 河村 茂雄	国士舘大学 北神 正行
	11:45～12:00 集合写真撮影				
	13:00～15:45 講義 学校組織マネジメントⅠ (学校ビジョンと戦略) 国士舘大学 北神 正行	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅡ (新しい時代の学校マネジメント実践) 教育改革実践家 元東京都杉並区立和田中学校長 藤原 和博	13:00～17:00 講義・演習 リスクマネジメント 損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社	13:00～17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス (学校運営演習) 文部科学省	13:30～15:00 講義 リーダーシップとマネジメント ～民間に学ぶ～ 合同会社THS経営組織研究所代表社員 小杉 俊哉
	16:00～17:00 学校運営演習①				15:15～15:30 閉講式
	諸連絡	諸連絡	諸連絡	諸連絡	

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回校長マネジメント研修 【第399回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の校長等 小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
開 催 期 日	平成27年10月19日（月）～平成27年10月23日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	75	人	受講者数	100	人	参加率	133.3%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,526 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	95	95.0	5	5.0	0	0.0	0	0.0	100
		100	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・講師の方々の充実度、全国的に著明で、なかなか聞けない先生方の講義を聞くことができました。 ・じっくりと5日間、マネジメント研修ができ、得た知識やスキルは自校や地域の学校等で活用することができます。また、全国の校長と横のつながりが持てる機会として、有意義でした。 ・校長として直面している事例について、講義・演習を受けることができました。 ・ただ聞くだけの研修ではなく、話し合い、発表・ロールプレイなど、変化に富んだ研修で、実践的な力を向上させることができました。 ・所属校種を超えた、全国的な教育の動向や国の方針、今後の方向性、現状を俯瞰することができました。「アクティブラーニング」も体験できました。 ・国の施策の背景を理解することによって、自校でやるべきことが明確になりました。また、リーダーとしてマネジメントすることの楽しさを感じました。 ・アクティブラーニング、各種マネジメントについて理解が深まったと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充した。 ・研修成果をどのように活用するかについて協議するため、「班別協議」の講座を新設した。 ・学校評価をどのように活用するかについて焦点を当てた内容を、「学校ビジョンと戦略」の講座の中で扱うこととし、「学校評価」の講座を廃止した。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・中教審の答申を踏まえ、「アクティブ・ラーニングの推進」と「カリキュラム・マネジメント」を新設する。 ・「リスクマネジメント」について、内容を精選し、6.5時間の実施を4時間に短縮する。 ・「リーダーシップとマネジメント」～民間に学ぶ～を「特別講義」に改める。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度教職員等中央研修 第2回校長マネジメント研修

	10月19日(月)	10月20日(火)	10月21日(水)	10月22日(木)	10月23日(金)
		8:30~9:30 学校運営演習②	8:30~9:30 学校運営演習③	8:30~9:30 学校運営演習④	8:30~9:15 班別協議
	受付				
	9:00~9:50 オリエンテーション	9:45~11:45 講義	9:45~12:30 講義・演習	9:45~11:45 講義	9:30~12:30 講義・演習
	10:00~10:20 開講式	校内指導体制の充実 (～道徳教育・生徒指導等の充実～)	リスクマネジメント	学校組織マネジメントⅢ (教職員のメンタルヘルス)	学校組織マネジメントⅣ (マネジメントの実践に向けて)
	10:20~11:45 新しい時代の教育	京都産業大学 柴原 弘志	損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社	早稲田大学 河村 茂雄	国士舘大学 北神 正行
	11:45~12:00 集合写真撮影				
	13:00~15:45 講義 学校組織マネジメントⅠ (学校ビジョンと戦略) 国士舘大学 北神 正行	13:00~17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅡ (新しい時代の学校マネジメント実践) 教育改革実践家 元東京都杉並区立和田中学校長 藤原 和博	13:30~17:00 講義・演習 リスクマネジメント 損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社	13:00~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス (学校運営演習) 文部科学省	13:30~15:00 講義 リーダーシップとマネジメント ～民間に学ぶ～ 株式会社インディゴブルー 代表取締役社長 柴田 励司
	16:00~17:00 学校運営演習①				15:15~15:30 閉講式
	17:15~17:45 班長・副班長会	諸連絡	諸連絡		

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修 【第395回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・特別支援学校等の副校長・教頭等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、 教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待される者					
開 催 期 日	平成27年7月22日（水）～平成27年8月7日（金）				17日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	94	人 参加率 94.0%
開 催 場 所	T K P 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京都新宿区）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,526 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義がなかった		全く無意義だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	92	97.9	2	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	94
		94	100.0									

2. 研修内容に関する主な意見

・全ての講師の先生方が素晴らしい実績のある方々で、何が自分にできるのか、何をどのように伝えればよいか、という思いで毎日を過ごしていたような気がします。自分の感じたままに、自分の言葉で職場において中堅・若手の職員を中心に伝えることができればと思いました。 ・ハードな研修でしたが、たくさんの先生と情報交換や交流ができ、とても有意義な研修でした。 ・多くの先生方と出会い、広い視野から“管理職”というものを見つめ直せたことがとても有意義でした。 ・管理職自らも、教員として学び続けることの重要性がわかりました。 ・現場ではじっくりと法規関係の勉強に取り組む時間がなかったので、知っておくべき、あるいは身につけておくべき基本的知識について再確認できました。 ・教育界の多様性に対して、日々学び続けていくことの重要性に改めて気づかされ、意欲も大幅に喚起されました。今後、自分でもう一度勉強し直し、しっかりと地元の教育発展に活かしていきたいです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充した。 ・「学校組織マネジメントⅡ（人材育成とコーチング）」を180分→210分、「学校組織マネジメントⅣ（メンタルヘルスマネジメント）」を120分→150分、「学校組織マネジメント（戦略づくり）」を330分→375分に拡充した。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともに、オンライン研修を充実することにより開催期間を17日間→12日間に短縮する。 ・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」を新設する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修(東京開催)

第1週	7月20日(月)	7月21日(火)	7月22日(水)	7月23日(木)	7月24日(金)	7月25日(土)	7月26日(日)
			9:30~9:50 受付	9:30~9:45 演習説明①	9:30~14:45 教育法規Ⅱ		
			10:00~11:30 オリエンテーション	9:45~12:15 教育法規Ⅰ (独)国立青少年教育振興機構 田中 壮一郎	弁護士 山口 卓男		
			11:30~11:45写真撮影				
			13:00~13:20 開講式	13:30~15:30 安全管理			
			13:20~14:45 新しい時代の教育	群馬大学 片田 敏孝	15:00~16:45 研修講師となるための 知識・技術		
			15:00~16:30 特別講義 左野 勝司	15:45~16:45 実践研究①			
第2週	7月27日(月)	7月28日(火)	7月29日(水)	7月30日(木)	7月31日(金)	8月1日(土)	8月2日(日)
	9:30~9:45 演習説明②	9:30~12:00 特別支援教育	9:30~11:30 道徳教育	9:30~15:15 生徒指導	9:30~16:45 リスクマネジメント (危機の未然防止方策)		
	9:45~12:15 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 帝京大学大学院 岡田 行雄	新潟大学 長澤 正樹	文部科学省初等中等教育局 赤堀 博行	文教大学 柳生 和男	損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社		
	13:15~16:45 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング) 別府大学 佐藤 敬子	13:15~15:15 自殺予防 広島大学 内野 悌司	12:45~16:45 学校組織マネジメントⅢ (コミュニケーション力) 音楽座ミュージカル	15:15~15:30 演習説明③			
		15:30~16:45 実践研究②		15:45~16:45 実践研究③			
第3週	8月3日(月)	8月4日(火)	8月5日(水)	8月6日(木)	8月7日(金)	8月8日(土)	8月9日(日)
	9:30~9:45 演習説明④	9:30~16:45	9:30~9:45 演習説明⑤	9:30~16:45	9:30~16:00		
	9:45~11:45 児童虐待 大正大学 玉井 邦夫	学校組織マネジメントⅤ (戦略づくり) 兵庫教育大学大学院 浅野 良一	9:45~11:45 リーダーとなるために 佐々木常夫マネージメント・リサーチ 佐々木 常夫	学校運営演習	学校運営演習		
	13:00~15:30 学校組織マネジメントⅣ (メンタルヘルスマネジメント) 早稲田大学 河村 茂雄		13:00~16:45 学校マネジメント 教育改革実践家 元東京都杉並区立和田中学校長 藤原 和博				
	15:45~16:45 実践研究④				16:15~16:30 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修 【第396回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・特別支援学校等の副校長・教頭等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校副校長・教頭、 教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により、「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。					
開 催 期 日	平成27年7月27日（月）～平成27年8月12日（水）				17日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	62	参加率 62.0%
開 催 場 所	福岡国際会議場（福岡県福岡市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,526 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	59	95.2	3	4.8	0	0.0	62
		62	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・各発表者が法的根拠を明らかにしながら説明してくれたり、疑問に講師の方が具体的事例を示しながら答えてくれたことにより、学校運営に関する理解を深めることができました。 ・すべての研修において、新たな知見を得ることができると共に、学校運営について主体的に考える良い機会となりました。 ・構成も、1週目が体感できて楽しめのもの、2週目が重いもの、3週目が演習と、モチベーション的にも入りやすい仕組みでよかったです。 ・自分の校務、そして人間性を見つめなおす絶好の機会となりました。 ・他の研修では得られ難い情報・知識と人脈が得られました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充した。 ・「学校組織マネジメントⅡ（人材育成とコーチング）」を180分→210分、「学校組織マネジメントⅣ（メンタルヘルスマネジメント）」を120分→150分、「学校組織マネジメント（戦略づくり）」を330分→375分に拡充した。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともに、オンライン研修を充実することにより開催期間を17日間→12日間に短縮する。 ・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」を新設する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修(福岡開催)

第1週	7月27日(月)	7月28日(火)	7月29日(水)	7月30日(木)	7月31日(金)	8月1日(土)	8月2日(日)		
	9:30～9:50 受付	9:30～9:45 オリエンテーション②	9:30～14:45 教育法規Ⅱ 弁護士 三ツ角 直正	9:30～12:00 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 流通経済大学教授 小松 郁夫	9:30～11:30 道徳教育 香川大学教授 七條 正典				
	10:00～11:30 オリエンテーション①	9:45～12:15 教育法規Ⅰ 公益財団法人教科書 研究センター常務理事 伊勢呂 裕史			12:45～16:45 学校組織マネジメントⅢ (コミュニケーション力) 音楽座ミュージカル				
	11:30～11:45 写真撮影	13:30～15:30 安全管理 宮城県教育庁 スポーツ健康課課長補佐 佐藤 浩樹		13:15～16:45 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング)				別府大学准教授 佐藤 敬子	
	13:00～13:20 開講式								15:00～16:45 研修講師となるための 知識・技術
	13:20～14:45 新しい時代の教育	別府大学准教授 佐藤 敬子							
	15:00～16:30 特別講義 平尾 誠二		15:45～16:45 実践研究①						
	8月3日(月)	8月4日(火)	8月5日(水)	8月6日(木)				8月7日(金)	8月8日(土)
		9:30～9:45 オリエンテーション③	9:30～12:00 学校組織マネジメントⅣ (メンタルヘルスマネジメント)	9:30～15:15 生徒指導 鹿児島大学教授 大坪 治彦	9:30～16:30 学校組織マネジメントⅤ (戦略づくり) 前橋工科大学教授 小林 清			9:30～16:45 リスクマネジメント (危機の未然防止方策)	
9:45～12:15 特別支援教育 国立特別支援教育総合研究所 教育研修事業部 上席総括研究員 小林 倫代		兵庫教育大学教授 藤原 忠雄	損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社						
13:30～15:30 児童虐待 北九州市立大学教授 楠 凡之		13:15～15:15 自殺予防 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇							
15:45～16:45 実践研究②		15:30～16:45 実践研究③		16:30～16:45 オリエンテーション④					
8月10日(月)	8月11日(火)	8月12日(水)	8月13日(木)	8月14日(金)	8月15日(土)	8月16日(日)			
	9:30～9:45 オリエンテーション⑤	9:30～16:45 学校運営演習 文部科学省	9:30～16:00 学校運営演習 文部科学省						
	9:45～11:45 リーダーとなるために 株式会社ニチレイ相談役 浦野 光人								
	13:00～16:45 学校マネジメント 教育改革実践家 元東京都杉並区立和田中学校長 藤原 和博								
			16:15～16:30 閉講式						

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修 【第398回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	高等学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。						
開 催 期 日	平成27年9月30日（水）～平成27年10月16日（金）					17日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	120	人	受講者数	132	人	参加率 110.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,526 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	123	93.2	9	6.8	0	0.0	0	0.0	132
		132	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・どの講座も関連し合っていて、体系的に学ぶことができました。 ・国の考え、他県の状況について情報共有できました。 ・思いもよらない講師に刺激を受けました。また、有名な方が何人もいらっしやり、噂に違わぬ中央研修だと思いました。 ・文科省の方々と直接話をすることができ、今日的課題について学ぶ機会を得たことと、全国の先生方と情報交換ができたことが大変有意義でした。 ・変則的な日程だったと思うが、配列に工夫が見られた。フォローが工夫されていた。 ・演習は日常の業務でよく当面する事柄に関するものが多く、参考になりました。 ・学校運営と教育活動の充実、課題解決に有用な研修でした。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充した。 ・学校現場への負担を減らすことを意図し、開催期間内に3連休（土日祝）がある場合については、土曜日を研修日とすることにより開催期間を短縮した。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともに、オンライン研修を充実することにより、開催期間を17日間→12日間に短縮する。 ・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」を新設する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修

第1週	9月28日(月)	9月29日(火)	9月30日(水)	10月1日(木)	10月2日(金)	10月3日(土)	10月4日(日)
			8:30～9:30 オリエンテーション	8:30～9:30 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究		
			9:30～9:50 受付	9:45～11:45 研修講師となるための知識・技術	9:15～14:45 教育法規Ⅱ		
			10:00～11:45 オリエンテーション		弁護士 三ツ角 直正		
			13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ			
			13:20～14:45 新しい時代の教育 文部科学省	東京国立近代美術館 館長 加茂川 幸夫			
			14:45～15:15 写真撮影		15:00～17:00		
			15:30～17:00 特別講義 山口 香	15:45～17:00 実践研究	自殺予防 広島大学 准教授 内野 悌司		
第2週	10月5日(月)	10月6日(火)	10月7日(水)	10月8日(木)	10月9日(金)	10月10日(土)	10月11日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～17:00 リスクマネジメント (危機の未然防止方策)	
	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 流通経済大学 教授 小松 郁夫	9:15～11:45 道徳教育 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	9:15～11:45 特別支援教育 新潟大学 教授 長澤 正樹	9:15～15:30 学校組織マネジメントⅣ (人材育成とコーチング) 神田外語大学 教授 嶋崎 政男	9:15～15:30 生徒指導 文教大学 教授 松田 素行	損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社	
	13:00～17:00 学校組織マネジメントⅡ (コミュニケーション力) 音楽座ミュージカル	13:00～14:45 児童虐待 大正大学 教授 玉井 邦夫	13:00～15:30 学校組織マネジメントⅢ (メンタルヘルスマネジメント) 早稲田大学 教授 河村 茂雄				
		15:00～17:00 安全管理 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹	15:45～17:00 教育と芸術 家田紀子 金井紀子	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第3週	10月12日(月)	10月13日(火)	10月14日(水)	10月15日(木)	10月16日(金)	10月17日(土)	10月18日(日)
		8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:00 班別協議		
		9:15～17:00 学校組織マネジメントⅤ (戦略づくり) 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	9:45～17:00 学校運営演習 文部科学省	9:45～17:00 学校運営演習 文部科学省	9:15～10:45 リーダーとなるために THS経営組織研究所 小杉 俊哉		
					11:00～11:20 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修 【第401回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の副校長・教頭等、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。						
開 催 期 日	平成28年1月6日（水）～平成28年1月22日（金）					17日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	150	人	受講者数	186	人	参加率 124.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,526 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	176	94.6	10	5.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	186
		186		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・法令の主旨を調べ考えることで、自分なりにおさえをもって研修に取り組むことができました。事前の学習の時間をとることは大変ではありましたが、大いに意味がありました。 ・現在の国の動き、現状と今後の方向性について知ることができました。 ・学校現場における普遍的課題と現代的課題の双方からの視点で研修が構成されており、大変勉強になりました。 ・書籍のみで知り得ていた情報も、直接お話を聞きし、理解が深められた講義がありました。また、班での演習等で、他県・市等での特色ある取組について知る機会となり、大いに参考になりました。 ・講義・演習のバランスがよく、実際にやってみて納得しながら学ぶことができました。また、配布資料も充実していました。 ・管理職として今後大変勉強になりました。実践的ですぐに役立つ講義が多かったです。 ・全国の同じような立場の先生方と出会えるのは、とても大きく貴重でした。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充した。 ・学校現場への負荷を減らすことを意図し、開催期間内に3連休（土日祝）がある場合については、土曜日を研修日とすることにより開催期間を短縮した。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともに、オンライン研修を充実することにより、開催期間を17日間→12日間に短縮する。 ・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」を新設する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修

第1週	1月4日(月)	1月5日(火)	1月6日(水)	1月7日(木)	1月8日(金)	1月9日(土)	1月10日(日)
			8:30～9:30 オリエンテーション②	8:30～9:00 実践研究①	8:30～9:00 実践研究②		
			9:30～9:50 受付	9:45～11:45 研修講師となるための知識・技術	9:15～14:45 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)	
			10:00～11:45 オリエンテーション①	教員研修センター 坂瀬 一哉	弁護士 山口 卓男	帝京大学大学院教授 岡田 行雄	
			13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		13:00～17:00 学校組織マネジメントⅡ (コミュニケーション力)	
			13:20～14:45 新しい時代の教育 文部科学省	京都大学教授 惣脇 宏		音楽座ミュージカル	
			14:45～15:15 写真撮影		15:00～17:00 自殺予防		
			15:30～17:00 特別講義	15:45～17:00 班別協議①	兵庫教育大学大学院教授 新井 肇		
			KMコンサルティング(株) 大島 昌子				
第2週	1月11日(月)	1月12日(火)	1月13日(水)	1月14日(木)	1月15日(金)	1月16日(土)	1月17日(日)
		8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 実践研究③	8:30～9:00 実践研究⑤	8:30～17:00 リスクマネジメント (危機の未然防止方策)		
		9:15～11:45 道徳教育	9:15～11:45 特別支援教育	9:15～15:30 学校組織マネジメントⅣ (人材育成とコーチング)	損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント(株)		
		文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀 博行	国立特別支援教育総合研究所 事業部上席総括研究員 澤田 真弓	神田外語大学教授 嶋崎 政男			
		13:00～14:45 児童虐待	13:00～15:30 学校組織マネジメントⅢ (メンタルヘルスマネジメント)				
		千葉大学教授 保坂 亨	早稲田大学教授 河村 茂雄				
		15:00～17:00 安全管理	15:45～17:00 実践研究④	15:45～17:00 教育と芸術			
		京都大学教授 矢守 克也		清水良一・清水知子 伊坪淑子			
第3週	1月18日(月)	1月19日(火)	1月20日(水)	1月21日(木)	1月22日(金)	1月23日(土)	1月24日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション④	8:30～9:00 実践研究⑦	8:30～9:30 班別協議②	8:30～9:30 班別協議③	8:30～9:00 班別協議④		
	9:15～15:30 生徒指導(小中) 鹿児島大学教授 大坪 治彦	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅤ (戦略づくり)	9:45～17:00 学校運営演習	9:45～17:00 学校運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために		
	保育の関係(幼) 國學院大學教授 神長美津子	国士舘大学教授 北神 正行	文部科学省	文部科学省	芝浦工業大学学長補佐 國井 秀子		
					11:00～11:20 閉講式		
	15:45～17:00 実践研究⑥						

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第5回副校長・教頭等研修 【第402回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。					
開 催 期 日	平成28年1月25日（月）～平成28年2月10日（水）				17日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	130	人	受講者数	134	人 参加率 103.1%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,526 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	127	94.8	5	3.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.5		134
		132		98.5											

2. 研修内容に関する主な意見

・最新の知見や国の施策動向を踏まえた研修内容でした。 ・法規の趣旨に則った学校運営の重要性について理解できました。法的根拠を明確にして、職員に説明することができると思います。 ・学校経営に必要な4つの領域が網羅され、大変著名な講師の方々にお話を伺えたことは、大変有意義でした。 ・毎日の講義が積み重なり、理解が深まる仕組みとなっていました。 ・リスクマネジメントは交流を深めてから行えたので、相手のことがわかって望め、よかったです。 ・一流の講師の方々から講義や演習を通して大変多くのことを学ぶことができました。他の受講生との交流の中で多くの気づきがありました。今後も互いに高め合える仲間ができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充した。 ・学校現場への負荷を減らすことを意図し、開催期間内に3連休（土日祝）がある場合については、土曜日を研修日とすることにより開催期間を短縮した。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともに、オンライン研修を充実することにより、開催期間を17日間→12日間に短縮する。 ・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」を新設する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度教職員等中央研修 第5回副校長・教頭等研修

第1週	1月25日(月)	1月26日(火)	1月27日(水)	1月28日(木)	1月29日(金)	1月30日(土)	1月31日(日)
		8:30～9:30 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
	9:30～9:50 受付	9:45～11:45 研修講師となるための知識・技術	9:15～14:45 教育法規Ⅱ 弁護士 清水 幹裕	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 流通経済大学 教授 小松 郁夫	9:15～11:45 道徳教育 昭和女子大学 教授 押谷 由夫		
	10:00～11:45 オリエンテーション						
	13:00～13:20 開講式	13:00～14:45 児童虐待 大正大学 教授 玉井 邦夫		13:00～17:00 学校組織マネジメントⅡ (コミュニケーション力) 音楽座ミュージカル			
	13:20～14:45 新しい時代の教育 文部科学省						
	14:45～15:15 写真撮影	15:00～17:00 自殺予防 名古屋大学大学院 教授 窪田 由紀	15:00～17:00 安全管理 石巻市立万石浦中学校 校長 身崎 裕司				
	15:30～17:00 特別講義 鶴工舎相談役 小川 三夫						
第2週	2月1日(月)	2月2日(火)	2月3日(水)	2月4日(木)	2月5日(金)	2月6日(土)	2月7日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～17:00 リスクマネジメント (危機の未然防止方策)		
	9:15～11:45 特別支援教育 国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 原田 公人	9:15～15:30 学校組織マネジメントⅣ (人材育成とコーチング) 神田外語大学 教授 嶋崎 政男	9:15～15:30 生徒指導 筑波大学 副学長 石隈 利紀	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅤ (戦略づくり) 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社		
	13:00～15:30 学校組織マネジメントⅢ (メンタルヘルスマネジメント) 早稲田大学 教授 河村 茂雄						
	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 教育と芸術 声楽家 市川 和彦 声楽家 竹澤 嘉明 ピアニスト 岩河 智子				
第3週	2月8日(月)	2月9日(火)	2月10日(水)	2月11日(木)	2月12日(金)	2月13日(土)	2月14日(日)
	8:30～9:30 オリエンテーション	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:00 班別協議				
	9:45～17:00 学校運営演習	9:45～17:00 学校運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために フリープロデューサー 木村 政雄				
	文部科学省	文部科学省	11:00～11:20 閉講式				

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修 【第392回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭等で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者					
開 催 期 日	平成27年5月26日（火）～平成27年6月19日（金）					25日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	200	人	受講者数	119	人 参加率 59.5%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,526 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	116	97.5	2	1.7	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0		119
		118		99.2											

2. 研修内容に関する主な意見

・演習が多く、体験しながら学習できたため良かったです。 ・これまでの教育の大きな変化は感覚でしか捉えていませんでしたが、今回の研修を通し確信に変わったため。何とかそれに対応していかななくてはならないとも思えました。 ・一流の講師陣から多彩な講義を受けたり、全国から集まった先生方と交流して学びが多かったです。 ・演習を体験してみると、能動的に取り組む意識を実感できました。アクティブラーニングの面からも自らの授業でも、積極的に取り入れていきたいと思いました。 ・「理論」と「実践」を結びつけるために有効だったと思います。講師の先生方からたくさんの最新の教育に関する知見を学べたことと同時に、全国の先生方と意見交流をすることで、今後の教育実践に向けた見通しをもつことができました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充した。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともに、インターネットを活用した事前・事後学習を充実することにより、開催期間を25日間→18日間に短縮する。 ・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」「ESD」を新設する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度教職員等中央研修 第1回中堅教員研修

第1週	5月25日(月)	5月26日(火)	5月27日(水)	5月28日(木)	5月29日(金)	5月30日(土)	5月31日(日)
		8:30~9:00 オリエンテーション②	8:30~9:00 演習準備①	8:30~9:00 演習準備②	8:30~9:00 演習準備③		
	9:30~9:50 受付	9:15~11:45 道徳教育Ⅰ 香川大学教授 七條 正典	9:15~11:45 道徳教育Ⅱ 小中 大阪教育大学名誉教授 藤永 芳純 高 兵庫教育大学大学院教授 谷田 増幸	9:15~11:45 道徳教育Ⅲ 学校組織マネジメントⅢ (教職員のメンタル ヘルスマネジメント) 明治大学教授 諸富 祥彦	9:15~11:45 道徳教育Ⅳ 学校組織マネジメントⅣ (コーチング) 産業能率大学教授 鈴木 建生		
	10:00~11:45 オリエンテーション①	10:15~11:45 地方教育行政財政制度 目白学園理事長 尾崎 春樹	10:15~11:45 地方教育行政財政制度 目白学園理事長 尾崎 春樹	10:15~11:45 地方教育行政財政制度 目白学園理事長 尾崎 春樹	10:15~11:45 地方教育行政財政制度 目白学園理事長 尾崎 春樹		
	13:00~13:20 開講式	13:00~13:20 開講式	13:00~13:20 開講式	13:00~13:20 開講式	13:00~13:20 開講式		
	13:20~14:45 新しい時代の教育	13:20~14:45 新しい時代の教育	13:20~14:45 新しい時代の教育	13:20~14:45 新しい時代の教育	13:20~14:45 新しい時代の教育		
	14:45~15:15 写真撮影	14:45~15:15 写真撮影	14:45~15:15 写真撮影	14:45~15:15 写真撮影	14:45~15:15 写真撮影		
	15:30~17:00 特別講義 三重大学教授 杉田 正明	15:30~17:00 特別講義 三重大学教授 杉田 正明	15:30~17:00 特別講義 三重大学教授 杉田 正明	15:30~17:00 特別講義 三重大学教授 杉田 正明	15:30~17:00 特別講義 三重大学教授 杉田 正明		
	17:00~17:10 諸連絡	17:00~17:10 諸連絡	17:00~17:10 諸連絡	17:00~17:10 諸連絡	17:00~17:10 諸連絡		
	17:15~18:00 班長・副班長会 フロアリーダー会	17:15~18:00 班長・副班長会 フロアリーダー会	17:15~18:00 班長・副班長会 フロアリーダー会	17:15~18:00 班長・副班長会 フロアリーダー会	17:15~18:00 班長・副班長会 フロアリーダー会		
第2週	6月1日(月)	6月2日(火)	6月3日(水)	6月4日(木)	6月5日(金)	6月6日(土)	6月7日(日)
	8:30~9:00 オリエンテーション③	8:30~9:00 演習準備③	8:30~9:00 演習準備④	8:30~9:00 演習準備⑤	8:30~9:00 演習準備⑥		
	9:15~11:45 道徳教育Ⅰ 香川大学教授 七條 正典	9:15~11:45 道徳教育Ⅱ 小中 大阪教育大学名誉教授 藤永 芳純 高 兵庫教育大学大学院教授 谷田 増幸	9:15~11:45 道徳教育Ⅲ 学校組織マネジメントⅢ (教職員のメンタル ヘルスマネジメント) 明治大学教授 諸富 祥彦	9:15~11:45 道徳教育Ⅳ 学校組織マネジメントⅣ (コーチング) 産業能率大学教授 鈴木 建生	9:15~11:45 道徳教育Ⅴ 学校組織マネジメントⅤ (コーチング) 産業能率大学教授 鈴木 建生		
	13:00~17:00 学校組織マネジメントⅡ (コミュニケーション力) 音楽座ミュージカル	13:00~15:30 国際理解教育 目白大学教授 多田 孝志	13:00~15:30 国際理解教育 目白大学教授 多田 孝志	13:00~15:30 国際理解教育 目白大学教授 多田 孝志	13:00~15:30 国際理解教育 目白大学教授 多田 孝志		
		15:45~17:15 特別講演 大阪市立大空小学校元校長 木村 泰子	15:45~17:15 特別講演 大阪市立大空小学校元校長 木村 泰子	15:45~17:15 特別講演 大阪市立大空小学校元校長 木村 泰子	15:45~17:15 特別講演 大阪市立大空小学校元校長 木村 泰子		
		17:15~18:00 班長・副班長会	17:15~18:00 班長・副班長会	17:15~18:00 班長・副班長会	17:15~18:00 班長・副班長会		
第3週	6月8日(月)	6月9日(火)	6月10日(水)	6月11日(木)	6月12日(金)	6月13日(土)	6月14日(日)
	8:30~9:00 オリエンテーション④	8:30~9:00 演習準備⑦	8:30~9:00 演習準備⑧	8:30~9:00 演習準備⑨	8:30~9:00 演習準備⑩		
	9:15~15:30 キャリア教育 新潟大学教授 松井 賢二	9:15~15:30 特色あるカリキュラム編成 教育の情報化 富山大学准教授 高橋 純 ボランティア教育 昭和女子大学教授 興梠 寛 健康教育 筑波大学教授 野津 有司 環境教育 都留文科大学教授 高田 研	9:15~15:30 生徒指導Ⅱ 早稲田大学教授 河村 茂雄	9:15~15:30 生徒指導Ⅲ 早稲田大学教授 河村 茂雄	9:15~15:30 生徒指導Ⅳ 早稲田大学教授 河村 茂雄		
	15:45~17:00 実践研究⑤	15:45~17:00 実践研究⑥	15:45~17:00 実践研究⑦	15:45~17:00 実践研究⑧	15:45~17:00 実践研究⑨		
		17:15~18:00 班長・副班長会	17:15~18:00 班長・副班長会	17:15~18:00 班長・副班長会	17:15~18:00 班長・副班長会		
第4週	6月15日(月)	6月16日(火)	6月17日(水)	6月18日(木)	6月19日(金)	6月20日(土)	6月21日(日)
	8:30~9:00 オリエンテーション⑤	8:30~9:00 演習準備⑩	8:30~9:30 班別協議③	8:30~9:30 班別協議④	8:30~9:00 班別協議⑤		
	9:15~17:00 学校組織マネジメントⅤ (戦略づくり) 前橋工科大学教授 小林 清	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅥ (ミドルリーダーの役割) 杉並区立天沼中学校長 藤川 章	9:45~17:00 学校運営演習 文部科学省	9:45~17:00 学校運営演習 文部科学省	9:15~10:45 リーダーとなるために 株式会社佐藤商会執行役員 黒岩 禪		
		13:00~17:00 学校運営演習 文部科学省			11:00~11:20 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修 【第394回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	主として小学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭等で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開 催 期 日	平成27年7月21日（火）～平成27年8月7日（金）					18日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	300	人	受講者数	258	人	参加率 86.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,526 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	247	95.7	11	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	258
		258		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・たくさんの講師の先生方から「ミドルリーダーの役割」「子どものためにどうするか」というたくさんの手法や理論を教えていただき、1ステップ上を見て、ミドルリーダーとして学校現場でもがんばりたいと思いました。 ・自分の立つべき位置を見直すことができました。また、これまで、そしてこれからを見つめる時間となりました。 ・これまでであいまいだったところが理論づけられて明確になったり、実践を通してよりよくなる方法を学べたりしました。また、全国の先生方と情報交換でき、多くの交流ができました。 ・実践につながる、納得のいくものばかりでした。内容が多かったのも、ゆっくり聞きたいものもありました。 ・講義の内容はもちろんのこと、全国の優秀な先生方との交流は自分にとってとても刺激的でした。仕事に対する意識改革になりました。この研修での経験と色々な方々とのネットワークを大切にしていきたいです。 ・新しい知識を、演習などを交えてたくさん学びとることができ、還元したいこと、自分がこれから気をつけたいことをたくさん身につけることができました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充した。 ・人材育成のニーズを受け、3週間（夏季集中）プログラムにおいても、「コーチング」を新設した。 ・研修期間中に3連休がある場合、土曜日を研修日とし、研修日数を確保しつつ、研修期間を短縮した。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」「ESD」を新設する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度教職員等中央研修 第2回中堅教員研修

第1週	7月20日(月)	7月21日(火)	7月22日(水)	7月23日(木)	7月24日(金)	7月25日(土)	7月26日(日)
		8:30~9:50 受付	8:30~10:00 オリエンテーション②	8:30~9:00 演習準備①	8:30~9:00 演習準備②	8:30~10:15 演習準備③	
		10:00~11:45 オリエンテーション①	10:15~11:45 地方教育行財政制度 明星大学教授 樋口 修資	9:15~15:30 教育法規Ⅱ	9:15~11:45 道德教育 昭和女子大学教授 押谷 由夫	10:30~11:45 実践研究③	
		13:00~13:20 開講式	13:00~15:30 教育法規Ⅰ	弁護士 清水 幹裕	13:00~15:30 特別支援教育	13:00~17:00 学校組織マネジメントⅠ (教職員のメンタル ヘルスマネジメント)	
		13:20~14:45 新しい時代の教育	日本女子大学教授 坂田 仰		名城大学教授 曾山 和彦		
		14:45~15:15 写真撮影					
		15:30~17:00 特別講義 囲碁棋士 安田 泰敏	15:45~17:00 班別協議①	15:45~17:00 実践研究①	15:45~17:00 実践研究②	明治大学教授 諸富 祥彦	
		17:15~18:00 班長・副班長会① フロアリーダー会					
第2週	7月27日(月)	7月28日(火)	7月29日(水)	7月30日(木)	7月31日(金)	8月1日(土)	8月2日(日)
	8:30~9:00 オリエンテーション③	8:30~9:00 演習準備④	8:30~17:00 リスクマネジメントⅡ (危機の未然防止方策)	8:30~9:00 演習準備⑤	8:30~9:00 演習準備⑥		
	9:15~11:45 リスクマネジメントⅠ (リスクマネジメントの基礎知識) 高崎経済大学講師 飯野 真幸	9:15~11:45 国際理解教育 目白大学長 佐藤 郡衛	損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅣ (コーチング) 神田外語大学教授 武田 明典	9:15~15:30 生徒指導 愛媛大学教授 平松 義樹		
	13:00~17:00 学校組織マネジメントⅡ (コミュニケーション力) 音楽座ミュージカル	13:00~15:30 学校組織マネジメントⅢ (学校評価) 山梨大学教授 日永 龍彦		13:00~15:30 人権教育 上越教育大学大学院教授 梅野 正信			
		15:45~17:00 実践研究④		15:45~17:00 教育と芸術 腰越満美・丸山和範	15:45~17:00 実践研究⑤		
		17:15~18:00 班長・副班長会②					
第3週	8月3日(月)	8月4日(火)	8月5日(水)	8月6日(木)	8月7日(金)	8月8日(土)	8月9日(日)
	8:30~9:00 オリエンテーション④	8:30~9:00 演習準備⑧	8:30~9:30 班別協議②	8:30~9:30 班別協議③	8:30~11:45 研修講師となるための 知識・技術 (独)教員研修センター 櫻井 良種		
	9:15~11:45 キャリア教育 筑波大学教授 藤田 晃之	9:15~17:00 学校組織マネジメントⅥ (戦略づくり) 茨城大学准教授 加藤 崇英	9:45~17:00 学校運営演習 文部科学省	9:45~17:00 学校運営演習 文部科学省			
	13:00~15:30 学校組織マネジメントⅤ (ミドルリーダーの役割) 清瀬富士見幼稚園長 西留 安雄				13:00~14:30 リーダーとなるために キャノン電子株式会社 代表取締役 酒巻 久		
	15:45~17:00 演習準備⑦				14:45~15:00 閉講式		
		17:15~18:00 班長・副班長会③					

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修 【第397回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	主として中学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭等で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者							
開 催 期 日	平成27年8月11日（火）～平成27年8月28日（金）					18日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	250	人	受講者数	201	人	参加率	80.4%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,526 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	179	89.1	18	9.0	1	0.5	0	0.0	1	0.5	2	1.0	201	
		197			98.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・多くの先生方からすばらしい実践や、教育に対する思い、考えをうかがうことができ、有意義でした。 ・今の課題が明確になり、今後やるべきことの見通しがもてました。 ・普通に行っている教育活動を理論立てて考えることができました。立ち止まってふり返る意味でも良かったし、全国の先生方といろんな話ができて自分自身の視野が広がったとは自身を持っていえます。 ・これまで研修したことがない内容が多く、講義で行う演習なども時間をかけて行うことができたのでよかったです。 ・最新の考え方・教育の理念に触れ、自分の実践を見直すことができました。また、全国各地の方々とのつながりをもつことができました。 ・どの先生たちも知識豊富でものすごい情報量でしたので大変でしたが、とてもためになりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充した。 ・人材育成のニーズを受け、3週間（夏季集中）プログラムにおいても、「コーチング」を新設した。 ・研修期間中に3連休がある場合、土曜日を研修日とし、研修日数を確保しつつ、研修期間を短縮した。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」「ESD」を新設する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度教職員等中央研修 第3回中堅教員研修

第1週	8月10日(月)	8月11日(火)	8月12日(水)	8月13日(木)	8月14日(金)	8月15日(土)	8月16日(日)
		8:30~9:50 受付 10:00~11:45 オリエンテーション① 13:00~13:20 開講式 13:20~14:45 新しい時代の教育 14:45~15:15 写真撮影 15:30~17:00 特別講義 竹内 一郎	8:30~10:00 オリエンテーション② 10:15~11:45 地方教育行財政制度 東京大学大学院教授 大桃 敏行 13:00~15:30 教育法規Ⅰ 明星大学教授 樋口 修資 15:45~17:00 班別協議①	8:30~9:00 演習準備① 9:15~15:30 教育法規Ⅱ 弁護士 三ツ角 直正 15:45~17:00 実践研究①	8:30~9:00 演習準備② 9:15~11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 山梨大学教授 日永 龍彦 13:00~17:00 学校組織マネジメントⅡ (教職員のメンタル ヘルスマネジメント) 明治大学教授 諸富 祥彦		
第2週	8月17日(月)	8月18日(火)	8月19日(水)	8月20日(木)	8月21日(金)	8月22日(土)	8月23日(日)
	8:30~9:00 オリエンテーション③ 9:15~11:45 道徳教育 京都産業大学教授 柴原 弘志 13:00~15:30 特別支援教育 名城大学教授 曾山 和彦 15:45~17:00 実践研究②	8:30~9:00 演習準備③ 9:15~11:45 国際理解教育 国際基督教大学学長 日比谷 潤子 13:00~15:30 キャリア教育 筑波大学教授 藤田 晃之 15:45~17:00 実践研究③	8:30~9:00 演習準備④ 9:15~15:30 生徒指導 愛媛大学教授 平松 義樹 15:45~17:00 教育と芸術 腰越・丸山	8:30~9:00 演習準備⑤ 9:15~11:45 学校組織マネジメントⅢ (コーチング) 神田外国語大学教授 武田 明典 13:00~15:30 リスクマネジメントⅠ (リスクマネジメントの基礎知識) 高崎経済大学講師 飯野 真幸 15:45~17:00 実践研究④	8:30~17:00 リスクマネジメントⅡ (危機の未然防止方策) 損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社	8:30~10:15 演習準備⑥ 10:30~11:45 実践研究⑤ 13:00~17:00 学校組織マネジメントⅣ (コミュニケーション力) 音楽座ミュージカル	
第3週	8月24日(月)	8月25日(火)	8月26日(水)	8月27日(木)	8月28日(金)	8月29日(土)	8月30日(日)
	8:30~9:00 オリエンテーション④ 9:15~11:45 人権教育 東京聖栄大学教授 有村 久春 13:00~15:30 学校組織マネジメントⅤ (ミドルリーダーの役割) 杉並区立天沼中学校長 藤川 章 15:45~17:00 演習準備⑦	8:30~9:00 演習準備 9:15~17:00 学校組織マネジメントⅥ (戦略づくり) 茨城大学准教授 加藤 崇英	8:30~9:30 班別協議② 9:45~17:00 学校運営演習 文部科学省	8:30~9:30 班別協議③ 9:45~17:00 学校運営演習 文部科学省	8:30~11:45 研修講師となるための 知識・技術 教員研修センター 主幹 櫻井 良種 13:00~14:30 リーダーとなるために フリープロデューサー 木村 政雄 14:45~15:00 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修 【第400回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭等で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開 催 期 日	平成27年11月17日（火）～平成27年12月11日（金）					25日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	200	人	受講者数	168	人	参加率 84.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,526 人、参加率 89.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	153	91.1	15	8.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		168
		168		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・ 普段触れることのない内容が多く、自分自身のモチベーションは大いに高まりました。 ・ 最新の教育事情と、他の学校の実践に触れることができました。 ・ 研修の構成・内容がよく考えられていて、どれも充実した内容でした。 ・ グループで乗り切っていく型の研修でやられている感がなかったです。グループでのまとまりができ、有意義な時間をすごすことができました。 ・ 各都道府県の先生方の貴重な出会いがあってよかったです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充した。 次年度に向けて ・ 受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・ 学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともに、インターネットを活用した事前・事後学習を充実することにより、開催期間を25日間→18日間に短縮する。 ・ 教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」「ESD」を新設する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度教職員等中央研修 第4回中堅教員研修

第1週	11月16日(月)	11月17日(火)	11月18日(水)	11月19日(木)	11月20日(金)	11月21日(土)	11月22日(日)
			8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	
		9:30～9:50 受付		9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 筑波大学大学院 浜田 博文	9:15～11:45 国際理解教育 目白大学 多田 孝志	
		10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 目白学園理事長 尾崎 春樹				
		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ	弁護士 清水 幹裕	13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術	13:00～17:00 学校組織マネジメントⅡ (コミュニケーション力) 音楽座ミュージカル	
		13:20～14:45 新しい時代の教育	日本女子大学 坂田 仰				
		14:45～15:15 写真撮影		15:45～17:00 実践研究			
		15:30～17:00 特別講義 衣笠 祥雄	15:45～17:00 班別協議				
第2週	11月23日(月)	11月24日(火)	11月25日(水)	11月26日(木)	11月27日(金)	11月28日(土)	11月29日(日)
		8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
		9:15～15:30 学校組織マネジメントⅢ (教職員のメンタルヘルスマネジメント) 明治大学 諸富 祥彦	9:15～15:30 特別支援教育 FR教育臨床研究所 花輪 敏男	9:15～11:45 道徳教育Ⅰ 秋田公立美術大学 毛内 嘉威	9:15～11:45 道徳教育Ⅱ (小中 藤永 芳純) (高 谷田 増幸)		
				13:00～15:30 学校組織マネジメントⅣ (コーチング) 産業能率大学 鈴木 建生	13:00～15:30 生徒指導Ⅰ (小中 桶谷 守) (高 柳生 和男)		
		15:45～17:15 特別講演 大阪市立大空小学校元校長 木村 泰子	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第3週	11月30日(月)	12月1日(火)	12月2日(水)	12月3日(木)	12月4日(金)	12月5日(土)	12月6日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～17:00		
	9:15～15:30 キャリア教育 (公)ジュニア・アサープメント日本専務理事 中許 善弘	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 教育の情報化 日本福祉大学 影戸 誠 ボランティア教育 学習院大学 長沼 豊 健康教育 神戸大学大学院 川畑 徹朗 環境教育 都留文科大学 高田 研	9:15～15:30 生徒指導Ⅱ 早稲田大学 河村 茂雄	9:15～11:45 人権教育 東京聖栄大学 有村 久春 13:00～15:30 リスクマネジメントⅠ (リスクマネジメントの基礎知識) 鳴門教育大学大学院 阪根 健二	リスクマネジメントⅡ (危機の未然防止方策) 損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社		
	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 班別協議	15:45～17:00 教育と芸術 村上敏明・土屋麻美	15:45～17:00 実践研究			
第4週	12月7日(月)	12月8日(火)	12月9日(水)	12月10日(木)	12月11日(金)	12月12日(土)	12月13日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:00 班別協議		
	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅤ (戦略づくり) 九州大学大学院 元兼 正浩	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅥ (ミドルリーダーの役割) 杉並区立天沼中学校長 藤川 章	9:45～17:00 学校運営演習 文部科学省	9:45～17:00 学校運営演習 文部科学省	9:15～10:45 リーダーとなるために 黒岩 禅 11:00～11:20 閉講式		
		13:00～17:00 学校運営演習 文部科学省					

I 研修概要

研 修 名	英語教育海外派遣研修										
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ										
研 修 目 的	各地域において英語教育を推進する中核的教員を海外に派遣し、英語教育に関する指導方法等についての実践的な研究、大学等での専門的な授業及び実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修に活かし、各域内全体の英語教育の改善に資する。										
受 講 対 象	以下の者であって、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる者 ①中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の英語科教員 ②都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ③50歳以下の者で、英語教育を推進する中核的教員又は中核的教員として活躍が期待される者(年齢は平成27年度末現在) ④過去に文部科学省又はセンターが実施した教職員等海外派遣研修により派遣されたことがない者										
開 催 期 日	別紙のとおり							別紙のとおり			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	29	人	参加率	96.7%			
開 催 場 所	別紙のとおり										

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 30 人、 受講者数 29 人、 参加率 96.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	27	93.1	2	6.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	29	
		29		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・研修カリキュラムの組み立てが良く、アメリカ人についてやアメリカでの過ごし方から始まり、Reading・writingの指導、アクティビティの活用など今後に生きるものが多かったです。今後、いかに日本人用にアレンジできるかが課題です。

・教授法ではリーディング・ライティングの技能を伸ばす様々な方法を教わり、大変参考になりました。又、アメリカ文化への理解も深まり、生徒に海外や英語に興味をもたせることがさらにできると思います。

・この研修は、自分の英語力や指導力を磨くだけでなく、自分自身が異文化の中に身を置くことで、いろいろな発見や気づきを視野を広げることができました。この2ヶ月間で経験した全てのことが、これから子どもたちと関わっていく上でとても役立つものになると確信しています。今回のアメリカ滞在で感じた、「英語を通して何をするか。何を伝えるか。」をいつも頭に留めて学校現場で指導にあたっていきたいと思いますし、子どもたちと共に自分もさらに学びを深めていきたいと思っています。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

・調査官の講義の時に質疑応答の時間があると良いとの意見を受け、受付時間を短縮して講義後に10分間の質疑応答時間を設けた。

・事前研修会及び事後研修会での発表は使用言語を統一していなかったが、研修の意識を高めるためにも使用言語を「英語」に統一したほうが良いとの意見を受け、全て「英語」にした。

・大学で学んだことの中には日本の学習指導要領に合わないものがあるとの意見から、現地の大学へ学習指導要領を持参し、大学教授陣から授業の課程で日本の学習指導要領のこの部分で使える教授法であるといった説明をしつつ授業展開するよう依頼した。

次年度に向けて

・「研修主題協議・情報共有」は充実しているが、十分なフィードバックを互いにすることができないとの意見から、テーマに関する講評、質疑応答の時間を多くとるような日程に変更する。

・学校訪問は興味深いが、日本の生徒に生かせることはあったかという状況が違い、第2外国語を学んでいる様子を見る事が日本で英語を学ぶ生徒たちの状況と似ているので参考になるのではないかとの意見から、学校訪問の内容等の再考を依頼する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成２７年度英語教育海外派遣研修

派遣国	大学名	参加人数	事前研修会	派遣期間	日数	事後研修会
イギリス	エクセター大学	8	5/7(木)～8(金) 教員研修センター (茨城県つくば市)	6/20(土)～8/17(月)	59	11/12(木)～13(金) 教員研修センター (茨城県つくば市)
	バーミンガム大学	8		7/17(金)～9/13(日)	59	
アメリカ	デンバー大学	13		7/12(日)～9/8(火)	59	
計		29				

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、マネジメントの基礎・基本を身に付け、的確な現状把握に基づいた戦略を構築でき、学校の資源を活用することができる学校組織マネジメントの専門的指導者を養成する。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実、研修企画を担当している者。または、（並びに）それに準ずる者 幼稚園の園長、副園長及び、（並びに）小学校、中学校、高等学校、中等教育学校（及び）、特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成27年9月7日（月）～平成27年9月11日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	160	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 273 人、 参加率 124.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	147	91.9	13	8.1	0	0.0	160
		160	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 1 週間、じっくり基礎から学ぶことができ、有意義な研修でした。 ・ 組織マネジメントをどう講義で伝えていけばよいのか理解が進みました。また、自分自身、マネジメントのスキルアップができました。 ・ 初日から最終日まで系統立てて内容が構成されており、一步一步理解の深まりを感じられました。 ・ 今後の学校運営に活かせる貴重な学びの経験でした。日常、学校長が示してくれているビジョンについて、今回の研修で理解できました。 ・ 戦略マップ作成において、一転突破・3ヶ年の視点など、経営における有効なヒントを多く得ることができました。 ・ 企画書を基に、管理職として学校教育目標の見直し、点検、教職員の意識を高めていくことの重要性を改めて感じることができました。 ・ 初任研で学校組織についてを取り上げるなど、個業型になりがちな学校組織を変えていくための手立てを様々な事例から学ぶことができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 第2日目「学校経営の基本」の講座において、過去の受講者による研修成果の活用の実際を発表する時間を設ける等、研修の活用に焦点をあてた内容の見直しを行った。 ・ 研修第5日目「研修企画書の検討」を新設し、指導計画案の発表・指導講評の充実を図った。
次年度に向けて ・ 受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・ 「学校と地域の連携・協働」を新設し、地域との連携・協働について理解を深める。 ・ 「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」を新設し、カリキュラム・マネジメントへの理解を深める。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

学校組織マネジメント指導者養成研修 日程表

【平成27年度】

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
9/7		受付	オリエンテーション	開講式 10:35-10:45	講義 教育改革の動向 文部科学省初等教育局視学官 太田 光 春 10:45-12:00	昼食・休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～人と組織を活かし成長させるために～ 株式会社イマージェンス 代表取締役社長 桑畑 英紀 13:00-15:00	協議 学校組織マネジメント上での課題の分析 (1) 15:15-17:00	諸連絡								
9/8	協議 学校組織マネジメント上での課題の分析 (2) 8:30-8:50	講義・実践発表 学校経営の基本 (1)管理職とリーダー教員にとってのマネジメントの課題 (2)実践発表 (マネジメントの改善) ア 研修成果の活用 イ 学校組織の活性化 ウ 地域連携の取組 国土館大学教授 北神 正行 9:00-12:30	昼食・休憩 午前に同じ 13:30-14:45	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子 15:00-17:00	諸連絡												
9/9	演習 学校の戦略マップを作る (1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 8:30-12:00	昼食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る (2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 13:00-17:00	諸連絡													
9/10	講義・演習 特色ある学校づくりのための財務マネジメント 茨城大学准教授 加藤 崇英 8:30-11:15	演習 研修企画書の立案と作成 11:30-12:30	昼食・休憩	講義・演習 やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソース マネジメント 早稲田大学教授 河村 茂雄 13:30-17:00	諸連絡												
9/11	オリエンテーション 8:30-8:50	協議 研修企画書の検討 高崎経済大学講師 飯野 眞幸 9:00-10:00	発表・講評 研修企画書の検討 高崎経済大学講師 飯野 眞幸 10:15-12:00	昼食・休憩	講義 学校組織マネジメントの指導者となるために 高崎経済大学講師 飯野 眞幸 13:00-14:30	閉講式	諸連絡										

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、マネジメントの基礎・基本を身に付け、的確な現状把握に基づいた戦略を構築でき、学校の資源を活用することができる学校組織マネジメントの専門的指導者を養成する。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実、研修企画を担当している者。または、（並びに）それに準ずる者 幼稚園の園長、副園長及び、（並びに）小学校、中学校、高等学校、中等教育学校（及び）、特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成27年10月26日（月）～平成27年10月30日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	113	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 220 人、受講者数 273 人、参加率 124.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	105	8	0	0	0	0	113
割合 (%)	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	113	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・SWOT分析を経験し、学校分析の有効な手段であることがわかりました。他の受講者の分析を聞き、新たな意見や考えを得ることができ貴重な協議でした。 ・経験地で進めがちな現場に必要な視点をいくつもいただきました。 ・プログラム間につながりがあり、分かり易く取り組みやすいと感じました。 ・学校規模に違いはあっても、抱える課題が年齢構成（教員）の偏り、それに伴うミドルリーダー、若手教員育成、組織としての学校づくり、生徒同士のよりよい人間関係の育成等、共通するものが多かったです。戦略マップづくりで改善策を考えていきたいです。 ・事例を通して実際に3年先を見据えてビジョンの実現に向けた方策を練ることは、全体を俯瞰して考えることにつながり、勉強になりました。 ・他県の方と知り合う機会となり、講話はもちろんのこと、様々な情報を得ることができ、勉強になりました。 ・発表事例から、成功の鍵となるマネジメントの考え方の具体をたくさん得ることができました。自校の取組との共通点も多かったので、マネジメントの視点から見直していきたいです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・第2日目「学校経営の基本」の講座において、過去の受講者による研修成果の活用の実際を発表する時間を設ける等、研修の活用に焦点をあてた内容の見直しを行った。 ・研修第5日目「研修企画書の検討」を新設し、指導計画案の発表・指導講評の充実を図った。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・「学校と地域の連携・協働」を新設し、地域との連携・協働について理解を深める。 ・「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」を新設し、カリキュラム・マネジメントへの理解を深める。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

学校組織マネジメント指導者養成研修 日程表

【平成27年度】

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
10/26		受付	オリエンテーション	開講式	講義 教育改革の動向 文部科学省初等教育局視学官	屋食・休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～人と組織を活かし成長させるために～ 株式会社イマージエンス 代表取締役社長 桑畑 英紀	協議 学校組織マネジメント上の課題の分析 (1)	諸連絡								
10/27	協議 学校組織マネジメント上の課題の分析 (2)	講義・実践発表 学校経営の基本 (1)管理職とリーダー教員にとつてのマネジメントの課題 (2)実践発表 (マネジメントの改善) ア 研修成果の活用 イ 学校組織の活性化 ウ 地域連携の取組 国士館大学教授 北神 正行	屋食・休憩	屋食・休憩	屋食・休憩	屋食・休憩	屋食・休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	諸連絡								
10/28	演習 学校の戦略マップを作る (1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	屋食・休憩	屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る (2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	屋食・休憩	屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る (2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	諸連絡									
10/29	講義・演習 特色ある学校づくりのための財務マネジメント 茨城大学准教授 加藤 崇英	演習 研修企画書の立案と作成	屋食・休憩	演習 研修企画書の立案と作成	屋食・休憩	屋食・休憩	講義・演習 やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソース マネジメント 早稲田大学教授 河村 茂雄	諸連絡									
10/30	オリエンテーション	協議 研修企画書の検討 高崎経済大学講師 飯野 眞幸	発表・講評 研修企画書の検討 高崎経済大学講師 飯野 眞幸	屋食・休憩	講義 学校組織マネジメントの指導者となるために 高崎経済大学講師 飯野 眞幸	閉講式											

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第3回）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。						
受 講 対 象	高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成27年11月9日（月）～平成27年11月13日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	121	人	参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 320 人、受講者数 308 人、参加率 96.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	81	66.9	38	31.4	2	1.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0		121
		119		98.3											

2. 研修内容に関する主な意見

・講義とグループ討議の時間のバランスが取れており「学んで考える」いいトレーニングになった。最新の情報も入手でき他県の現状なども知ることができて非常に有意義だった。職場に帰って伝達研修などに活用したいと思った。 ・本研修を受講したあとと思ったことは、日常業務の事務も大切ではあるが、事務長として学校の進むべき道と管理職と併して作っていくことが大切であると思った。 ・事務職員としての質向上だけでなく、研修後、持ち帰った時の伝え方まで学ぶことができた。 ・始めの講演でフレームの説明があり、学校組織の中の事務長（事務室）の役割についてのヒントを提供し、班別で学校の問題を考えさせ、解決に向けたシミュレーションを行うという、よく練られた構成のプログラムであったと思った。 ・「演習の進め方」に従い、選定基準に沿って課題を選定する際、事務職員の視点を再度振り返ることができた。班員の多様な視点を知ることができた。 ・チーム学校としての取組のために、事務としてカリキュラムマネジメントと連動して財務マネジメントを行うべきこと、及び事業型予算編成の有効性等を学び、学校運営に生かすことができると感じた。 ・SWOT分析を行うと、学校の強みや弱みが見えてきた。「強み」を「強み」として置いておかず、「よりよい特徴」として、「弱み」を「より改善する点」として理解することで、学校組織マネジメントに活用することができると思った。 ・研修内容が豊富すぎて、討議等振り返りシートを書く時間がなかったので、時間的なゆとりがほしかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・昨年度の事例発表は、専門学科の発表と特別支援学校の発表とで受講者に選択してもらうことにしていたが、小・中学校のようにすべて聞くことができないかとの意見を踏まえ、選択制を無くすこととした。 次年度に向けて ・チーム学校の推進に対応するため、当センター実施の教職員等中央研修に「事務職員研修」を新設する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第3回) 日程表
～高等学校事務職員～

		9:30	10:00	10:35	11:45	12:45	14:15	14:30	14:45			17:00		
				【講堂】		【第二研修棟2階】						【第二研修棟2階】		
11月9日(月)	受付	オリエンテーション 開講式		講義1 「教育改革の動向について」 文部科学省大臣官房審議官 藤原 章夫 目的:最新の教育改革等について理解を深める		昼 食	休	講義2 「学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局 視学官 望月 昌代 目的:学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める				休	演習説明	演習1 「自校の取組」 目的:他校の特色ある取組について共有する

	9:00	【第二研修棟2階】		11:45	12:45	17:00
		受				【講堂】
11月10日（火）		講義3 「信頼される開かれた学校づくりのために」 千葉大学教育学部 教授 天笠 茂 目的：学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえ、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める		昼 食	休	講義・演習1 「学校組織マネジメント①」 教育改革実践家 杉並区立和田中学校・元校長 藤原 和博 目的：学校組織マネジメントの実際について理解を深める

		9:00	12:00	13:00	14:50	15:05	17:00
		【第二研修棟2階】	【第二研修棟2階】		【班別会場】		
11月11日（水）	受 付	講義・演習2 「学校組織マネジメント②」 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 准教授 大野 裕己 目的：学校組織マネジメントの発想・枠組みについて理解を深めるとともに、組織の環境分析手法の一つであるSWOT分析の基本的手法を習得する	昼 食	事例発表 「特色ある学校運営の取組」 事例発表① 茨城県立牛久米進学高等学校 主査兼事務長 駒場 一吉 事例発表② 群馬県立あさひ特別支援学校 事務長（次長） 須永 利子 目的：特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務職員が持つ課題解決の手がかりを探る	休 憩	演習2 「学校運営を支える事務職員の役割」 〈指導助言者〉 茨城県立牛久米進学高等学校 主査兼事務長 駒場 一吉 群馬県立あさひ特別支援学校 事務長（次長） 須永 利子 目的：学校運営における事務職員の役割について振り返る	

		8:30	11:15	11:30	12:30	14:50	15:05	【分科会別会場】	
11月12日(木)	受付	講義・演習3 「学校組織マネジメント③」 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 笠沙 知章 目的:学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める		演習説明	昼 食	演習3 「学校運営を支える事務職員の役割」 <指導助言者> 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄		【分科会発表】	【分科会別会場】

		8:30	10:40	10:55	12:15	12:35	【講堂】	
11月13日(金)	受付	演習4 「学校運営を支える事務職員の役割」 <指導助言者> 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄 【全体発表】 目的:学校運営における課題に対する改善策等を学ぶとともに、事務職員の役割について理解を深める		休	講義4 「学校組織マネジメントを推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局 視学官 長尾 篤志 目的:学校組織マネジメントを推進するリーダーとなるための課題を整理する	休 (5分)	【演習3・4 指導助言者】 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 事務室長 秋田 剛 茨城県立結城第二高等学校 主査兼事務長 富田 英明 千葉県立船橋法典高等学校 事務長 太田 秀男 茨城県立下妻第一高等学校 事務室長 小澤 京 埼玉県立越谷西高等学校 事務長 大原 三夫	

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第4回）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。						
受 講 対 象	小学校及び中学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う者またはこれらに準じる者であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成28年2月22日（月）～平成28年2月26日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	187	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 320 人、受講者数 308 人、参加率 96.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	163	87.2	23	12.3	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0		187
		186		99.5											

2. 研修内容に関する主な意見

・これまでも学校経営参画については、自分なりに取り組んできたが、今回の研修で、学校組織マネジメントの考え方と手法を学んだことで、今後の業務改善と学校事務職員としての役割の方向性がイメージできた。 ・一日が過ぎていく度に、研修の内容が繋がっている事に気がついた。いろいろな講義をいただいたり演習をしたりと繰り返していく内に、最終目的に近づいている事を実感する事ができた。これが研修マニュアルなのと思った。 ・今まで学校評価という指導面でのものという考え方であまり関わってこなかったもので、積極的に関わっていこうと思った。 ・学校組織マネジメントをわかりやすく教えていただき S W O T 分析も自分の学校を見つめ直すことができた。ただ、事務職員の関わりが時間がなくて聞けなかったのは残念だった。 ・事前作成の資料は、各自の解釈に違いがあったので、具体的な説明が書かれていると良いと思った。 ・「学校は人を育てる場、大人は意識をしないと変えられない。」という話が心に残った。学校という場を豊かにするために事務職員として何をすべきかを考えていきたい。 ・自治体や地域ごとに違う内容の取り組みをしていることを理解できた。他県の事例の中で、本県に生かせる内容を考えながら演習を進めることができた。 ・本研修の目的をふりかえり、自身が「中核」とならなければならないと責任を感じたが、やりがいの感じた。「自分の強みを良い方法に生かす」との話を、班員とセッションする事により新しい自分の良さ、強みを見出せた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・受講者より、演習4の演習時間を長くしてほしいとの意見を踏まえ、演習時間を拡充した。 次年度に向けて ・チーム学校の推進に対応するため、当センター実施の教職員等中央研修に「事務職員研修」を新設する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第4回) 日程表
～小・中学校事務職員～

		9:30	10:00	10:35	11:45	12:45	14:15	14:30	14:45	17:00
		【講堂】		【講堂】		【第二研修棟2階】		【第二研修棟2階】		【第二研修棟2階】
2月22日(月)	受付	オリエンテーション	講義1 「教育改革の動向について」 文部科学省大臣官房審議官 藤原 章夫	昼 休 食 憩	講義2 「学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局 視学官 中尾 敏朗	休 憩	演習説明	演習1 「自校の取組」	休 憩	目的: 他校の特色ある取組について共有する

		9:00	11:45	12:45	17:00
		【第二研修棟2階】		【講堂】	
2月23日(火)	受付	講義3 「信頼される開かれた学校づくりのために」 千葉大学教育学部 教授 天笠 茂	昼 休 食 憩	講義・演習1 「学校組織マネジメント①」 教育改革実践家 杉並区立和田中学校・元校長 藤原 和博	目的: 学校組織マネジメントの実践について理解を深める

		9:00	12:00	13:00	14:50	15:05	17:00
		【第二研修棟2階】		【第二研修棟2階】		【第二研修棟2階】	
2月24日(水)	受付	講義・演習2 「学校組織マネジメント②」 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 准教授 大野 裕己	昼 休 食 憩	事例発表 「特色ある学校運営の取組」 事例発表① 東近江市立八日市南小学校 事務長(主任事務主査) 太田 美須代 事例発表② 新潟市立東山の小学校 事務主幹 松野 千恵美	休 憩	演習2 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 (指導助言者) 東近江市立八日市南小学校 事務長(主任事務主査) 太田 美須代 新潟市立東山の小学校 事務主幹 松野 千恵美	目的: 学校運営における事務職員の役割について振り返る

		8:30	11:15	11:30	12:30	14:50	15:05	17:00
		【第二研修棟2階】		【分科会別会場】		【分科会別会場】		目的: 学校運営における課題に対する解決方法を検討するとともに、今後の学校事務職員の役割を整理する
2月25日(木)	受付	講義・演習3 「学校組織マネジメント③」 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 笠沙 知章	演習説明	昼 休 食 憩	演習3 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 (指導助言者) 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄	休 憩	【分科会発表】	

		8:30	10:40	10:55	11:30	12:15	12:35
		【講堂】		【講堂】		【講堂】	
2月26日(金)	受付	演習4 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 (指導助言者) 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄	【振り返り】	講義4 「学校組織マネジメントを推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局 視学官 長尾 篤志	閉講式	【演習2・3・4 指導助言者】 安博 鳥本 阿部 貴子 荻野 恵美 幸島 克昌 長倉 久登 飯島 由美子 前田 雄仁 福田 誠	

I 研修概要

研 修 名	言語活動指導者養成研修（国語力向上指導者養成研修）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、本研修を踏まえた各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等（特に研究主任や研修主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成27年11月4日（水）～平成27年11月6日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	220	人	受講者数	177	人	参加率 80.5%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)						

※ 全体受講定員 0 人、 受講者数 0 人、 参加率 0.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	163	92.1	14	7.9	0	0.0	0	0.0	177
		177	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・指導要領における言語活動の充実について、本来意図すべきねらいや方法等について具体的に知ることができ、今後に役立てられる研修内容だった。全国の現状を知る良い機会でもあった。 ・コース別演習では、直接教科調査官の講義を受け、単元の学習指導計画作成でも指導・助言を受けながら、研修を進められ大変有意義であった。普段、疑問に思っていることも、的確に助言していただき、今後に生かせる研修になった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・体育の教科を増やした。 ・研修成果活用案の作成について、初日の段階から意識するよう受講者に呼び掛けた。 ・コース名称を「学校全体のアクションプラン作成コース」から「学校全体のカリキュラム・マネジメントのプラン作成コース」に変更した。 次年度に向けて ・分科会ごとに演習の達成度に格差が生じないよう、分科会の指導助言者を通じて進捗状況の管理を徹底する。 ・次年度は秋田県で開催する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度言語活動指導者養成研修（国語力向上指導者養成研修） 日程表

9:15		9:45	10:10	11:00	11:10	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
第1日 1月4日(水)	受付	開講式・オリエンテーション	講義1 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治	休憩	講義・事例発表 「国内外における言語活動の充実に関する取組について」 1. 諸外国における取組 「言語力・コミュニケーション力の育成」受講者 今治市立城東小学校 教諭 カリー・眞理 横浜市立鶴見中学校 教諭 土屋 隆 福岡県立城南高等学校 指導教諭 豊野 育	昼休み	講義2 「国内における取組」 小学校：弘前大学教育学部附属小学校 教諭 浅田 鶴予 中学校：横浜国立大学附属高等学校 校長 正尚 高等学校：岡山県立倉敷南高等学校 校長 山下 陽子 講評：文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 杉本 直美	休憩	研究協議1 「各学校種での言語活動の充実について」 ・小学校部会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 ・中学校部会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 杉本 直美 ・高等学校部会 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 大滝 一登	◎目的：各学校段階における言語活動充実の意義について理解を深め、併せてカリキュラム等を作成する際の手立てを理解する。

9:00		12:00	13:00	17:00
第2日 1月5日(木)	【初等分科会】 国立教育政策研究所 岡山大学大学院教育学研究科 名譽所員 長崎 栄三 准教授 浮田 真弓	【中等分科会】 横浜国立大学 神奈川県大磯町立大磯中学校 神奈川県教育委員会高等学校課 教授 高木 展郎 校長 青木 弘 指導主事 松澤 直子	【各教科等の学習指導計画作成コース】 〔国語〕 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 〔社会〕 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 〔算数〕 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 〔数学〕 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 〔理科〕 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 〔音楽〕 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 〔体育〕 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 〔総合的な学習の時間〕 武庫川女子大学文学部教育学科 講師	◎目的：言語活動の充実に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の先進校の取組を知り、各地域・学校で今後実践していくための方法について理解を深める。

9:00		11:30	12:30	15:00	15:15
全体会 「コース別演習の発表」 講評：コース別演習担当講師		昼 休 み	研究協議2 「言語活動を推進するリーダーとなるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 大滝 一登 前年度受講者 北海道教育庁高校教育課 指導主事 渡部 慶一 島根県立三刀屋高等学校掛分枝 教諭 亀尾 佳宏		
◎目的：第2日のコース別演習での成果を発表し、言語活動の充実方策について理解を深める。		◎目的：各自が本研修の成果等をもとに、研修講師となるための知見を深める。			

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成27年5月18日（月）～平成27年5月22日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	251	人	参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 880 人、 受講者数 854 人、 参加率 97.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	217	33	0	0	0	1	251
割合 (%)	86.5	13.1	0.0	0.0	0.0	0.4	
	250	99.6					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・自分に足りない知識や経験を、先生方と交流することで、増やしていくことができた。道徳の時間の土台となる基礎的なことから、学校に戻ってからすぐに活かそうな実践まで幅広い内容だったので、これを1つでも多く他の先生に伝えていきたいと思った。
- ・道徳がどう変わるのか、その背景からよく分かった。学んだことを生かし、今後の学校訪問等での指導助言に生かしていきたい。
- ・みんなで道徳の時間の授業に取り組むということが大切であり、基本をしっかりとすることを確認することができた。
- ・講義についてはよく理解できたが、教科化に向け、もう少し新しい情報も得られるとよかった。
- ・指導の流れは分かりやすかった。高校としてどう生かすのが課題となった。
- ・講師のプレゼン資料が配布資料と合っていなかったため、深したり、メモしたりすることで精一杯になり、ついていけなかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・「わたし（私）たちの道徳」及び『「わたし（私）たちの道徳」活用のための指導資料』を全受講者に配付した。
- ・講義・演習時間を確保するため、研修2日目以降の研修開始時刻を8時30分からとした。
- ・受講者に、体験活動に関する授業の重要性を確保するため、事例発表の体験活動は、小学校の事例発表をした後、体験活動の講義という流れにした。
- ・受講者同士がお互いの学校や地域の実態がわかるよう事前課題を冊子として配付することとした。

次年度に向けて

- ・「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設する。
- ・「わたし（私）たちの道徳」に関する内容は高等学校の受講者には不向きなため、高等学校の受講者を対象とした講義を新設する。
- ・「体験活動や実践活動を通した道徳教育」は、道徳教育との関連を明確にした内容に充実するため、講義時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）
日程表

日程表											
【1日目】	9:00	9:40	10:20	11:00	11:15	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00	
5月18日 (月)	受付	開講式	オリエンテーション	行政説明 「道徳教育の充実について」	休憩	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」	屋食・休憩	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達の段階に応じた指導内容の重点化－」	17:00	
				文部科学省初等中等教育局教育課程課 課長補佐 美濃 亮	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 澤田 浩一	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 澤田 浩一					
◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める											
2日目	8:30	10:35	10:50	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00			
5月19日 (火)	受付	事例発表・協議・講義 「体験活動や実践活動を通して道徳教育」【授業づくりの要点1】	休憩	講義2 「わたし（私）たちの道徳を生かした道徳教育の推進」	屋食・休憩	講義3 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」【授業づくりの要点2】	休憩	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」	17:00		
		〈講師〉 國學院大學 教授 杉田 洋 熊本市立大江小学校 教頭 平野 修 同 教諭 中島 尚子	東京家政学院大学 教授 長谷 徹	東京学芸大学 教授 永田 繁雄	小学校：群馬県館林市立第六小学校 教諭（研究主任） 小林 智恵 中学校：前橋本市立出水南中学校 教諭（研究主任） 桃崎 佐知子						
◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解を深める											
3日目	8:30	9:25	9:35	10:45	11:00	12:30	13:30	15:55	16:10	17:00	
5月20日 (水)	受付	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（概説、わたし（私）たちの道徳の在り方）」 【授業づくりの要点3】	休憩・移動	講義4 「道徳の時間」の充実を図るために【授業づくりの要点4】	屋食・休憩	演習3 「道徳の授業づくり（参加的な読解と話し合い）」 【授業づくりの要点5】	休憩	17:00			
		◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成について理解を深め、課題とその解決策を探る 〈演習2・3指導助言者〉 全国小学校道徳教育研究会 顧問 馬場 喜久雄 さいたま市芝川小学校 校長 藤澤 美智子 杉並区立小中一貫教育校杉並和泉学園 指導教授 福田 鉄雄 三鷹の森学園三鷹市立第三中学校 校長 賞雅 枝子	◎目的：「道徳の時間」について理解を深め、授業改善への視座を得る。	◎目的：魅力ある教材の開発と活用等、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法及び評価の在り方について理解を深め、課題とその解決策を探る							
高等学校 部会	8:30	10:00	10:15	11:30	12:30	14:00	14:15	15:45	16:00	17:00	
受 付	講義4 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」	屋食・休憩	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	休憩	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	休憩	全体会・演習のまとめ	17:00		
	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	岡山県立邑久高等学校 教諭 矢野 祥子	兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明								
◎目的：具体的事例をとおして、高等学校における道徳教育の充実に向けた新たな視点をもつ 方について理解を深める											
◎目的：全体計画等の検討を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る											

【4日目】

5月21日（木）	小・中学校部会	8:30	12:30	13:30	13:40	17:00		
	受付	演習4-1 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅰー学習指導案の作成・検討ー」 ◎目的：「道徳の時間」における学習指導案作成等に取り組むことを通して、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方を学ぶ	屋食・休憩	会場準備	演習4-2 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅱー模擬授業の発表・協議ー」 ◎目的：各分科会ごとに模擬授業を行い、「道徳の時間」の授業における創意工夫の在り方等について理解を深める			
	〈演習4-1・4-2 指導助言者〉 明星大学 特任准教授 大原 龍一 国分寺市立第四小学校 校長 古屋 真宏 練馬区立光が丘春の風小学校 校長 福田 純子 荒川区立ひぐらし小学校 校長 山本 洋 法政大学教育課程研究センター市ヶ谷相談室 相談指導員 木村 俊二 高知大学教育学部 准教授 田邊 重任 元相模原市立相模丘中学校 校長 藤村 公三郎 幸手市教育委員会 教育長 山西 実							
高等学校部会	受付	8:30	8:40	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
	演習	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の改善策・展開例の検討ー」	屋食・休憩		休憩	演習4-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅱー全体計画等の改善策・展開例の発表・協議ー」		
	説明	兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明 ◎目的：全体計画等の検討および発表をとおして、高等学校における道徳教育を充実するための知識・方法を得る						

【5日目】

5月22日 (金)	8:30	11:30	12:30	15:00
受 付	演習 4-3 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅲ-代表班による模擬授業の発表・協議-」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 澤田 浩一	屋 食 ・ 休 憩	講義 5 「道徳教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 澤田 浩一 ◎目的：本研修を振り返り、研修成果をまとめる中で、道徳教育を推進するリーダーとしての知見を深める	閉 講 式
	(小・中部会) ◎目的：各分科金の代表班が模擬授業を行い、「道徳の時間」の充実に向けた指導の展開方策について理解を深める (高校部会) ◎目的：小・中学校における「道徳の時間」の授業の実際について理解を深める			

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（北海道・東北ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第二グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成27年8月31日（月）～平成27年9月2日（水）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	86	人	参加率
開 催 場 所	山形テルサ（山形県山形市）他						

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 854 人、参加率 97.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計				
		大変有意義	概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	69	80.2	15	17.4	0	0.0	0	0.0	2	2.3	0	0.0	86
		84	97.7											

2. 研修内容に関する主な意見

・「特別な教科道徳」に向けて、「なぜ」求められているのか「何がどう変わるのか」を学ぶことができた。それを踏まえ実施上の課題と改善について演習を通して他県の先生方と、交流することができた。特質を生かした授業づくりを考えていきたいと思った。
・自分が提出した指導案を、グループの先生方や指導・助言して下さった先生のアドバイスをいただきながら、作り直すことができたことが、大変ありがたかった。先生方のアドバイスのおかげで、中心発問、資料提示のしかた、役割演技のさせ方など、すっきりした流れになった。
・道徳推進教師として、自校で取り組むべきことが明確になった。具体案を見てイメージができ、活用したいと思った。多くの先生方と関わり、様々な指導法を知り、「ひき出し」「アイディア」が増えたので、自校、地区でも広めたいと思った。
・これまでの自分の実践をふり返ったり、これからの方向性について考えることができたりと貴重な研修となった。この3日間の成果を今後につなげていきたいと思った。
・小、中、高の教員が一緒になって話し合うことにはすごく意義があった。指導内容の重点化というテーマは小、中、高一緒だとやや難しいと感じた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・「わたし（私）たちの道徳」及び『「わたし（私）たちの道徳」活用のための指導資料』を全受講者に配付した。
・演習の協議時間を確保するために、（中央研修同様に）ワークシートによる事前課題を受講者に課すこととした。
次年度に向けて
・「特別な教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設する。
・「体験活動や実践活動を通した道徳教育」は、道徳教育との関連を明確にした内容に充実するため、講義時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【北海道・東北ブロック】

日 程 表

		9:20	9:50	10:30	11:10	12:30	13:30	14:45	15:00	15:15	17:00
8月31日（月）	受付（山形テルサ）	オリエンテーション		行政説明 「道徳の『特別の教科』化をめぐる動向について」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 課長補佐 美濃 亮		講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 赤堀 博行		講義2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 國學院大學 教授 杉田 洋		演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 赤堀 博行	
	開 講 式	休 憩		◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める		◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義と役割について理解する		◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ			
		休 憩									
9月1日（火）	受付（山形テルサ）	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 庄内町立立川小学校 教諭 松田 妙子 教諭 本間 活人 埼玉県北本市立北本中学校 教諭 沢口 裕		演習2-1 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討①－」 ＜指導助言者＞ 山形市立みはらの丘小学校 教頭 樋口 潤一 最上町立赤倉小学校 教頭 石川 周 酒田市立第四中学校 教頭 高橋 健 南陽市立赤湯中学校 教諭 矢野 斉		休 憩		演習2-2 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討②－」 ＜指導助言者＞ 山形市立みはらの丘小学校 教頭 樋口 潤一 最上町立赤倉小学校 教頭 石川 周 酒田市立第四中学校 教頭 高橋 健 南陽市立赤湯中学校 教諭 矢野 斉		発表・協議	
		◎目的：具体的事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ		◎目的：「道徳の時間」における学習指導案の作成および部会内で発表を行うことを通して、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める		◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識、方法を得る		◎目的：各地域で道徳教育推進教頭を養成するのために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる			
		高等 学校 部 会		高等 学校 部 会		高等 学校 部 会		高等 学校 部 会		高等 学校 部 会	
9月2日（水）	受付（市民会館）	講義3 「『私たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 全国小学校道徳教育研究会 顧問 馬場 喜久雄		演習3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 澤田 浩一		休 憩		講義4 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 澤田 浩一		閉 講 式	
		◎目的：「私たちの道徳」のねらいと活用方法等について、執筆から具体的に学ぶ		◎研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の生かし方について理解を深める		◎目的：道徳教育の充実を図るリーダーとして、道徳教育の推進方策について理解を深める		◎目的：道徳教育の充実を図るリーダーとして、道徳教育の推進方策について理解を深める			
		高等 学校 部 会		高等 学校 部 会		高等 学校 部 会		高等 学校 部 会		高等 学校 部 会	

※日種等について変更することがあります

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第二グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成27年8月24日（月）～平成27年8月26日（水）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	112	人	参加率
開 催 場 所	神奈川県産業振興センター（神奈川県横浜市）						

※ 全体受講定員 880 人、 受講者数 854 人、 参加率 97.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	98	87.5	14	12.5	0	0.0	112
		112	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳の教科化にあたり、現場の先生方からも、さまざまな質問を受けたり、授業を見てほしいなどの声をいただいたりする中で、この研修はとてもタイムリーで得るものが多かった。教えていただいたことを整理し活かしていきたいと思った。 ・2日目の指導案づくりがとても有意義だった。道徳の指導案を共同立案することは初めてだったので、他の先生方がどのような思考プロセスをとって作成しているのかを知ることができ参考になった。学校教育全体で取り組む道徳と、教科となる道徳の関係をおさえ、今後の指導に生かしたいと思った。 ・現場にいと忙しく答申などを読む機会が持てなかったりする中で、じっくりと国の政策について学習し、道徳のことについて学ぶことができた。また、指導案作成など実践的研修もとても有意義だった。 ・改訂された道徳教育、道徳科の解説書が完成してからの研修であったので、道徳教育の授業における問題解決的な学習等についての疑問を解決することができた。 ・若い先生が多い自校での研修をこの形でやっていこうと計画を立てていたので、とても参考になった。道徳の評価、教科化になった時、通知表にどのように反映していくのかも知りたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ 「わたし（私）たちの道徳」及び『「わたし（私）たちの道徳」活用のための指導資料』を全受講者に配付した。 - 演習の協議時間を確保するために、（中央研修同様に）ワークシートによる事前課題を受講者に課すこととした。 次年度に向けて 「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設する。 「体験活動や実践活動を通した道徳教育」は、道徳教育との関連を明確にした内容に充実するため、講義時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【関東・甲信越ブロック】

日 程 表

	9:20	9:50	10:30	11:10	12:30	13:30	14:30	14:45	17:00
8月24日（月）		受付	オリエンテーション	行政説明 「道徳の『特別の教科』化をめぐる動向について」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長補佐 美濃 亮	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	講義2 「『私たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

	9:00	10:35	10:50	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
8月25日（火）	受付	小・中学校部会	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 横浜国立大学第二小学校 主幹教諭 松比良 聡夫 相模原市立田野台中学校 教諭 納屋 和幸	演習2-1 「子供の心に響く道徳教育の実践——学習指導案の作成・検討①——」 ＜指導助言者＞ 大井町立上大井小学校 教頭 大久保 芳恵 綾瀬市立玉台小学校 教頭 小倉 恵子 平塚市立大野中学校 教頭 瀬屋 直樹 横須賀市教育委員会学校教育指導課 指導主事 海野 功子	屋食・休憩	演習2-2 「子供の心に響く道徳教育の実践——学習指導案の作成・検討②——」 ＜指導助言者＞ 大井町立上大井小学校 教頭 大久保 芳恵 綾瀬市立玉台小学校 教頭 小倉 恵子 平塚市立大野中学校 教頭 瀬屋 直樹 横須賀市教育委員会学校教育指導課 指導主事 海野 功子	休憩	発表・協議
		高等学校部会	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	演習2-1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ 神奈川県立旭高等学校 総括教諭 長瀬 俊久 教諭 佐藤 陽亮 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	屋食・休憩	演習2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	休憩	発表・協議
		◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る						

	9:00	10:15	10:30	12:30	13:30	15:00	15:15	
8月26日（水）	受付	講義3 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 國學院大学 教授 杉田 洋	演習3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	屋食・休憩	講義4 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式		

※日曜等について変更することがあります

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（東海・北陸ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第二グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成27年10月21日（水）～平成27年10月23日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	122	人	参加率
開 催 場 所	じゅうろくプラザ（岐阜県岐阜市）						

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 854 人、参加率 97.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	100	82.0	22	18.0	0	0.0	122
		122	100.0	0	0.0	0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・事前課題があることで、じっくりと道徳について考えたこと、そして、作成時に悩んだ点について調査官から解決につながる知見を得ることができたことが有意義であった。また、事例発表は、実際に道徳を校内で確実に意識し、意図的に行っていくための工夫が、紹介されていて、参考となる点が多かった。
・特に、「特別の教科道徳」への経緯や主旨を講義頂けたことが大変勉強になった。学習指導要領及び解説の解釈の、特に注目していくべき点や、重きをおいて、指導にあたるべき点を明解に示して頂けたことがありがたかった。
・他県の道徳の実践状況について交流でき参考にすることができた。指導案の作成については、様々な考えを聞くことができ学ぶことができた。また研修プランの作成では効果的なプランについて交流でき、今後に生かすことができる見通しを持つことができた。
・道徳教育の研修を進めるための基本となる教材のこと、指導計画のこと、発問等のことが詳しくわかった。指導助言の際に参考になることが多く、活用していきたいと思った。
・話し合いを深めるためには、特別支援学校のグループがあってもよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・「わたし（私）たちの道徳」及び『「わたし（私）たちの道徳」活用のための指導資料』を全受講者に配付した。
・演習の協議時間を確保するために、（中央研修同様に）ワークシートによる事前課題を受講者に課すこととした。
次年度に向けて
・「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設する。
・「体験活動や実践活動を通した道徳教育」は、道徳教育との関連を明確にした内容に充実するため、講義時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【東海・北陸ブロック】

日程表

	9:20	9:50	10:30	11:10	12:30	13:30	14:30	14:45	17:00
10月21日（水）		受付	オリエンテーション	行政説明 「道徳の『特別の教科』化をめぐる動向について」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長補佐 美濃 亮	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	講義2 「『私たちの道徳』の推進」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

	9:00	10:35	10:50	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
10月22日（木）	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 瑞穂市立本田小学校 教諭 大羽 淳也 立山町立雄山中学校 教諭 遠藤 利恵	休憩	演習2-1 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討①－」 ＜指導助言者＞ 多治見市立小泉小学校 教頭 五藤 政志 高山市立松倉中学校 教頭 砂田 直彦 坂祝町立坂祝中学校 教頭 臼田 伸幸 高山市立清見小学校 教頭 高木 聡	昼食・休憩	演習2-2 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討②－」 ＜指導助言者＞ 多治見市立小泉小学校 教頭 五藤 政志 高山市立松倉中学校 教頭 砂田 直彦 坂祝町立坂祝中学校 教頭 臼田 伸幸 高山市立清見小学校 教頭 高木 聡	休憩	発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育的な教材研究・実践」 ＜指導助言者＞ 文京学院大学 教授 小泉 博明	発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育的な教材研究・実践」 ＜指導助言者＞ 文京学院大学 教授 小泉 博明

	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	
10月23日（金）	講義3 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 國學院大学 講師 元文部科学省初等中等教育局 視学官 宮川 八岐	休憩	演習3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	昼食・休憩	講義4 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式		

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（近畿ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第二グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成27年7月21日（火）～平成27年7月23日（木）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	93	人	参加率
開 催 場 所	ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター）（滋賀県大津市）						

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 854 人、参加率 97.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	74	79.6	19	20.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	93	
		93		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳教育の動向から、実践事例まで充実した内容だった。演習の時間に他校の先生といろいろ協議できたことも有意義だった。 ・講義も演習も道徳教育を進める上で大切な内容ばかりで大変勉強になった。演習のグルーピングも毎回他府県、他校種の方となるように工夫していただき、いろいろな先生方と交流できたのがよかった。 ・新教科「公共」の検討についても触れてほしかった。 ・講義のあとの質疑の時間がほしかった。 ・研修プランの作成交流を通し、個々人が課題（学校・市・県府がかかえるもの）に向きあい、道徳教育を広める意志を感じた。今後の自分の研修のあり方の参考にもなった。 ・質問や疑問がたくさんあったが、なかなか発言できる場面、時間がなかった。講義のあと時間をとってほしかった。 ・特別な教科道徳について、理解を深められたこと、平成30年度に向けて何を準備すべきか等具体的に学ぶことができた。また、指導案作成にあたり、道徳教材について、授業の効果的な進め方について検討でき、様々な考え方を学ぶことができた。 ・授業づくりの基本的ポイントについて、先に確認（講義）してから演習に入りたかった。持ち帰って伝達する際のことを示してほしかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「わたし（私）たちの道徳」及び『「わたし（私）たちの道徳」活用のための指導資料』を全受講者に配付した。 ・演習の協議時間を確保するために、（中央研修同様に）ワークシートによる事前課題を受講者に課すこととした。 次年度に向けて ・「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設する。 ・「体験活動や実践活動を通した道徳教育」は、道徳教育との関連を明確にした内容に充実するため、講義時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【近畿ブロック】

日程表

		9:20	9:50	10:30	11:00	11:10	12:30	13:30	14:30	14:45	17:00
7月21日（火）	受付	オリエンテーション		行政説明 「道徳の「特別の教科」化をめぐる動向について」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長補佐 美濃 亮	休憩	講義 1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	昼食・休憩	講義 2 「『私たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	休憩	演習 1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ
	開講式	◎目的：「私たちの道徳」のねらいと活用方法等について、執筆から具体的に学ぶ									

		9:00	10:35	10:50	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00	
7月22日(水)	受付	小・中学校部会	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 草津市立矢倉小学校 教諭 福井 裕子 湖南市立石部中学校 教諭 宇氣 早苗	休憩	演習2-1 「子供の心に響く道徳教育の実践—学習指導案の作成・検討①—」 ＜指導助言者＞ 愛荘町立泰荘東小学校 校長 岸邊 秀子 長浜市立西中学校 教諭 横尾 俊美 草津市立浜川小学校 教諭 上原 惣士 彦根市立南中学校 教頭 加藤 三男	昼食・休憩	演習2-2 「子供の心に響く道徳教育の実践—学習指導案の作成・検討②—」 ＜指導助言者＞ 愛荘町立泰荘東小学校 校長 岸邊 秀子 長浜市立西中学校 教諭 横尾 俊美 草津市立浜川小学校 教諭 上原 惣士 彦根市立南中学校 教頭 加藤 三男	休憩	発表・協議	
		高等学校部会	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 岡山県立邑久高等学校 教諭 矢野 祥子 ＜指導助言者＞ くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	昼食・休憩	演習2-1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	演習2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 ＜指導助言者＞ くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	休憩	発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」
		◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を修得		◎目的：「道徳の時間」における学習指導案の作成および部会内で発表を行うことを通して、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める						

		9:00	10:15	10:30	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
7月23日（木）	受付	講義3 「体験活動や実践活動を通して道徳教育」 國學院大学 教授 杉田 洋	休憩	演習3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	昼食・休憩	講義4 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式		
		◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する		◎研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の生かし方について理解を深める		◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる			

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（中国・四国ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第二グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成27年10月7日（水）～平成27年10月9日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	104	人	参加率
開 催 場 所	広島YMCA国際文化センター（広島県広島市）						

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 854 人、参加率 97.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	81	77.9	23	22.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	104	
		104		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・学校で道徳教育を推進していくための中核教員の養成や、これから増えてくる若手教員の育成、指導主事として、道徳教育推進の枠組みをどう作るかなど、考えていかなければいけないことも多くあった。また、道徳教育の本質についても考えさせられることも多くあり、大変参考になった。 ・特に2日目の演習2では一つの資料をみんなでじっくりと分析し、話し合うことができ、とても有意義で楽しかった。普段の授業では、こんなに時間をかけて教材研究をすることもなく、とても勉強になることがたくさんあった。 ・教科化に向けて大切なことを教えていただいたり、これから道徳教育を進めていく上での課題を持つことができ、とても勉強になった。他の県の先生方やいろいろな年代の先生方と交流することができ、指導方法やワークシート等の活用について教えていただいたので、実践につなげていきたい。 ・各教科・領域等の様々な場面で活用できるということが、具体的な事例紹介を示していただけたので大変わかりやすかった。 ・校種が違うためか、協議がやりにくかった。しかし、校種の違いによる授業の実態、児童の実態などが理解でき、協議できたことはよかった。 ・同じ資料で違う指導方法の指導案を比較することができ、指導法の多様性について考えることができた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「わたし（私）たちの道徳」及び『「わたし（私）たちの道徳」活用のための指導資料』を全受講者に配付した。 ・演習の協議時間を確保するために、（中央研修同様に）ワークシートによる事前課題を受講者に課すこととした。 次年度に向けて ・「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設する。 ・「体験活動や実践活動を通した道徳教育」は、道徳教育との関連を明確にした内容に充実するため、講義時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【中国・四国ブロック】

日程表

	9:20	9:50	10:30	11:10	12:30	13:30	14:30	14:45	17:00
10月7日（水）	受付	開講式	オリエンテーション	行政説明 「道徳の『特別の教科』化をめぐる動向について」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長補佐 美濃 亮	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	講義2 「『私たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

	9:00	10:35	10:50	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
10月8日（木）	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 三次市立川地小学校 教諭 山田 剛嗣 大阪教育大学附属天王寺中学校 教諭 荊木 聡	休憩	演習2-1 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討①－」 ＜指導助言者＞ 広島県西部教育事務所芸北支所 指導主事 熊野 尚子 広島県立教育センター 指導主事 中野 詠美子 広島県西部教育事務所 指導主事 相星 美智子 広島県東部教育事務所 指導主事 瀨尾 英寿	昼食・休憩	講義2-2 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討②－」 ＜指導助言者＞ 広島県西部教育事務所芸北支所 指導主事 熊野 尚子 広島県立教育センター 指導主事 中野 詠美子 広島県西部教育事務所 指導主事 相星 美智子 広島県東部教育事務所 指導主事 瀨尾 英寿	休憩	発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 ＜指導助言者＞ くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	◎目的：具体的事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ
高等学校部会	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 広島県立河内高等学校 教諭 川原 栄治 ＜指導助言者＞ くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	昼食・休憩	演習2-1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	演習2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 休憩	発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 ＜指導助言者＞ くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知論・方法を得る

	9:00	10:15	10:30	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
10月9日（金）	講義3 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 國學院大学 教授 杉田 洋	休憩	演習3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	昼食・休憩	講義4 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式		◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が研修の成果等をまとめる

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（九州ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第二グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成27年10月28日（水）～平成27年10月30日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	86	人	参加率
開 催 場 所	沖縄県市町村自治会館（沖縄県那覇市）						

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 854 人、参加率 97.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	80	93.0	6	7.0	0	0.0	86
		86	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳の時間における指導のポイント（特にねらいの具体化の大切さ）、道徳の時間の指導と、体験や特別活動と響かせるポイント（特に同じ視点で貫く、子どもに任せる）がよく分かった。 ・他県の先生方とのつながり、そして先生方の情熱が、とても刺激となった。 ・特別の教科に関する最新の情報を知ることができてよかった。 ・学校目標のもと設定された道徳教育の重点目標が、学校、地域の実態、課題に沿ったものか、今一度各校の検証の必要性を感じた。 ・高校教育において道徳教育を導入する方法として、社会や数学を用いての用例説明があった。的を絞って聞くことができず、理解が難しかった。 ・適度の人数で話し合いを進められ、深いところまでつっこんだ議論ができた。道徳についての実践方法がいろいろあることを知り、大変参考になった。実力がバラバラだったのも刺激になってよかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「わたし（私）たちの道徳」及び『「わたし（私）たちの道徳」活用のための指導資料』を全受講者に配付した。 ・演習の協議時間を確保するために、（中央研修同様に）ワークシートによる事前課題を受講者に課すこととした。
次年度に向けて ・「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設する。 ・「体験活動や実践活動を通した道徳教育」は、道徳教育との関連を明確にした内容に充実するため、講義時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【九州ブロック】

日 程 表

	9:20	9:50	10:30	11:10	12:30	13:30	14:30	14:45	17:00
10月28日（水）		受 付	オリエンテーション	行政説明 「道徳の『特別の教科』化をめぐる動向について」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長補佐 美濃 亮	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解を深める	昼食・休憩	講義2 「『私たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：「私たちの道徳」のねらいと活用方法等について、執筆から具体的に学ぶ	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

	9:00	10:35	10:50	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
10月29日（木）	受 付	高等学校部会 事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 石垣市立真喜良小学校 教諭 渡那 美和子 愛媛県西条市立河北中学校 校長 坂井 範治 ◎目的：具体的事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	休憩	演習2-1 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討－①」 ＜指導助言者＞ 那覇教育事務所 主任指導主事 松田 敦子 沖縄市立諸島小学校 教頭 天願 直光 八重瀬町立具志頭中学校 校長 上江洲 毅 南城市立大里中学校 校長 諸見里 龍	昼食・休憩	演習2-2 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討－②」 ＜指導助言者＞ 那覇教育事務所 主任指導主事 松田 敦子 沖縄市立諸島小学校 教頭 天願 直光 八重瀬町立具志頭中学校 校長 上江洲 毅 南城市立大里中学校 校長 諸見里 龍	休憩	発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸
10月30日（金）	受 付	高等学校部会 高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 ◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 茨城県立水戸南高等学校 教諭 長島 利行 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	昼食・休憩	演習2-1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	休憩	演習2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸

	9:00	10:15	10:30	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
10月30日（金）	受 付	講義3 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 國學院大学 教授 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	休憩	演習3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 教科調査官 澤田 浩一 ◎研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の生かし方について理解を深める	昼食・休憩	講義4 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉 講 式	

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研 修 名	学校教育の情報化指導者養成研修（第1回）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を推進することが重要である。 このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び学校教育の情報化推進の指導者としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成27年10月27日（火）～平成27年10月30日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	77	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 157 人、 参加率 142.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	74	96.1	3	3.9	0	0.0	0	0.0	77
		77	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・学校教育の情報化について、必要性や学習指導、校務、能力の育成、家庭での連携など様々な角度から研修することで、具体的イメージと課題、これからの方向性を見つけることができた。また、指導者として何を行うべきなのかを考え、リーダーとしての意識を高めることができた。
・伝達に必要な知識を体系立てて、理解することができた。ワークショップ等、話し合ったり、書いたりする時間が適切に設定されていたので集中力が続いた。
・具体的な例が多く、即実践できそうな演習が数多くありとても有意義であった。また、他道府県の実状を聞くことができたのも価値が高かった。今後は、ここで学んだことをどのようにして地域に広めていくかを管理職と相談して、自己研鑽していきたいと思った。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・3日目「情報教育による情報活用能力育成のための指導」、4日目「学校教育の情報化を推進するリーダーとして」が時間が足りないため、各日の開始時間を30分早め、講義時間を30分増やした。
次年度に向けて ・「情報の科学的な理解を深めるための指導」と「学校教育の情報化を推進する研修の企画と運用」のコマを新設し、研修日数を4日間から5日間に変更する予定。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 学校教育の情報化指導者養成研修（第1回） 表（案） 程 日

1日目

第一回 10月27日 〈火〉	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「新しい時代における学校教育の情報化」 ◎目的：中央教育審議会等で議論されている学習指導要領改訂などの教育改革の方向性を見据え、現状と課題を踏まえた学校教育の情報化推進方策を検討する。 講師：文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 新津 勝二	昼休み	講義2 「国内外における学校教育の情報化の取組」 ◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例とあわせて情報化推進の参考になるポイントを理解する。 講師：関西大学 教授 黒上 晴夫	休憩	演習 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 ◎目的：各地域の学校教育の情報化に関する取組について情報交換することにより、課題を共有する。 センター主任指導主事

2日目

第一回 10月28日 〈水〉	9:00	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00
	連絡事項	講義・事例発表・演習1 「教科指導におけるわかりやすい授業づくりのためのICT活用」 ◎目的：各教科等の学習目標を達成するために、ICTを効果的に活用した授業改善のあり方を検討する。 講師：東京学芸大学 准教授(前 富山大学 准教授) 高橋 純 事例発表：札幌市立幌西小学校 教諭 聡史 山形県 米沢市立第二中学校 教諭 金 隆子	昼休み	休憩	講義・事例発表 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 ◎目的：校務の情報化によって実現する望ましい学校組織について学び、校務の情報化推進方策について検討する。 講師：宮崎大学 教授 新地 辰朗 事例発表：鹿児島大学 講師 山本 朋弘 (前 熊本県教育庁 教育政策課 主幹)	17:00

3日目

第一回 10月29日 〈木〉	8:30	12:30	13:30	14:30	15:00	17:00
	連絡事項	講義・事例発表・演習2 「情報教育による情報活用能力育成のための指導」 ◎目的：情報教育によって児童生徒に身につけさせる「情報活用能力」を理解し、情報活用能力を身につけさせるためにどのような学習活動を行えばいいのかについて検討する。 講師：東北学院大学 准教授 稲垣 忠 事例発表：岡山大学教育学部附属中学校 教諭 高田 誠	昼休み	講義・事例発表・演習3 「学校における情報モラル教育と地域・家庭との連携」 ◎目的：情報モラル（情報セキュリティに関する教育を含む）に関する指導のあり方を理解し、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方策や学校の指導計画への位置づけについて検討する。 講師：金城学院大学 教授 長谷川 元洋 事例発表：創造教育研究所 代表(前 札幌市立平岡中学校 教諭) 尾崎 康	休憩	17:00

4日目

第一回 10月30日 〈金〉	8:30	11:30	12:30	14:00	15:00	15:15
	連絡事項	講義・事例発表・演習4 「学校教育の情報化推進のためのICT戦略づくり」 ◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等のリーダーシップのもとに教職員が一丸となって取り組む体制をどう構築するかの戦略を考える。協議を踏まえ、学校改革のためのICT活用の戦略について発表する。 講師：横浜国立大学 教授 野中 陽一 事例発表：熊本県山江村立山田小学校 校長 藤本 誠一	昼休み	課題協議 「学校教育の情報化を推進するリーダーとして」 ◎目的：学校教育の情報化を推進するリーダーとなるための力量と意欲を高める。 講師：鹿児島県教育庁 義務教育課 主任指導主事 辻 慎一郎 (元 教員研修センター 教育課題研修課主幹)	閉講式	15:15

I 研修概要

研 修 名	学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を推進することが重要である。 このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び学校教育の情報化推進の指導者としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成28年1月26日（火）～平成28年1月29日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	80	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 157 人、 参加率 142.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	75	93.8	4	5.0	1	1.3	0	0.0	80
		79	98.8							

2. 研修内容に関する主な意見

・ここで学んだことを、今後生かしていきたい。他県の方々と意見や情報を交換することが、とても刺激となり、より積極的に情報に関する知識を深めていかなければならないと感じた。ただ、スケジュールがタイトだったので、もう少しゆとりある内容、ワークショップでもよいと感じた。
・県外のネットワークの現状を知ることができ、大変参考になった。また、ICTを推進する意味、方法も学べ、具体的に理解ができた。県内のみの情報で当たり前だと思っていたことが、そうではなかったという部分が多くあり、視野が広がった。
・今年度、情報教育担当として、機器整備も含めて、これからの計画を立てていく中で、大変有効な情報を得ることができた。講師の方、参加者の方との関係をこれからも続け、自分の支えとしたい。焦せられないようにしながらも、現場が助かるような取組を早く起こしたい。
・他県の様子や考え方がわかり、今後の指導に自信ができました。ハード面の変化は、とても速く、先を見通したものにするのは難しいと思っていたが、まず改善に取り組むことが大切だということが分かった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・3日目「情報教育による情報活用能力育成のための指導」、4日目「学校教育の情報化を推進するリーダーとして」が時間が足りないため、各日の開始時間を30分早め、講義時間を30分増やした。
次年度に向けて
・「情報の科学的な理解を深めるための指導」と「学校教育の情報化を推進する研修の企画と運用」のコマを新設し、研修日数を4日間から5日間に変更する予定。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）
表 変 更 版

1日目

9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
第2回 1月26日 <火>	開 講 式	オリエンテーション	【座席表1】 「新しい時代における学校教育の情報化」 ◎目的：中央教育審議会で議論されている学習指導要領改訂などの教育改革の方向性を見据え、現状と課題を踏まえた学校教育の情報化推進方策を検討する。。 講師：文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長 新津 勝二	休 休 休 【座席表2】 「各地域における学校教育の情報化の現状と課題」 ◎目的：各地域の学校教育の情報化に関する取組について情報交換することにより、課題を共有する。 センター主任指導主事	休 憩	【座席表2】 「国内外における学校教育の情報化の取組」 ◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例とあわせて情報化推進の参考になるポイントを理解する。 講師：東京学芸大学 准教授 高橋 純	

2日目

9:00	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00
第2回 1月27日 <水>	【座席表3】 「教科指導におけるわかりやすい授業づくりのためのICT活用」 ◎目的：各教科等の学習目標を達成するために、ICTを効果的に活用した授業改善のあり方を検討する。 講師：東京学芸大学 准教授 高橋 純 事例発表：札幌市立幌西小学校 教諭 矢野 聡史 山形県 米沢市立第二中学校 教諭 金 隆子	休 休 休	休 憩	【座席表4】 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 ◎目的：校務の情報化によって実現する望ましい学校組織について学び、校務の情報化推進方策について検討する。 講師：宮崎大学 教授 新地 辰朗 事例発表：鹿児島大学 講師 山本 朋弘	

3日目

8:30	12:30	13:30	17:00
第2回 1月28日 <木>	【座席表5】 「情報教育による情報活用能力育成のための指導」 ◎目的：情報教育によって児童生徒に身につけさせる「情報活用能力」を理解し、情報活用能力を身につけさせるためにどのような学習活動を行えばいいのかについて検討する。 講師：東北学院大学 准教授 稲垣 忠 事例発表：岡山大学教育学部附属中学校 教諭 高田 誠	休 休 休	【座席表6】 「学校における情報モラル教育と地域・家庭との連携」 ◎目的：情報モラル（情報セキュリティに関する教育を含む）に関する指導のあり方を理解し、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方策や学校の指導計画への位置づけについて検討する。 講師：金城学院大学 教授 草谷川 元洋 事例発表：創造教育研究所 代表(前) 札幌市立平岡中学校 教諭 尾崎 康

4日目

8:30	11:30	12:30	14:00	15:00	15:15
第2回 1月29日 <金>	【座席表1】 「学校教育の情報化推進のためのICT戦略づくり」 ◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等のリーダーシップのもとに教職員が一丸となって取り組む体制をどう構築するか戦略を考える。協議を踏まえ、学校改革のためのICT活用戦略について発表する。 講師：横浜国立大学 教授 野中 陽一 事例発表：東京都墨田区教育委員会 庶務課 教育情報担当 主査 宮崎 隆 教育情報担当 渡部 昭	休 休 休	【座席表7】 課題協議 「学校教育の情報化を推進するリーダーとして」 ◎目的：学校教育の情報化を推進するリーダーとなるための力量と意欲を高める。 講師：鹿児島県教育庁 義務教育課 主任指導主事 辻 慎一郎	閉 講 式	

※ 4日目の班編制は、終日、1日目午後の講義2、演習と同じ班となります

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【管理者用コース】						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各地域・学校において本研修の成果を活用できる者						
開 催 期 日	平成27年6月9日（火）～平成27年6月10日（水）					2日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	45	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 121 人、 参加率 110.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	38	84.4	7	15.6	0	0.0	0	0.0	45
		45	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・外国人児童生徒の日本語指導については、具体的な評価が行えないままであったが、DLA（日本語能力測定方法）を導入することでその解決ができそうである。また、児童への指導のあり方や校内の組織について見直すヒントをたくさんいただくことができた。
・国の施策については、学校現場において聞く機会がなかった。どのような方向性で国が本研修の内容を位置づけているのかを理解することができた。
・JSLカリキュラム（教科と日本語の統合型の学習プログラム）が日本語指導だけでなく、日常の授業改善という視点で非常に有効な手段であると感じた。特別な指導という捉え方ではなく、子供を中心に据えた授業改善という意識を持っていきたい。
・外国人児童生徒の教育として、「共生教育」の必要性を感じた。現在まで、日本社会に同化する方向で指導していた傾向が強かったが、講師のお話から共生教育の重要性、指導者の授業改善の必要性を感じた。
・個々にレベルが違う子供たちがたくさんいる中で、計画、実行する現場は難しい面も多かった。
・DLA（日本語能力測定方法）の講義は概要がよくわかり、先生の説明も明確で理解できた。しかし、実践的に学びたかったので、講義の中で演習の要素がないのがとても残念だった。
・通常ならば、決まっている学習内容や年間計画を一から設定することは、大変であるが、いつ、何をいつまでに行うのか、見通しをもち具体化することが児童・生徒に力をつけるために有効であり、必要であることがわかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・外国人児童生徒教育の現状の講義時間を70分から90分に延長し、受講者に外国人児童生徒の生活及び学習上の課題等を社会的、文化的、心理的な側面からの指導や支援を有意義に学べるよう図った。
・受講者に「演習の進め方」の資料を配付し、演習を円滑に理解できるよう図った。
次年度に向けて
・日本語指導者用コースの受講者を対象に実施したDLAの取組を、管理者用コースの受講者においても知りたいという意見を踏まえ、第1日のDLAの取組事例を入れることとする。
・管理者用コースの第2日の講義4について「特別の教育課程」の導入による体制整備の内容だけでなく、整備を図ったときの実際についても触れることとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修
日程表

第1日														
9:00 9:35 10:00 10:40 10:50 12:20 13:20 14:10 14:25 15:35 15:50 17:00														
面コース共通														
6月9日(火)	受 付		実施説明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」		休 憩		講義1 「外国人児童生徒教育の現状と課題」		昼 食・休 憩		班別演習1 「情報交換による課題の共有」		休 憩	
	開 講 式・オリエンテーション		文部科学省 初等中等教育局 国際教育課 国際教育専門官 村松 好子		目白大学学長 佐藤 郡衛		◎目的：学校現場における外国人児童生徒等の受入れ状況や指導体制について学び、外国人児童生徒の生活及び学習上の課題等を社会的、文化的、心理的側面から理解し、指導や支援の在り方について学ぶ。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、今後の課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、今後の課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、今後の課題解決への糸口を探る。	
第2日														
8:30 9:20 9:35 11:50 12:50 16:30 16:45														
管理面用コース														
6月10日(水)	講義4 「『特別の教育課程』を踏まえた指導・支援体制づくり」		休 憩		事例協議1 「～指導・支援体制における連携と協働～ 外国人児童生徒教育の先進的な取組」		昼 食・休 憩		班別演習2 「外国人児童生徒等の受入れ体制における課題解決策の検討」		休 憩		閉 講 式	
	愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子		甲府市教育委員会 福岡市教育委員会 京都市立向島二の丸小学校 山形大学		指導主事 竜之規 指導主事 綾子 校長 成瀬 龍夫 教授 内海 由美子		◎目的：外国人児童生徒等の受入れについて、先進的な地域の取組の理解を深める。		愛知淑徳大学 山形大学 甲府市教育委員会 福岡市教育委員会 京都市立向島二の丸小学校		非常勤講師 松本 一子 教授 内海 由美子 指導主事 竜之規 指導主事 綾子 校長 成瀬 龍夫		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、今後の課題解決への糸口を探る。	
日本語指導者用コース														
事例協議2 「日本語指導が必要な外国人児童生徒等への支援の実際」														
横浜市立元街小学校 小牧市立大城小学校 大阪府立門真なみはや高等学校		教諭 林 宝愛 教諭 伊藤 敦子 教諭 大倉 安央		休 憩		東京外国語大学 東京外国語大学 東京外国語大学 大阪大学大学院 DLAの取り組み事例の報告 門真市立砂子小学校		教授 伊東 祐郎 教授 小林 幸江 准教授 菅長 理恵 特別研究員 櫻井 千穂 教諭 永田 耕平		休 憩		17:00		
◎目的：各地の学校で進められている日本語指導・生活支援の実践事例から、日本語指導や学習支援の内容と方法、学校内の支援体制の作り方、保護者や地域との連携の仕方等について学ぶ。														

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【日本語指導者用コース】						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者 外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各地域・学校において本研修の成果を活用し、外国人児童生徒等の教育の中心的な役割を担うことができる者						
開 催 期 日	平成27年6月9日（火）～平成27年6月12日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	76	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 110 人、受講者数 121 人、参加率 110.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	58	76.3	18	23.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	76	
		76		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・DLAなど具体的な活用方法「読む」「書く」などの方法がわかった。また評価をどのようにやるか、また、それらがだいたいこのレベルになる等を教えてくださいわかりやすかった。 ・初期、中・後期、教科実践コースから4本の模擬授業を見せていただき、それぞれの段階における日本語指導・支援のあり方が体験できたのはよかった。一連の流れの中で見ていただいたのがよかった。 ・DLA（日本語能力測定方法）の使用法を読むから聴くまで全て演習できたらよかったと思いました。また、全国の同じ悩みをもつ先生方からお話が聞けて、今後のネットワークも広がりました。 ・DLA（日本語能力測定方法）が導入され、これまで不明確だった子供の見取りが明確になり、子供の実態や課題を共有できるようになった。日本語指導の知識や経験が浅い教員等でも使いやすく素晴らしいものと思った。 ・グループで1つの活動計画をつくりあげ交流することはとてもすばらしい活動だった。様々な指導法について学ぶことができた。 ・「読む」「書く」という幅のとても広いテーマだったので、かえって何をしたらいいか決めるまでが難しかった。 ・日本語指導が必要な子供たちに対して、その子のこれまでの文化的背景を分断するのではなく、共生していくのだという事を学びました。 ・日本語教育のコース設計についてはよく分かった。個別の教育課程を編成するときの具体的な事例が知りたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・受講者に実際のDLAを取り組んでいる学校の取組事例を入れ、DLAの有用性を伝えた。 ・受講者に各プログラムにおける講義・演習内容を理解してもらうため、各プログラムの講義・演習の前に全体の流れについての説明時間を設け、対応した。 次年度に向けて ・模擬授業のフィードバックは大変効果があったので、平成28年度も実施する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修
日程表

第1日																				
9:00 9:35 10:00 10:40 10:50 12:20 13:20 14:10 14:25 15:35 15:50 17:00																				
面コース共通																				
6月9日(火)	受講	開講式・オリエンテーション	施策説明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」 文部科学省 初等中等教育局 国際教育課 国際教育専門官 村松 好子	休憩	講義1 「外国人児童生徒教育の現状と課題」 目白大学学長 佐藤 郡衛	昼食・休憩	班別演習1 「情報交換による課題の共有」 ◎目的：班別に情報交換を行うことで、外国人児童生徒教育の課題の明確化、共有化を図るとともに、本研修での目的を明確にする。	休憩	講義2 「学校における日本語教育プログラム～個別の指導計画を立てるために～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	休憩	講義3 「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA～日本語能力の評価の在り方～」 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎	◎目的：文部科学省開発の「JSL対話型アセスメント」の考え方とその日本語測定方法の概要を知り、日本語指導の内容や方法の決定への生かし方について学ぶ。								
第2日																				
8:30 9:20 9:35 11:50 12:50 16:30 16:45																				
管理面コース																				
6月10日(水)	講義4 「『特別の教育課程』を踏まえた指導・支援体制づくり」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	休憩	事例協議1 「～指導・支援体制における連携と協働～ 外国人児童生徒教育の先進的な取組」 甲府市教育委員会 福岡市教育委員会 京都市立向島二の丸小学校 山形大学	昼食・休憩	班別演習2 「外国人児童生徒等の受入れ体制における課題解決策の検討」 愛知淑徳大学 山形大学 甲府市教育委員会 福岡市教育委員会 京都市立向島二の丸小学校	非常勤講師 松本 一子 教授 内海 由美子 指導主事 竜之規 指導主事 綾子 校長 成瀬 龍夫	◎目的：外国人児童生徒等の受入れについて、先進的な地域の取組の理解を深める。	◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、今後の課題解決への糸口を探る。	閉講式											
日本語指導者用コース																				
事例協議2 「日本語指導が必要な外国人児童生徒等への支援の実際」 横浜市立元街小学校 小牧市立大城小学校 大阪府立門真なみはや高等学校														休憩	班別演習3 「日本語能力測定方法の演習」 東京外国語大学 東京外国語大学 東京外国語大学 大阪大学大学院 DLAの取り組み事例の報告 門真市立砂子小学校	教授 伊東 祐郎 教授 小林 幸江 准教授 菅長 理恵 特別研究員 櫻井 千穂 教諭 永田 耕平	◎目的：各地の学校で進められている日本語指導・生活支援の実践事例から、日本語指導や学習支援の内容と方法、学校内の支援体制の作り方、保護者や地域との連携の仕方等について学ぶ。	◎目的：DLA（日本語能力測定方法）について、実際に体験しながら理解を深める。		

第3日	8:30	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	17:00
全 							

8:30		12:00		13:00		14:45		15:00	
3プログラム共通									
6月12日(金)		全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」				休 憩		講義5 「外国人児童生徒教育を推進するリーダーとして～研修成果の活用に向けて～」	
		波多野ファリススクール 愛知県豊橋市教育委員会 東京女子大学 江戸川区立一之江小学校 東京学芸大学 山梨県甲府市立新田小学校 京都市教育委員会				大蔵 博子 築樋 石井 健司 花島 齋藤 ひろみ 今澤 悌 大菅 佐妃子		東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	
		学監 相談員 教授 教授 教授 教授 指導主事				食・休憩		◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。	
		◎目的：各プログラムの代表班の学習指導計画についての発表をもとに、子供たちの言語習得・認知発達・社会的等の側面から、日本語指導の内容と方法についての理解を更に深める。				閉講式			

I 研修概要

研 修 名	生徒指導指導者養成研修				
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ				
研 修 目 的	生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動であり、学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものである。その推進に当たっては、教職員が適切に指導・援助するとともに、学校全体の共通理解と組織的、計画的な取組が不可欠である。 本研修では、①生徒指導の意義や考え方の理解、②生徒指導上の課題を解決するための実践力の向上、③生徒指導におけるマネジメント力の向上を目指し、「生徒指導を核とした学校運営及びマネジメントの改善を実践する指導者」を養成する。				
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等で生徒指導を担当する指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者				
開 催 期 日	平成27年6月29日（月）～平成27年7月14日（火）				16日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	114 人 参加率 103.6%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）				

※ 全体受講定員 0 人、 受講者数 0 人、 参加率 #DIV/0!

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	108	94.7	6	5.3	0	0.0	114
		114	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・最新の情報、動向がわかったことや、大切なことは再確認でき、有意義でした。 ・自校、自分の取組について改めて振り返ることができました。 ・新たな視点で生徒指導について学ぶことが多かったです。 ・全国の先生方と交流ができて、有意義でした。 ・生徒指導全般において再認識できた上で、指導助言に参考になる点が多々ありました。 ・バリエーションに富んでおり、講師の先生方のお話も勉強になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・生徒指導を充実させるためには、保護者、地域との連携協力が不可欠であるため「学校と家庭・地域との連携の在り方」を新設した。
次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・本研修は学期末の開催である。先生方が参加しやすくなるよう、開催期間を16日間から12日間へと短縮する。 ・ユニットミーティングを充実させるため、夕方に位置づけられているユニットミーティングの時間を15分間長くする。 ・重要課題である「いじめ」を解決していくために、「いじめの未然防止と対応」の時間を150分から270分にする。 ・受講者が地域リーダーとなって、本研修の学びを広められるよう、「生徒指導に関する研修の企画・運営・評価」のコマを新設する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度生徒指導指導者養成研修日程表

平成27年6月29日(月)～7月14日(火)

独立行政法人教員研修センター

＜日程と講座内容＞

期 日(曜)		8:30	9:15	9:30	12:00	13:15	15:45	16:00	17:00
1	6月29日(月)			受付 (9:30～9:50)	オリエンテーション① (10:00～11:45) 教員研修センター	開講式 (13:00～13:20)	これからの生徒指導における 重要課題(13:20～15:00) 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課長	特別講義(15:15～16:45) 平尾 誠二 氏	
2	6月30日(火)	オリエンテーション②	学校の生徒指導力を高めるために 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇			生徒指導と関係法規 日本女子大学 教授 坂田 仰			班別協議①
3	7月1日(水)	事例協議① (グループ)	教育課程と生徒指導 愛媛大学 准教授 城戸 茂			学校と家庭・地域との連携の在り方 日本大学 教授 佐藤 晴雄			課題討議① (班)
4	7月2日(木)	事例協議② (グループ)	生徒指導のための体制づくりと人材育成 神田外語大学 教授 嶋崎 政男			特別支援の理解と生徒指導 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男			課題討議② (班またはグループ)
5	7月3日(金)	事例協議③ (グループ)	不登校の予防と対応 鹿児島大学 教授 大坪 治彦			情報モラル教育の充実 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄			課題討議③ (班またはグループ)
6	7月4日(土)								
7	7月5日(日)								
8	7月6日(月)	オリエンテーション③	心の教育と生徒指導 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸			いじめの予防と対応 京都教育大学 教授 桶谷 守			課題討議④ (班またはグループ)
9	7月7日(火)	事例協議④ (グループ)	生徒指導事例研究(1)			生徒指導事例研究(2)			課題討議⑤ (班またはグループ)
			講義	1班() 奈良教育大学大学院教職大学院長 教授 池島 徳大 2班() 愛媛大学 教授 平松 義樹 3班() 杉並区立天沼中学校 校長 藤川 章 4班() 京都教育大学大学院 教授 桶谷 守 5班() 文教大学 教授 柳生 和男 6班() 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇			総括講義		
10	7月8日(水)	事例協議⑤ (グループ)	生徒指導事例研究(3)			生徒指導事例研究(4)			課題討議⑥ (班またはグループ)
			講義	1班() 奈良教育大学大学院教職大学院長 教授 池島 徳大 2班() 愛媛大学 教授 平松 義樹 3班() 杉並区立天沼中学校 校長 藤川 章 4班() 京都教育大学大学院 教授 桶谷 守 5班() 文教大学 教授 柳生 和男 6班() 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇			総括講義		
12	7月9日(木)	課題討議⑦ (班またはグループ)	児童生徒理解と望ましい学級集団づくり 愛媛大学 教授 平松 義樹			校種別	児童虐待防止に向けた取組(小中) 大正大学 教授 玉井 邦夫 自殺予防に向けた取組(中高) 広島大学 准教授 内野 悌司		課題討議⑧ (班またはグループ)
12	7月10日(金)	課題討議⑨ (班またはグループ)	生徒指導のリスクマネジメント 高崎経済大学 講師 飯野 眞幸			選択	不登校児童生徒の指導と課題 開善塾教育相談研究所 所長 金澤 純三 性・薬物に関わる非行の予防と対応 京都大学 准教授 木原 雅子		課題討議⑩ (班またはグループ)
13	7月11日(土)								
14	7月12日(日)								
15	7月13日(月)	オリエンテーション④	研修成果の発表・パネルディスカッション・指導講評 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇						班別協議② (振り返り)
16	7月14日(火)	班別協議③ (8:30～9:00)	生徒指導の指導者となるために ～生徒指導を核とした学校マネジメントの改革～(9:15～11:45) 文教大学 教授 柳生 和男			閉講式 (12:00～12:20)			

※各日朝・夕に班別及びグループ別の事例協議・課題討議の時間を設けます。

I 研修概要

研 修 名	人権教育指導者養成研修						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するための必要な知識等を習得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者（人権教育担当者を含む） 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う者（人権教育の指導的立場を担う者）						
開 催 期 日	平成27年7月8日（水）～平成27年7月10日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	134	人	参加率 121.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	115	85.8	19	14.2	0	0.0	134
		134	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・全国的な地域差の現実や人権教育を取り扱う際の考え方や視点について「気付き」のある研修だった。人権教育の有用性の周知と「気付き」のある研修会を今度は自分自身が実施したいと思われた。早速、地域の人権教育に生かしていきたい。 ・人権教育の基本的事項ばかりではなく、最新の動向についても知ることができた。他県の先生方と情報交換し、全国的な人権教育の状況を知ることができた。特別講義の先生のお話を聴くことができ、勇気づけられた。 ・「文科省の施策について」は、教育委員会の指導主事として国の動向が県にすぐおりてくるので理解が深まった。初日の講師のお話は、熱い思いが込められており、しっかりと私たちが受けとめたいと感じた。三名の方の報告実践では、特に中学校の実践が具体的で各校の参考になると感じた。演習における各班の発表を参考に県へ帰って実践していきたい。 ・学校現場で役立てていくこととして、指導法は確かに大切である。ただ、それよりもどんな子どもにも学習の場を保障していこうとする教師の心持ち、覚悟が必要であることを実感した。特別講義の先生の実践、お話はそういう意味でとても自分にとって意味のあるものだった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・3日目の演習で、午後にエンカウンター（演習）を新たに90分間設定し、3日目の終了時間を15時15分まで延長した。
次年度に向けて ・「人権教育を推進するリーダーとして」のコマとエンカウンターのコマを統合し、講義の外に、演習を行うこととし、時間を2時間30分とする。 ・特別講義については、通常の講義として、実施する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度人権教育指導者養成研修
日程表

1日目	9:00	9:30	9:50	10:35	10:45	12:15	13:15	14:45	14:55	17:15	
7月8日 (水)	講義		講義・課題協議	特別講義	事例発表・協議	休憩	[休憩]				
	受	開講式	「人権教育に係る文部科学省等の施策について」	「国内外の動きと学校における人権教育」	「みんながつくるみんなの学校」～すべての学校の居場所を地域の学校に～」	休憩	「人権教育推進上の課題と改善策等についてー「人権教育の指導方法等の在り方についてまとめ」等を踏まえてー」				
	付		文部科学省 初等中等 教育局 児童生徒課 課長補佐 中安 史明	筑波大学名誉教授・(公財)人権教育啓発推進センター 上級特別研究員 福田 弘	元 大阪市立大空小学校 校長 木村 泰子	憩	事例発表 奈良県教育委員会 人権・地域教育課 指導主事 阪本 和章 愛知県江南市立古知野西小学校 教頭 熊澤 光浩 徳島県鳴門市鳴門中学校 人権教育主事 藤川 千恵美 指導助言 筑波大学名誉教授・(公財)人権教育啓発推進センター 上級特別研究員 福田 弘 東京聖栄大学健康栄養学部 教授 有村 久春 上越教育大学大学院学校教育研究科教授 梅野 正信 元 東大阪市立枚岡東小学校 校長 神野 ちどり ◎目的：人権教育の先進的な取組を知るとともに各地域の取組を共有することで、演習に向けて課題を明確化する。 14:55～16:15 事例発表・質疑応答等 16:15～16:25 休憩 16:25～17:15 班別協議				
2日目	8:30	[屋休み]									
7月9日 (木)	「学校における人権教育の改善・充実についてー「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」等を踏まえてー」										
	(課題) A 教育委員会等における効果的な教職員向け研修プログラム等の作成 B 学校としての組織的な取組 C 指導内容・指導方法・学習環境づくり等の工夫・改善 ◎目的：各テーマにおける現状と課題について協議を深めることにより、人権教育を推進するための資料（研修成果を活かすための資料）を作成し、改善・充実策等に関する知識・方法を修得する。										
	(指導助言者) A (1～11班) B (12～18班) C (幼小) (19～22班) C (中高) (23～26班) 元 東大阪市立枚岡東小学校 校長 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 東京聖栄大学健康栄養学部 教授 有村 久春 筑波大学名誉教授・(公財)人権教育啓発推進センター 上級特別研究員 福田 弘 第二研修棟2階研修室 特別研修棟研修室B 特別研修棟研修室A① 特別研修棟研修室A②										
	8:30～8:40	演習内容についての留意事項説明								15:00～16:30	班発表
	8:40～12:00	事前課題説明 (10分/人) 質疑応答、意見交換、研修成果物作成								16:30～16:50	指導助言者からのコメント
	12:00～13:00	昼休み								16:50～17:00	3日目全体発表班の決定
	13:00～15:00	研修成果物作成 (14:30までに骨子を指導助言者にみせる)								※ 演習の進行については、おおむね、以上の通りとするが、班の数がグループにより、異なるので、グループにより、進行方法、発表時間等が異なる場合がある。	

7月10日 (金)	8:30	14:00	14:10	15:00	15:15
	演習 「学校における人権教育の改善・充実について-全体発表・協議・まとめ-」 筑波大学名誉教授・(公財)人権教育啓発推進センター 上級特別研究員 福田 弘 東京聖栄大学健康栄養学部 教授 有村 久春 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 元 東大阪市立枚岡東小学校 校長 神野 ちどり 8:30～8:35 説明準備 8:35～9:35 発表×4班(各グループ1班) (発表10分+質疑5分) 9:35～9:45 全体質疑10分 休憩 10:00～11:00 講評(指導助言者1人15分) 11:00～11:30 作成資料の再検討 11:30～12:30 昼休み 12:30～14:00 エンカウンター(演習) ※ 演習の進行については、おおむね、以上の通りとするが、最初の 発表班数が変わる場合は、一部予定を変更する場合がある。	休憩 14:00 14:10	課題協議 「人権教育を推進するリーダーとして-研修講師、企画・運営に向けて」 上越教育大学大学院 学校教育研究科 教授 梅野 正信 ◎目的：人権教育についての理解を深め、本研修の成果等をまとめる。	閉講式	

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育指導者養成研修(第1回)						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及びキャリア教育推進の指導者としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成27年5月11日（月）～平成27年5月15日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	127	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

全体受講定員 220人、受講者数 238人、参加率 108.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	112	88.2	15	11.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	127
		127		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・自分なりにキャリア教育への理解が深まり、実践に向けての方向性が見えてきた。まずは、実態を把握するところから始め、目標を設定するところを職員の理解を得ながら始めたい。 ・多くの講師、実践発表をしてくださった先生方からキャリア教育の根幹に関わる考え方や、押さえるべき点などを実践的な演習を交えて教えていただき、これからの業務推進の見直しが持て、少し自信がついた。 ・手引き等を読むのと実際にお話を聞くのとでは、やはり、理解の具合が違った。特に、演習はキャリア教育を進める上での留意点を感じることができた。このような研修スタイルを市でも取り入れてみたい。また年間計画、全体計画を学校に求めている現状に問題提起したい。 ・様々な地域の取り組みを知ることができたことは、とても良かったと思う。内容がとても盛り沢山だったので、演習の時間が不足していた印象がある。地元に戻ってから、再度この研修を振り返り、不足していると感じた部分について、掘り下げて考えてみたいと思っている。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・教員研修センター（つくば市）での年1回開催を見直し、教員研修センターで、対象都道府県をそれぞれ指定した上で、年2回で開催した。 ・事前提出資料1で、地域や学校でキャリア教育を推進する上での課題及び課題解決のための方策について、記載を求めているが、開催時期を早くしたこと等を踏まえ、現在の実践の状況と推進する上での課題について、記載を求めることとした。 次年度に向けて

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度 キャリア教育指導者養成研修 日程表

1日目

9:30 10:00		12:15 13:15	17:00	
開講式		休憩	休憩	
5月11日 6月1日 (月)	課題協議 「キャリア教育の現状と本研修の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	屋	課題協議・事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1 ～発達段階に応じたキャリア教育の在り方～」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人東北大学名誉教授 菊池 武利 事例発表 世田谷区立尾山台小学校 校長 渡部 理枝 京都市立梅津中学校 教諭 上島 保隆 広島県立安西高等学校 主幹教諭 小田 浩	
		休		
		み		

2日目

9:00		12:00	13:00	14:15 14:30	17:00	
事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて2 ～校種間連携の方策～」 小中連携 講師 高槻市教育委員会教育指導課 指導主事 山本 佐和子 事例発表 高槻市立第四中学校 首席 馬場 彰一 中高連携 講師 青森県教育庁 西北教育事務所 指導主事 番場 亜由美 事例発表 島根県立吉賀高等学校 校長 齋藤 雅典 吉賀町立六日市中学校 校長 河野 洋司		休 憩	昼 休 憩	課題協議 「社会と協働して進めるキャリア教育～社会が求める資質・能力」 5月12日 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼品質保証部長 清川 卓二 6月2日 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 主任 福井 孝夫	休 憩	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて3 ～地域社会と学校の連携推進のために～」 小学校部会 講師 高槻市教育委員会教育指導課 指導主事 山本 佐和子 事例発表 高槻市立富田小学校 教諭 中井 貴彦 中学校部会 講師 横浜市教育委員会 教育政策推進課 指導主事 熊切 隆 事例発表 横浜市立東山田中学校 教諭 三村 太郎 (5月12日) 横浜市立東山田中学校 校長 平野 真理子 (6月2日) 高等学校部会 講師 有限会社オアーション21 社長 翁長 有希 事例発表 兵庫県立猪名川高等学校 教諭 守田 久美

3日目

9:00		10:30 10:45	12:00 13:00	17:00
9:00		10:30	12:00	13:00
課題協議 「キャリアアカウンセンシングの 基盤としてのコミュニケーション スキルの向上」 追手門学院大学 教授 三川 俊樹		休	屋	休憩
5月13日 6月3日 (水)		演習 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 ◎目的：児童生徒の現状や身につけさせたい能力・態度を踏まえた指導計画作りを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要 な知識・方法を得る 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 大阪府教育委員会事務局 市町村教育室 小中学校課 指導主事 竹中 重雄 青森県教育庁 西北教育事務所 指導主事 番場 亜由美 足立区立六日市中学校 主任教諭 佐藤 学	屋	休憩
		休		
		憩		

4 日目

5月14日 6月4日 (木)	両コース共通		経営コース			
	9:00	10:50	11:00		14:50 15:00	17:00
	屋 休 み		屋 休 み		課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 関西大学 教授 川崎 友嗣	
	事例発表・課題協議 「地域や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 ◎目的：先進事例等から、効果的にキャリア教育を進めるための地域や行政との連携方策を学ぶ 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 スクールアドバイスネットワーク 理事長 生重 幸恵		事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 荒川区立第三中学校 校長 清水 隆彦		休 憩	
	推進コース		推進コース		17:00	
	11:00		11:00		17:00	
	屋 休 み		屋 休 み		休 憩	
	演習 「各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 仙台市教育委員会 学びの連携推進室 主任指導主事 小田 暁 足立区立六甲中学校 主任教諭 佐藤 学 高知県教育委員会 高等学校課 指導主事 戎井 崇				休 憩	

5 日目

5月15日 6月5日 (金)	両コース共通		両コース共通			
	9:00	11:45	12:45	15:15	15:30	
	屋 休 み		課題協議 「研修講師となるために」 ◎目的：キャリア教育の研修講師となるため、課題を整理し、キャリア教育に関する理解を深める 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 関西大学 教授 川崎 友嗣 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 仙台市教育委員会 学びの連携推進室 主任指導主事 小田 暁		閉 講 式	
	演習 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 関西大学 教授 川崎 友嗣 仙台市教育委員会 学びの連携推進室 主任指導主事 小田 暁		屋 休 み			
	推進コース		推進コース			
	9:00		9:00			
	事例発表・課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子		屋 休 憩			

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育指導者養成研修(第2回)						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及びキャリア教育推進の指導者としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成27年6月1日（月）～平成27年6月5日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	111	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

全体受講定員 220人、受講者数 238人、参加率 108.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	100	90.1	10	9.0	0	0.0	0	0.0	1	0.9	0	0.0		111
		110		99.1											

2. 研修内容に関する主な意見

・キャリア教育の目的やねらい、進め方や取り組み方など様々なことを学ぶ中で、講師の先生が話していることが全てつながっていることに気付くことができた。その中で自分のできることを考えながら話を聴くことで、いろいろやってみよう意欲にもつながった。この研修で学んだことや知れたことを少しでも広げていけるよう努めていきたい。 ・私は社会教育主事という立場での参加で、日頃、学校教育におけるキャリア教育について研修を深める機会が少ないため、この研修は大変勉強になった。私のような教員であり、社会教育主事の発令を受けている人間こそ、学校教育と社会教育をつなぐ核であると自覚し、両方のキャリア教育の充実に全力を尽くしたい。社会教育主事こそこの研修を受けるとよいと思った。 ・本研修は、課題協議・事例発表・演習等、幅広い内容で大変有意義でした。とくに、各県・各学校の実践事例や取り組みの様子を共有することができたこと、演習においても班の先生方と意見を出しあいながらプログラム開発できたことは貴重な経験になった。この研修で学んだことを県に持ち帰っていかしていきたい。 ・キャリア教育指導者養成研修に参加する前後で、私の中での変化がどれほどであったか。キャリア教育の視点から学校教育活動を見つめ直した時、我々教職にある者が有している資源がどれだけ豊富であり、かつ点のままであるかを認識できた。講師として伝える立場となったときに伝えたいことが頭の中を駆け巡る。まずは、今ある「宝」を価値付けし、不足する部分を指摘しながら、各校が主体的に取り組めるように導いていきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・教員研修センター（つくば市）での年1回開催を見直し、教員研修センターで、対象都道府県をそれぞれ指定した上で、年2回で開催した。 ・事前提出資料1で、地域や学校でキャリア教育を推進する上での課題及び課題解決のための方策について、記載を求めているが、開催時期を早くしたこと等を踏まえ、現在の実践の状況と推進する上での課題について、記載を求めることとした。 次年度に向けて

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 キャリア教育指導者養成研修

日程表

1日目

9:30 10:00		12:15 13:15	17:00	
開講式		休憩	休憩	
5月11日 6月1日 (月)	課題協議 「キャリア教育の現状と本研修の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	屋	課題協議・事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1 ～発達段階に応じたキャリア教育の在り方～」 講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人東北大学名誉教授 菊池 武利 事例発表 世田谷区立尾山台小学校 校長 渡部 理枝 京都市立梅津中学校 教諭 上島 保隆 広島県立安西高等学校 主幹教諭 小田 浩	
		休		
		み		

2日目

9:00 12:00		13:00 14:15 14:30	17:00	
9:00		休憩	休憩	
5月12日 6月2日 (火)	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて2 ～校種間連携の方策～」 小中連携 講師 高槻市教育委員会教育指導課 指導主事 山本 佐和子 事例発表 高槻市立第四中学校 首席 馬場 彰一 中高連携 講師 青森県教育庁 西北教育事務所 指導主事 番場 亜由美 事例発表 島根県立吉賀高等学校 校長 齋藤 雅典 吉賀町立六日市中学校 校長 河野 洋司	屋	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて3 ～地域社会と学校の連携推進のために～」 小学校部会 講師 高槻市教育委員会教育指導課 指導主事 山本 佐和子 事例発表 高槻市立富田小学校 教諭 中井 貴彦 中学校部会 講師 横浜市教育委員会 教育政策推進課 指導主事 熊切 隆 事例発表 横浜市立東山田中学校 教諭 三村 太郎 (5月12日) 横浜市立東山田中学校 校長 平野 真理子 (6月2日) 高等学校部会 講師 有限会社オーシャン21 社長 翁長 有希 事例発表 兵庫県立猪名川高等学校 教諭 守田 久美	
		休		
		み		

3日目

9:00 10:30 10:45		12:00 13:00	17:00	
9:00		屋 休 み	休憩	休憩
5月13日 6月3日 (水)	課題協議 「キャリアアカウンセンシングの 基盤としてのコミュニケーション スキルの向上」 追手門学院大学 教授 三川 俊樹	休 憩	演習 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 ◎目的：児童生徒の現状や身につけさせたい能力・態度を踏まえた指導計画作りを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要 な知識・方法を得る 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 大阪府教育委員会事務局 市町村教育室 小中学校課 指導主事 竹中 重雄 青森県教育庁 西北教育事務所 指導主事 番場 亜由美 足立区立六日市中学校 主任教諭 佐藤 学	

4 日目

5月14日 6月4日 (木)	両コース共通		経営コース			
	9:00	10:50	11:00		14:50 15:00	17:00
	屋 休 み		屋 休 み		課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 関西大学 教授 川崎 友嗣	
	事例発表・課題協議 「地域や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 ◎目的：先進事例等から、効果的にキャリア教育を進めるための地域や行政との連携方策を学ぶ 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 スクールアドバイスネットワーク 理事長 生重 幸恵		事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 荒川区立第三中学校 校長 清水 隆彦		休 憩	
	推進コース		推進コース			17:00
	11:00		11:00			
	屋 休 み		屋 休 み		休 憩	
	演習 「各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 仙台市教育委員会 学びの連携推進室 主任指導主事 小田 暁 足立区立六甲中学校 主任教諭 佐藤 学 高知県教育委員会 高等学校課 指導主事 戎井 崇				休 憩	

5 日目

5月15日 6月5日 (金)	両コース共通		両コース共通			
	9:00	11:45	12:45	15:15 15:30		
	屋 休 み		課題協議 「研修講師となるために」 ◎目的：キャリア教育の研修講師となるため、課題を整理し、キャリア教育に関する理解を深める 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 関西大学 教授 川崎 友嗣 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 仙台市教育委員会 学びの連携推進室 主任指導主事 小田 暁	閉 講 式		
	演習 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 関西大学 教授 川崎 友嗣 仙台市教育委員会 学びの連携推進室 主任指導主事 小田 暁		屋 休 み			
	推進コース		推進コース			
	9:00		9:00			
	事例発表・課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子		休 憩			

I 研修概要

研 修 名	教育相談指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の諸問題は、依然として憂慮すべき状況にある。また、子供たちを取り巻く環境の変化とともに、「ネットいじめ」などの新しい形のお問題が生じるなど、生徒指導上の問題は一層多様化、複雑化している。これらの問題に効果的に対応するためには、チーム学校として、新しい職種や外部機関を巻き込んだ教育相談体制が求められている。 本研修では、より効果的に教育相談を実践する力を高めるとともに、教育相談の組織的な取組みを実現するマネジメント力を身につけ、研修企画のできる指導者を養成する。					
受 講 対 象	各都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センターでの教育相談の普及・充実、研修企画を担当している者、又はそれに相当する資質を備えた指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成27年8月24日（月）～平成27年8月27日（木）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	60	人	受講者数	88	参加率
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 0 人、 受講者数 0 人、 参加率 #DIV/0!

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	70	79.5	18	20.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	88	
		88		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・教育相談について、国の方向性を確認することができました。普段なかなか聞くことができない先生方のお話、他県での取組など、勉強になりました。
・教育相談体制をマネジメントする上で基礎となる理論が分かりました。ガイダンスの第一にカウンセリングが来る、教育相談の重要性がわかりました。
・SC・SSW・学校の連携を深めるための方策について、課題意識を持って受講させていただきましたが、講義・演習・情報交換、どれも大変質の高いもので、今後の指導業務に参考となるものでした。
・全国各地の方と交流でき、情報交流・意見交流ができたこと、また、今後のつながりができたことは本当に素晴らしい出会いとなりました。講義・協議・演習等、ひとつひとつが魅力的かつ刺激的でした。新しい知識・情報を得ることができ、本研修に参加して視野が広がりました。
・教育相談体制の構築についての知見を得られるとともに、大変有意義な事例発表により、まさに今課題としている家庭への支援・援助についても学ぶことができました。また、全国各地で活躍されている先生方との協議も、悩みの共有から解決への糸口の発見などがあるとともに、今後につながる良いネットワークづくりとなりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・地域において、研修成果を積極的に活用するための具体的計画を作成する「教育相談の指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設した。
・実践発表では、SSWの活用、外部専門機関との連携等を視野に入れたコーディネートの事例に重点を置き、協議をし
次年度に向けて
・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。
・国としての教育課題への取組やその方向性の理解に資するため、文部科学省からの行政説明の時間を初日に設けることとする。
・27年12月の中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」を踏まえ、チーム学校として取り組む組織的な教育相談体制構築のため、今年度も学校や外部機関等の実践発表・協議を行うこととする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

日程表

平成27年度教育相談指導者養成研修日程表

平成27年8月24日(月)～平成27年8月27日(木) 3泊4日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:30	9:50	10:10	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義・協議 「生徒指導における 教育相談の役割」 日本体育大学 三好仁司 教授	昼食・休憩	事例演習1 「教育相談の現状と課題分析」 ～事前課題に関する協議等～ 日本体育大学 三好仁司 教授	諸連絡										
第2日	オリエンテーション②	事例演習2 「チーム学校の構築を目指して(1)」 ～実践発表と協議～ ①学校現場 福岡市立箱崎青松中学校 主幹教諭 明石 浩司 ②SSW 堺市教育委員会 スクールソーシャルワーカー 水流添 綾 ③外部機関 名古屋市健康福祉部生活支援課 (発表者は今後決定) 文教大学 柳生和男 教授				昼食・休憩	講義・協議 「チーム学校の構築を目指して(2)」 ～教育相談体制の充実に向けて～ 文教大学 柳生和男 教授	諸連絡										
第3日	オリエンテーション③	講義・演習 「教育相談を効果的に推進するために(1)」 ～効果的な教育相談の進め方～ 共栄大学 和井田節子 教授				昼食・休憩	講義・演習 「教育相談を効果的に推進するために(2)」 ～具体的な手立てを通して～ 共栄大学 和井田節子 教授	諸連絡										
第4日	講義 「教育相談のマネジメント」 ～マネジメントの実践に向けて～ 杉並区立天沼中学校 藤川章 校長				昼食・休憩	協議 「教育相談の指導者として」 ～研修成果の活用に向けて～ 天沼中学校 藤川章 校長				閉講式								

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【北海道・東北ブロック】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このために、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術を修得させるとともに、マネジメント力の向上を図り、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。					
受 講 対 象	教育委員会及び教育センター等の指導主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成27年5月18日（月）～平成27年5月20日（水）					3日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	73	人 参加率 ※
開 催 場 所	TKPガーデンシティ仙台（宮城県仙台市）					

※ 全体受講定員 600 人、受講者数 519 人、参加率 86.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	66	7	0	0	0	0	73
割合 (%)	90.4	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	73	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・1日ごとに段階的に進むプログラムで非常に良かったです。 ・いじめられた子の生の声、実際に接した方のお話が聞けたことは貴重でした。また、形式を踏まえながらも、柔軟に対応する必要など教えていただけて良かったです。 ・今まで整理できていなかった事柄を根拠等を示して頂いたこと、丁寧な解説・演習等で自分なりに整理することができました。 ・基礎事項の理解→課題把握→解決の見通し→実践という道筋がはっきりしていてわかりやすかったです。 ・指導者として研修の成果を伝える場面を具体的に想定することは難しかったですが、協議によって明確になる部分があり、有意義な研修でした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・いじめ防止対策推進法の適切な理解のため、文部科学省による講義「いじめの問題に関する現状と取組」を90分→100分に、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充した。 ・研修成果の活用推進のため、研修最終日に「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」の講座を新設し、班別協議を行った。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・いじめの態様で増加傾向にある、いわゆるネットいじめの対応を講座内容に位置づけることとする。 ・いじめ防止対策推進法の施行から3年経過する中で、法的な観点を踏まえたいじめの問題への対応の在り方について協議する講座を位置づけることとする。 ・昨年より1日期間を増やし、研修内容の充実を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

北海道・東北ブロック【仙台】 5月18日(月)～5月20日(水)

9:00	9:30	10:00	10:20	10:50	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省		屋食・休憩		講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 弁護士 坪井 節子		事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～					諸連絡
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇					屋食・休憩		講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇							諸連絡
第3日	オリエンテーション③	講義 「いじめの問題に取り組む指導者となるために」 ～マネジメント力の向上を目指して～ 文教大学 教授 柳生 和男			屋食・休憩		協議 「いじめの問題に取り組む指導者と して」 ～研修成果の活用に向けて～		閉講式							

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【関東・甲信越ブロック】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このために、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術を修得させるとともに、マネジメント力の向上を図り、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。					
受 講 対 象	教育委員会及び教育センター等の指導主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成27年5月13日（水）～平成27年5月15日（金）					3日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	112	人 参加率 ※
開 催 場 所	(独) 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 600 人、受講者数 519 人、参加率 86.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	104	92.9	8	7.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	112	
		112		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・3日間毎日グループが違うという構成は、校種や業種の違い、経験による違いなどが明確になりよかったです。今回のプログラムはよく練られており、所属に帰ってから研修の企画に生かせる内容でした
・いじめの定義や法律について漠然としていたものが整理でき、今後すべきことが明確になりました。また、教員が持つ価値観や感情のコントロールなど、基本に立ち戻るきっかけとなり、有意義な研修でした。
・今、本校で起こっている問題であり、解決策を練る上で大変参考になりました。現場に持ち帰って報告し、今後の学校生活に生かしたいです。
・講義とワークがバランスよく配置されていました。いじめを小さく捉えるのではなく、社会問題として捉えるという視点は、今まで持っていませんでした。この視点に立つと、やるべきことがたくさん見えてきました。
・3日間、有意義な研修を通じ同じ立場、方向性に向かい合っている方々と研修できたことに感謝したいです。全国の方とつながること、子どもたちの幸せのためにできることをやっていきたいと思います。
・理論的なものと実践のバランスがよく、現場が法的根拠に基づいて行動しやすいと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・いじめ防止対策推進法の適切な理解のため、文部科学省による講義「いじめの問題に関する現状と取組」を90分→100分に、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充した。
・研修成果の活用推進のため、研修第3日目「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設し、班別協議を行った。
次年度に向けて
・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。
・いじめの態様で増加傾向にある、いわゆるネットいじめの対応を講座内容に位置づけることとする。
・いじめ防止対策推進法の施行から3年経過する中で、法的な観点を踏まえたいじめの問題への対応の在り方について協議する講座を位置づけることとする。
・今年度より2日間期間を増やし、中央指導者研修として法及びネットいじめ、保護者対応の在り方について講座を設定する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

関東・甲信越ブロック【つくば】 5月13日(水)～5月15日(金)

9:00	9:30	10:00	10:20	10:50	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省		屋食・休憩		講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 佐藤商会SC 黒岩 禅		事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～					諸連絡
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇					屋食・休憩		講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇							諸連絡
第3日	オリエンテーション③	講義 「いじめの問題に取り組む指導者となるために」 ～マネジメント力の向上を目指して～ 大阪市立大学 名誉教授 大阪樟蔭女子大学 前学長 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司					屋食・休憩		協議 「いじめの問題に取り組む指導者と して」 ～研修成果の活用に向けて～		閉講式					

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【東海・北陸ブロック】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このために、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術を修得させるとともに、マネジメント力の向上を図り、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。					
受 講 対 象	教育委員会及び教育センター等の指導主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成27年5月27日（水）～平成27年5月29日（金）					3日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	66	人 参加率 ※
開 催 場 所	TKP名古屋駅前カンファレンスセンター（愛知県名古屋市）					

※ 全体受講定員 600 人、 受講者数 519 人、 参加率 86.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	59	89.4	7	10.6	0	0.0	66
		66	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・全国的な動向、他地区との情報交換ができ、今後の対応に向けて参考になりました。事例協議について多面的なアプローチが必要であり、そのためには何よりも普段の教育活動が重要であることを再認識しました。今後の指導に生かしていきたいです。
・法整備から子ども達のいじめの背景を学ぶことができ、プログラムが継続的につながっており、とても学びやすかったです。
・研修の組み立てが明確に示されており、各日とも意識を高めることができました。研修のあり方（進め方）についても大変参考になりました。
・文部科学省児童生徒課課長の普段では聞けないような、いじめ防止対策推進法の現状など知ることができ、有意義でした。
・自校の組織の特徴や課題を振り返るとともに、改善の方策を考える機会となりました。教科指導・特別活動等、様々な教育活動が、生徒指導と一体となって取り組んでいくためのマネジメントのあり方を知ることができました。
・自分が動くことも重要であるが、組織として全体（学校）としてどのように対応・対処すべきかという点を踏まえて、より良い方向へ導くための手立てを学ぶことができました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・いじめ防止対策推進法の適切な理解のため、文部科学省による講義「いじめの問題に関する現状と取組」を90分→100分に、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充した。
・研修成果の活用推進のため、研修最終日に「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」の講座を新設し、班別協議を行った。
次年度に向けて
・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。
・いじめの態様で増加傾向にある、いわゆるネットいじめの対応を講座内容に位置づけることとする。
・いじめ防止対策推進法の施行から3年経過する中で、法的な観点を踏まえたいじめの問題への対応の在り方について協議する講座を位置づけることとする。
・昨年より1日期間を増やし、研修内容の充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

東海・北陸ブロック【名古屋】 5月27日(水)～5月29日(金)

9:00	9:30	10:00	10:20	10:50	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省		屋食・休憩		講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 立命館大学 教授 野田 正人	事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～						諸連絡
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 愛媛大学 教授 平松 義樹					屋食・休憩		講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 愛媛大学 教授 平松 義樹							諸連絡
第3日	オリエンテーション③	講義 「いじめの問題に取り組む指導者となるために」 ～マネジメント力の向上を目指して～ 大阪市立大学 名誉教授 大阪樟蔭女子大学 前学長 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司			屋食・休憩		協議 「いじめの問題に取り組む指導者と して」 ～研修成果の活用に向けて～		閉講式							

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【近畿ブロック】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このために、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術を修得させるとともに、マネジメント力の向上を図り、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。					
受 講 対 象	教育委員会及び教育センター等の指導主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成27年5月25日（水）～平成27年5月27日（金）					3日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	76	人 参加率 ※
開 催 場 所	大阪アカデミア（大阪府大阪市）					

※ 全体受講定員 600 人、 受講者数 519 人、 参加率 86.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	67	88.2	9	11.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	76
		76		100.0								

2. 研修内容に関する主な意見

・ 3日間を通じて、講義していただいた先生方の話がそれぞれ特徴があり、わかりやすく、大変勉強になりました。 ・ グループ協議やとなりの方との話の中にも”いじめ”解決のヒントがたくさんありました。各学校の実例などを教えていただき、ネットワークが広がったので、これからも教えていただこうと思います。 ・ 何を伝達していくべきなのか、明確に示していただきました。伝達者の工夫が求められると思いますが、資料をもとにして頑張っていきたいです。 ・ 教師の資質向上のために必要な研修であると思います。初任、中堅等での研修内容だけでなく、管理職の立場からの講義内容も開け、大変有意義でした。 ・ 研修を受けて終わりではなく、活用に向けての協議がプログラムに組み込まれており、大変勉強になりました。 ・ 情報発信の場を想定し、具体的内容について意見交換ができました。自分に足りない視点を補うことができ、計画案まで作成できたのがよかったです。 ・ シンキングツールをもちいた研修をおこなうことの良さを再認識しました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ いじめ防止対策推進法の適切な理解のため、文部科学省による講義「いじめの問題 に関する現状と取組」を90分→100分に、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充した。 ・ 研修成果の活用推進のため、研修第3日目「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設し、班別協議を行った。
次年度に向けて ・ 受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・ いじめの態様で増加傾向にある、いわゆるネットいじめの対応を講座内容に位置づけることとする。 ・ いじめ防止対策推進法の施行から3年経過する中で、法的な観点を踏まえたいじめの問題への対応の在り方について協議する講座を位置づけることとする。 ・ 昨年より1日期間を増やし、研修内容の充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

近畿ブロック【大阪】 5月25日(月)～5月27日(水)

9:00	9:30	10:00	10:20	10:50	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省		屋食・休憩		講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 臨床心理士コラボオフィス 黒 植山 起佐子		事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～					諸 連 絡
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題」に取り組みするための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇					屋食・休憩		講義・協議 「いじめの問題」に取り組みするための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇							諸 連 絡
第3日	オリエンテーション③	講義 「いじめの問題」に取り組み指導者となるために」 ～マネジメント力の向上を目指して～ 高崎経済大学 講師 飯野 眞幸					屋食・休憩		協議 「いじめの問題」に取り組み指導者と して」 ～研修成果の活用に向けて～		閉講式					

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【中国・四国ブロック】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このために、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術を修得させるとともに、マネジメント力の向上を図り、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。					
受 講 対 象	教育委員会及び教育センター等の指導主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成27年6月1日（月）～平成27年6月3日（水）					3日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	103	人 参加率 ※
開 催 場 所	岡山国際ホテル（岡山県岡山市）					

※ 全体受講定員 600 人、 受講者数 519 人、 参加率 86.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	85	82.5	16	15.5	1	1.0	0	0.0	0	0.0	1	1.0	103
		101		98.1										

2. 研修内容に関する主な意見

・いじめ問題について、様々な視点から学ぶことができ、大変有意義な研修でした。 ・各分野における最前の事例に触れることができ、大変刺激的でした。また、所属する学校の意識はまだ低いということも実感できました。今回の研修の成果をまずは、校内PTAで広めることから始め、県が行う研修でも生かせたらよいと考えています。 ・これまでいじめについて自分が認識していたことを見つめなおし、改める機会となりました。講座の先生方をはじめ、グループ内でご一緒させていただいた方々から学ぶべきことがたくさんありました。 ・最近の研修はどこでも演習が多くあり、中には無理に演習を入れたと感じられることもありますが、今回は適切であり、きちんと講義の時間も内容とともに確保されていて、大変良かったです。 ・各県での研修の持ち方や教育上の課題を共有することができました。講師や分析法などの情報も教えてもらい、広く知識を得ることができました。 ・いじめ防止プログラムとして、年間計画や授業での取組など、学校の組織体制、関係機関や保護者との連携体制についてなど、マネジメントのあり方を学ぶことができました。また、ブレインライティングを行い、研修の仕方についても知ることができました。 ・どの講師の先生も分かりやすく、限られた時間の中で多くのことを学ぶことができました。また、参加者同士で互いの意見を交換したり共有できたことが良かったです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・いじめ防止対策推進法の適切な理解のため、文部科学省による講義「いじめの問題 に関する現状と取組」を90分→100分に拡充し、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充した。 ・研修成果の活用推進のため、研修第3日目「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設し、班別協議を行った。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・いじめの態様で増加傾向にある、いわゆるネットいじめの対応を講座内容に位置づけることとする。 ・いじめ防止対策推進法の施行から3年経過する中で、法的な観点を踏まえたいじめの問題への対応の在り方について協議する講座を位置づけることとする。 ・昨年より1日期間を増やし、研修内容の充実を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

中国・四国ブロック【岡山】 6月1日(月)～6月3日(水)

9:00	9:30	10:00	10:20	10:50	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省		屋食・休憩		講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 弁護士 横山 巖		事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～					諸連絡
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 文教大学 教授 松田 素行					屋食・休憩		講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 文教大学 教授 松田 素行							諸連絡
第3日	オリエンテーション③	講義 「いじめの問題に取り組む指導者となるために」 ～マネジメント力の向上を目指して～ 高崎経済大学 講師 飯野 眞幸			屋食・休憩		協議 「いじめの問題に取り組む指導者と して」 ～研修成果の活用に向けて～		閉講式							

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【九州ブロック】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このために、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術を修得させるとともに、マネジメント力の向上を図り、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。						
受 講 対 象	教育委員会及び教育センター等の指導主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成27年6月3日（水）～平成27年6月5日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	89	人	参加率
開 催 場 所	アークホテルロイヤル福岡天神（福岡県福岡市）						

※ 全体受講定員 600 人、受講者数 519 人、参加率 86.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	75	84.3	14	15.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	89	
		89		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・全国で活躍している講師の先生方の話を聞くことができ、今までわかっていたことはより深く、今までぼやけていたところは鮮明に、今まで考えていなかったところには課題意識を、というように、刺激の多い、実りの多い3日間でした。 ・国の考えから学校現場の職員がどうあるべきかがよく分かりました。子供のために、職員に求められている姿勢を認識できました。 ・テーマは「いじめ」に関することでしたが、教師としてのあり方を改めて考えさせられました。仕事に対しての意欲が高められて、良かったです。 ・いじめの問題と正対し、問題の解決に向けた知識・技能の習得や判断力・行動力・マネジメント力向上につながることができました。 ・いじめに関する法的根拠から実体験を語っていただいた講演。そして、いじめの構造的なもの、その対応、いじめに対する組織的なマネジメントまで幅広く学ぶことができました。今後、いろいろな場面でリーダーシップを発揮していじめ防止のためにがんばっていききたいという思いを抱きました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・いじめ防止対策推進法の適切な理解のため、文部科学省による講義「いじめの問題に関する現状と取組」を90分→100分に拡充し、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充した。 ・研修成果の活用推進のため、研修第3日目「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設し、班別協議を行った。 次年度に向けて ・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。 ・いじめの態様で増加傾向にある、いわゆるネットいじめの対応を講座内容に位置づけることとする。 ・いじめ防止対策推進法の施行から3年経過する中で、法的な観点を踏まえたいじめの問題への対応の在り方について協議する講座を位置づけることとする。 ・昨年より1日期間を増やし、研修内容の充実を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

九州ブロック【福岡】 6月3日(水)～6月5日(金)

9:00	9:30	10:00	10:20	10:50	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省		屋食・休憩		講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 佐藤商会SC 黒岩 禅		事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～					諸連絡
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 京都教育大学大学院 教授 桶谷 守					屋食・休憩		講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 京都教育大学大学院 教授 桶谷 守							諸連絡
第3日	オリエンテーション③	講義 「いじめの問題に取り組む指導者となるために」 ～マネジメント力の向上を目指して～ 大阪市立大学 名誉教授 大阪樟蔭女子大学 前学長 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司				屋食・休憩		協議 「いじめの問題に取り組む指導者と して」 ～研修成果の活用に向けて～				閉講式				

Ⅰ 研修概要

研 修 名	子供の体力向上指導者養成研修（東部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	子供の体力が低い水準で推移していることや運動する子供とそうでない子供の二極化傾向を示していることなどの指摘を受け、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動全体を通じて、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるなど、子供の運動意欲を高める取組が求められている。 本研修では、運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成を図るなど、調和のとれた子供の体力向上を図るための手法を習得し、各地域における研修講師、各学校への指導・助言を行う指導者等の育成をねらいとしている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う者 ※ 本研修は、子供の体力向上を図るための指導者養成を目的としており、受講者の推薦にあたっては、開設する部会・コースにおける専門性を問うものではない。					
開 催 期 日	平成27年5月19日（火）～平成27年5月22日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	211	人
開 催 場 所	千葉県教育会館（千葉県千葉市） 他					

※ 全体受講定員 380 人、 受講者数 427 人、 参加率 112.4%
(全体計画人数)

Ⅱ アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	195	92.4	16	7.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	211
		211		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・子供の体力低下および運動嫌いを改善することを目的とし、指導要領や解説の中身に沿った研修で非常に勉強になった。 ・現代社会において、いかに体育・運動が重要であるかが分かった。また、生涯に渡った長期的な視野に立って推進していかなければならないと自覚することができた。 ・マネジメントの大切さがわかり、学校体育だけでなく、様々な関わりの中で体力の向上、体育の位置づけについて理解できた。 ・幼小の連携の面から子どもの興味や意欲を上手にとりあげる、幼稚園の先生方の姿から大きく参考になることがあった。 ・評価の観点について、授業とリンクさせ、学年や実態に応じた設定をしていくことで、PDCAサイクルに基づいた授業づくりが実現できることを実感できた。 ・様々なデータを基にした説明により、その成果と課題を把握することができた。幼稚園から高等学校と連携していくことの意義を理解することができた。

Ⅲ 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「適切かつ効果的な運動部活動の推進について」は、学校種が混在した班編制で演習を実施していたが、班内の人間関係の構築や学校種間の相違等を踏まえ、より円滑に実施するため、部会・コース別の班で実施した。 ・幼小連携等（小1ギャップ）を考慮し、「幼児が楽しく体を動かすことをとおして基礎的な動きづくりを図る部会」への小学校担当者の受講を可能とする旨明記した。 ・研修中のけが防止のため、講師に受講者の年齢・職種に応じて、実技の質・量に配慮するように周知した。
次年度に向けて ・子供の生活習慣の乱れが体力低下の一要因であることをうけ、健康三原則に基づいた生活習慣の形成から体力向上を考察するコースを新設する。 ・近年の喫緊課題である運動活動中の事故防止についての講義を新設する。

Ⅳ 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度子供の体力向上指導者養成研修 日程

10:00		10:30	11:00	12:00	13:00	17:00
第 1 日 目		受付	オリエンテーション 開講式	講義 1 (全体会) 子供の体力向上を図るための指導者の役割 ・指導者の役割、学習指導要領改訂のポイントや体力向上の在り方を理解する。	昼食	講義・演習 1 (全体会 / 部会・コース) 学校における体育に関する指導のマネジメントの在り方 ・学校の教育活動を通じて行う体力向上、体育に関する指導の全体計画の立案及び実践についての理解を深める。

9:00		12:00	13:00	17:00
第 2 日 目	講義・演習 2 (部会・コース)	昼 食	講義・演習 3 - 1 (部会・コース)	各部会・コースの重点テーマについての講義・演習 ・学習指導要領の主旨を踏まえ、運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わえる学習指導の在り方についての理解を深める。
	体力向上に向けた取組の工夫 ・運動の習慣化に向けた体力向上の在り方についての理解を深める。			

9:00		12:00	13:00	15:00	17:00
第 3 日 目	講義・演習 3 - 2 (部会・コース)	昼 食	講義・演習 4 (部会・コース)	指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方 ・指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方についての理解を深める。	17:00
	各部会・コースの重点テーマについての講義・演習 ・学習指導要領の主旨を踏まえ、運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わえる学習指導の在り方についての理解を深める。				

9:00		10:30	12:00	13:00	14:30	15:00
第 4 日 目	講義・演習 5 (部会・コース)	適切な効果的な運動部活動の推進について ・運動部活動での指導のガイドラインに基づいた科学的な指導内容や方法について基本的な考え方や留意点を学び、適切かつ効果的な運動部活動の推進についての理解を深める。	講義・演習 6 (全体会・部会・コース)	講義 2 (全体会)	閉 講 式	17:00
	各部会・コースの重点テーマにおける解決方策等の整理・まとめ ・各部会・コースの重点テーマにおける解決方策等を整理し、研修講師や研修企画者としての力量を高める。					

子供の体力向上を図るための指導者として
～研修講師・企画者としての心構えと留意点～
・研修内容をふりかえるとともに、研修講師等として活動するために留意すべきポイントを整理する。

I 研修概要

研 修 名	子供の体力向上指導者養成研修（西部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	子供の体力が低い水準で推移していることや運動する子供とそうでない子供の二極化傾向を示していることなどの指摘を受け、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動全体を通じて、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるなど、子供の運動意欲を高める取組が求められている。 本研修では、運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成を図るなど、調和のとれた子供の体力向上を図るための手法を習得し、各地域における研修講師、各学校への指導・助言を行う指導者等の育成をねらいとしている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う者 ※ 本研修は、子供の体力向上を図るための指導者養成を目的としており、受講者の推薦にあたっては、開設する部会・コースにおける専門性を問うものではない。					
開 催 期 日	平成27年5月12日（火）～平成27年5月15日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	216	人 参加率 ※
開 催 場 所	佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター（アバンセ）（佐賀県佐賀市） 他					

※ 全体受講定員 380 人、 受講者数 427 人、 参加率 112.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	181	83.8	34	15.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	216
		215		99.5										

2. 研修内容に関する主な意見

・体力向上がなぜ必要なのかという解説から始まり、どうすれば体力が向上していくのかという視点の上で演習ができ、大変わかりやすかった。特に運動が得意な生徒と苦手な生徒の共存という視点で大変勉強になった。 ・とび箱やマット運動でも、簡単なことでもやるべきことがたくさんあることを知った。そこを言語活動を含めてやっていけばよいという方向性が明確になった。 ・小・中・高全ての校種で授業づくりを確認することができた。特に普段見ることのない小学校の授業づくりを見て、12年間を通した体育を確認できた。 ・実態を踏まえた上で、児童の学習評価の在り方やPDCAサイクルの在り方について考えを深めることができた。 ・部活動のマネジメントについて深く考えることができた。体育での生徒との関わりや、運動を苦手とする生徒との関わりについて話しをする中で理解を進めることができた。 ・子供の体力向上に対し様々な面からアプローチすることは大切であるし、そうでないと実現できないと思うが、たった4日間の研修の中で学校体育マネジメント、授業、部活動と内容が多すぎではないかと感じた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「適切かつ効果的な運動部活動の推進について」は、学校種が混在した班編制で演習を実施していたが、班内の人間関係の構築や学校種間の相違等を踏まえ、より円滑に実施するため、部会・コース別の班で実施した。 ・幼小連携等（小1ギャップ）を考慮し、「幼児が楽しく体を動かすことをとおして基礎的な動きづくりを図る部会」への小学校担当者の受講を可能とする旨明記した。 ・研修中のけが防止のため、講師に受講者の年齢・職種に応じて、実技の質・量に配慮するように周知した。
次年度に向けて ・子供の生活習慣の乱れが体力低下の要因であることをうけ、健康三原則に基づいた生活習慣の形成から体力向上を考察するコースを新設する。 ・近年の喫緊課題である運動活動中の事故防止についての講義を新設する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度子供の体力向上指導者養成研修 日程

10:00		10:30	11:00	12:00	13:00	17:00
第 1 日目		受付	オリエンテーション 開講式	講義 1 (全体会)	昼食	講義・演習 1 (全体会 / 部会・コース)
				子供の体力向上を図るための指導者の役割 ・指導者の役割、学習指導要領改訂のポイントや体力向上の在り方を理解する。		学校における体育に関する指導のマネジメントの在り方 ・学校の教育活動を通じて行う体力向上、体育に関する指導の全体計画の立案及び実践についての理解を深める。

9:00		12:00	13:00	17:00
第 2 日目	講義・演習 2 (部会・コース)	昼 食	講義・演習 3 - 1 (部会・コース)	各部会・コースの重点テーマについての講義・演習 ・学習指導要領の主旨を踏まえ、運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わえる学習指導の在り方についての理解を深める。
	体力向上に向けた取組の工夫 ・運動の習慣化に向けた体力向上の在り方についての理解を深める。			

9:00		12:00	13:00	15:00	17:00
第 3 日目	講義・演習 3 - 2 (部会・コース)	昼 食	講義・演習 4 (部会・コース)	指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方 ・指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方についての理解を深める。	17:00
	各部会・コースの重点テーマについての講義・演習 ・学習指導要領の主旨を踏まえ、運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わえる学習指導の在り方についての理解を深める。				

9:00		10:30	12:00	13:00	14:30	15:00
第 4 日目	講義・演習 5 (部会・コース)	適切な効果的な運動部活動の推進について ・運動部活動での指導のガイドラインに基づいた科学的な指導内容や方法について基本的な考え方や留意点を学び、適切かつ効果的な運動部活動の推進についての理解を深める。	講義・演習 6 (全体会・部会・コース)	講義 2 (全体会)	閉 講 式	15:00
	各部会・コースの重点テーマにおける解決方策等の整理・まとめ ・各部会・コースの重点テーマにおける解決方策等を整理し、研修講師や研修企画者としての力量を高める。					

子供の体力向上を図るための指導者として
～研修講師・企画者としての心構えと留意点～
・研修内容をふりかえるとともに、研修講師等として活動するために留意すべきポイントを整理する。

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修健康コース（第1回）									
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ									
研 修 目 的	多様化・深刻化している健康課題を解決するため、各都道府県等における健康教育に関する推進体制の構築、学校における健康教育に関する指導の充実に資するよう、各地域で研修の企画立案・実施、指導助言等を行う健康教育の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。									
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う者									
開 催 期 日	平成27年6月23日（火）～平成27年6月26日（金）							4日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	128	人	参加率	※		
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）									

※ 全体受講定員 700 人、受講者数 631 人、参加率 90.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	108	84.4	20	15.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	128
		128		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・学校保健マネジメントについては、今までの学校保健活動についてマネジメントの側面に取り組んだ事がなかったので大変勉強になった。 ・養護教諭と教諭・指導主事と一緒に保健学習の指導案をきめ細かくじっくり考え完成していく過程がとてもやりがいを感じる事ができた。 ・健康教育全域について網羅されており、充実した内容だった。健康課題が改善されたモデルケースの提示の意義や、学習指導要領の改訂と健康課題の調査結果との関わり等も初めて知る内容だったため参考になった。 ・子供のサインを見逃がさないための健康観察の重要性和学級担任の果たす役割の重要性について理解を深めることができた。また、健康観察を全教職員で行い、情報を共有していく必要についても学べた。 ・テーマは同じでも内容は異なることから、小中高の縦のつながりと、教科を横断した横のつながりを意識した指導計画の必要性を理解することができた。また、保健の知識を活用していく実践力を養うことの重要性も理解できた。 ・グループで指導案を作成していく中で、専門的な知識を有した教員の効果的な活用とその必然性について深く考えることができた。また、他校種の発表を縦のつながりを考えながら聞く良い機会にもなった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・アレルギー疾患のある子供への対応が課題となっていることを踏まえ、「学校におけるアレルギー疾患への対応」の講義・演習を新設した。 ・2日目から最終日までの研修開始時刻を30分早めることにより研修時間を拡充し、内容の充実を図った。 次年度に向けて ・③部会「児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応」については定着してきたことから、次年度はさらに領域を広げ、③部会については、「保健管理の在り方」を設定する。 ・危機管理への対応として、講義・演習4「学校における救急処置に関する研修の在り方」を新設する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度健康教育指導者養成研修 健康コース 日程（第1回）

平成27年6月23日（火）～26日（金） 独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）

9:00		9:30	10:00	10:55	11:05	12:00	13:00	13:55	14:05	15:00	15:15	17:00
6 ／ 23 (火)	第1日目	受付	オリエンテーション 開講式	講義1(55分)	講義2(55分)	昼食・休憩	講義3(55分)	講義4(55分)	講義・演習1(105分)			
				健康教育の充実の在り方及び研修の進め方	学校における子供の心のケア		保健教育の在り方	学校保健マネジメント	児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応			
				◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する	◎目的: 教職員による健康観察の必要性、学校における子供の心のケアの基本や健康相談のポイント等、日常からの心のケアを進めていくための方策等を理解する		◎目的: 体育、保健体育を中心に、特別活動、総合的な学習の時間等と関連を図った保健教育の進め方について理解を深める	◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める	◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ			
				文部科学省 教科調査官 森良一	文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子		茨城大学 准教授 上地勝	日本女子体育大学 教授 畑攻 西郷村立西郷第二中学校長 高橋伸明	兵庫県こころのケアセンター 副センター長 亀岡 智美			

8:15 8:30		12:00 13:00		17:00	
6 ／ 24 (水)	第2日目	受付	昼食・休憩	講義・演習2－1(210分)	講義・演習2－2(240分)
				①保健教育の在り方	①保健教育の在り方
				◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ	◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ
				生活習慣病 (がんを含む)	生活習慣病 (がんを含む)
				茨城大学 准教授 上地勝 亜細亜大学 教諭 横内理香	茨城大学 准教授 上地勝 亜細亜大学 教諭 横内理香
				感染症 (エイズを含む)	感染症 (エイズを含む)
				宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 栃木県教委那須教育事務所 副主幹 大江満仁	宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 栃木県教委那須教育事務所 副主幹 大江満仁
				②学校保健マネジメント	②学校保健マネジメント
				◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ	◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ
				日本女子体育大学 教授 畑攻 西郷村立西郷第二中学校 校長 高橋伸明	日本女子体育大学 教授 畑攻 西郷村立西郷第二中学校 校長 高橋伸明
				③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(個別の保健指導)	③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康相談の進め方)
				◎目的: 心身の健康問題に関する個別の課題に対応した指導の在り方について学ぶ	◎目的: 演習を通して、学校における健康相談の進め方について学ぶ
				順天堂大学 教授 采女智津江	I 浜松市立追分小学校 教頭 福川秀子 II 長野市立西条小学校 教頭 小出まゆみ III 宮城県教育委員会 主幹 金野智津 IV 須崎市立吾桑小学校 教頭 中野靖子

8:15 8:30		11:30	12:30	14:40	14:55	17:00
6 ／ 25 (木)	第3日目	受付	部会別演習	講義・演習2－3(180分)	講義・演習2－4(130分)	講義・演習3(125分)
				①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 茨城大学 准教授 上地勝 (がんを含む) 亜細亜大学 教諭 横内理香 感染症 宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 (エイズを含む) 栃木県教委那須教育事務所 副主幹 大江満仁 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学 教授 畑攻 西郷村立西郷第二中学校 校長 高橋伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(事例検討の進め方) ◎目的: 学校における事例検討の進め方や指導助言の在り方を学ぶ 【幼・小学校】跡見学園女子大学 教授 松善くみ子 【中 学 校】奈半利町立奈半利中学校 教頭 大城由美 【高等学校】FR教育臨床研究所 所長 花輪敏男	昼食・休憩	①保健教育の在り方 ◎目的: 課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める 生活習慣病 茨城大学 上地勝 甘利小学校教諭 横内理香 感染症 宇都宮大学 和唐正勝 栃木県教委 大江満仁 発表 ②学校保健マネジメント ◎目的: 部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 日本女子体育大学 畑攻 西郷村立西郷第二中学校長 高橋伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康観察の実践) ◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ 名古屋市立中小田井小学校 校長 山口純枝

8:15 8:30		11:45 12:45		15:00 15:15	
6 ／ 26 (金) 第4日目	受付	講義・演習4(195分)	昼食・休憩	講義・演習5(135分)	閉講式
		学校におけるアレルギー疾患への対応 ◎目的: 学校におけるアレルギー疾患対応に関する現状・課題等を理解し、課題解決のための対応の在り方を学ぶ 特定非営利活動法人ちようふ子育てネットワークちよこネット 理事長 竹中裕子		健康教育の指導者として ◎目的: 健康教育に関する教員研修の構想・企画をとおして、本研修における成果を整理するとともに、研修講師としての必要な知識や技術等についての理解を深める 文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子	

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修健康コース（第2回）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	多様化・深刻化している健康課題を解決するため、各都道府県等における健康教育に関する推進体制の構築、学校における健康教育に関する指導の充実に資するよう、各地域で研修の企画立案・実施、指導助言等を行う健康教育の充実にための指導者の養成を目的とした研修を行う。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う者					
開 催 期 日	平成27年7月13日（月）～平成27年7月16日（木）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	160	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 700 人、 受講者数 631 人、 参加率 90.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合 計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	130	81.3	29	18.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6		160
		159		99.4											

2. 研修内容に関する主な意見

・養護教諭と教諭・指導主事と一緒に保健学習の指導案をきめ細かくじっくり考え完成していく過程にとってもやりがいを感じることができた。演習が有意義だった。 ・集中して健康教育について学ぶことで、総合的、体系的に理解することができた。メンタルヘルスの部会だったが、他の部会の内容もやってみたいと思った。 ・内容も質の高い講義ばかりで、すべてが現場で役に立つものであった。また、演習を通して多くのことを体感することができ、実感を込めて他の先生方に伝えたいと思う内容だった。 ・健康教育、学校保健を推進していく重要性を再確認した。演習を通して、他県の情報が得られ、他者の考えに触れ、視野が広がった。 ・健康教育の土台を明確にするとともに、位置づけの理解ができた。健康教育を推進する上で必要なデータの提示の仕方や、課題の共有化についてもわかった。 ・保健学習と保健指導をそれぞれ別のものとして実施すること、さらにその連携を図ることの意義に触れ、保健教育の可能性を強く感じた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・アレルギー疾患のある子供への対応が課題となっていることを踏まえ、「学校におけるアレルギー疾患への対応」の講義・演習を新設した。 ・2日目から最終日までの研修開始時刻を30分早めることにより研修時間を拡充し、内容の充実を図った。 ・より効率的に研修を進めるために、③部会の講義・演習2－1「児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応（個別の保健指導）」において、受講者に事前課題を課した。
次年度に向けて ・③部会「児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応」については定着してきたことから、次年度はさらに領域を広げ、③部会については、「保健管理の在り方」を設定する。 ・医薬品に関する教育の現状や課題等の理解を深めることを目的とした、講義・演習3「学校における医薬品の教育の在り方」を新設する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度健康教育指導者養成研修 健康コース 日程（第2回）

平成27年7月13日(月)～16日(木) 独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)

	9:00	9:30	10:00	10:55	11:05	12:00	13:00	13:55	14:05	15:00	15:15	17:00
7 / 13 (月) 第1日目		受付	オリエンテーション 開講式	講義1(55分) 健康教育の充実の在り方及び研修の進め方 ◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修の全般的構成について理解する 文部科学省 教科調査官 森良一	休憩	講義2(55分) 学校における子供の心のケア ◎目的: 教職員による健康観察の必要性、学校における子供の心のケアの基本や健康相談のポイント等、日常からの心のケアを進めていくための方策等を理解する 文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子	昼食・休憩	講義3(55分) 保健教育の在り方 ◎目的: 体育、保健体育を中心に、特別活動、総合的な学習の時間等と関連を図った保健教育の進め方について理解を深める 横浜国立大学 准教授 物部博文	休憩	講義4(55分) 学校保健マネジメント ◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める 筑波大学 教授 柳沢和雄 潮来市立津知小学校 教頭 豊田敬慈	休憩	講義・演習1(105分) 児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ 兵庫県こころのケアセンター 副センター長 亀岡 智美

8:15 8:30		12:00 13:00		17:00	
7 ／ 14 (火) 第2日目	受付	部会別演習		部会別演習	
		講義・演習2-1(210分)		講義・演習2-2(240分)	
		①保健教育の在り方		①保健教育の在り方	
		◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ		◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ	
		心の健康 横浜国立大学 准教授 物部博文 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生		心の健康 横浜国立大学 准教授 物部博文 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生	
		喫煙・飲酒・薬物乱用 筑波大学 教授 野津有司 伊万里市立伊万里中学校 教頭 福井宏和		喫煙・飲酒・薬物乱用 筑波大学 教授 野津有司 伊万里市立伊万里中学校 教頭 福井宏和	
		②学校保健マネジメント		②学校保健マネジメント	
		◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ		◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ	
		筑波大学 教授 柳沢和雄 潮来市立津知小学校 教頭 豊田敬慈		筑波大学 教授 柳沢和雄 潮来市立津知小学校 教頭 豊田敬慈	
		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(個別の保健指導)		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康相談の進め方)	
		◎目的: 心身の健康問題に関する個別の課題に対応した指導の在り方について学ぶ		◎目的: 演習を通して、学校における健康相談の進め方について学ぶ	
		順天堂大学 教授 采女智津江		Ⅰ 浜松市立追分小学校 教頭 稲川秀子 Ⅱ 長野市立西条小学校 教頭 小出まゆみ Ⅲ 宮城県教育委員会 主幹 金野智津 Ⅳ 須崎市立吾桑小学校 教頭 中野靖子	

	8:15	8:30	11:30	12:30	14:40	14:55	17:00
7 / 15 (水) 第3日目		受付	講義・演習2-3(180分) ①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 横浜国立大学 准教授 物部博文 心臓健康 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生 喫煙・飲酒・薬物乱用 筑波大学 教授 野津有司 伊万里市立伊万里中学校 教頭 福井宏和 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 潮来市立津知小学校 教頭 豊田敬慈 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(事例検討の進め方) ◎目的: 学校における事例検討の進め方や指導助言の在り方を学ぶ 【小学校】跡見学園女子大学 教授 松崎くみ子 【中学校】奈半利町立奈半利中学校 教頭 大城由美 【高等学校】FR教育臨床研究所 所長 花輪敏男	昼食・休憩	発表 講義・演習2-4(130分) ①保健教育の在り方 ◎目的: 課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める 横浜国立大学 物部博文 鳴海高等学校 丸山洋生 喫煙・飲酒・薬物乱用 筑波大学 野津有司 伊万里中学校 福井宏和 ②学校保健マネジメント ◎目的: 部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 筑波大学 教授 柳沢和雄 潮来市立津知小学校 教頭 豊田敬慈 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康観察の実際) ◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ 名古屋市立中小田井小学校 校長 山口純枝	移動・休憩	講義・演習3(125分) 学校における性に関する指導の在り方 ◎目的: 性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を学ぶ 兵庫教育大学大学院 教授 西岡伸紀

	8:15	8:30	11:45	12:45	15:00	15:15
7 / 16 (木) 第4日目		受付	講義・演習4(195分) 児童虐待への対応 ◎目的: 児童虐待への気づきのポイント、その後の対応、支援について事例を通して学ぶ 社会福祉法人横浜博萌会子どもの虹情報研修センター 研修課長 中垣真通	昼食・休憩	講義・演習5(135分) 健康教育の指導者として ◎目的: 健康教育に関する教員研修の構想・企画をとおして、本研修における成果を整理するとともに、研修講師としての必要な知識や技術等についての理解を深める 文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子	閉講式

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修食育コース第1回（基礎コース）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各地域で校長、副校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。					
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、教諭及び学校栄養職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ③食に関する指導において専門知識を有する栄養教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ④その他、上記①～③に準ずる者					
開 催 期 日	平成27年9月8日（火）～平成27年9月11日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	85	人	受講者数	87	人 参加率 102.4%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 700 人、受講者数 631 人、参加率 90.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	75	86.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	87
		87	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・他県の先生方とたくさん知り合うことができたこと、また、班別活動を通して、内容の濃い研修をすることができた。 ・みっちり1日かけて、指導案検討を行ったことはとても勉強になった。これからの実践にしっかり生かし、学んだことを栄養教諭、学校栄養職員の仲間に伝えていきたい。 ・短期間であったが、各分野の専門の先生方の講義を聴き、他県の先生方と情報交換ができたことでいろいろと学び考えることができ、たいへん有意義であった。 ・指導案作成では、自分では思いつかないアイデアがたくさん出て、多くの意見交換をする中でよりよい指導案を作ることができたと思う。今後、実際に授業を行ってみて、再度検討していきたい。 ・今回の研修に参加して、今まで食育は大切と思いながらも気付けなかった部分や実践できていなかった部分を明確化することができた。また多くの事例を知ることで、指導の多様な方法を学ぶことができ大変有意義な研修だった。 ・班での演習は、仲間ができてよかった。講義の中で、個人の課題を追究する時間があると焦点化されると思った。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・より実践的な事例を検討するためスーパー食育スクール対象校より事例発表者を招聘した。
次年度に向けて ・第1回（基礎コース）と第2回（発展コース）の内容を明確にするため、実施要項で対象をより明確にすることとした。 ・「全体計画」については、受講者全員で考察すべき内容のため、部会から全体会へと変更することとした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度健康教育指導者養成研修 食育コース（第1回） 日程

	9:00	9:30	10:00	11:30	12:30	14:30	14:45	17:00
9月8日(火)	受付	オリエンテーション	講義1 学校における食育の推進 ～学校給食の充実及び食に関する指導への活用について～ 文部科学省スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希 学校給食調査官 齋藤 るみ	講義2 食物アレルギーにかかると個別相談指導の在り方 国立病院機構相模原病院臨床研究センター 病因・病態研究室長 佐藤 さくら	講義3 食物アレルギーについての知識 アナフィラキシーへの対応、学校での対応等について理解を深める	事例発表・協議 学校教育全体を通して食育を実践するにあたっての現状と課題 静岡県東伊豆町立稲取小学校 稲葉 愛(栄養教諭) 静岡県東伊豆町立稲取中学校 石井 紀子(養護教諭)		
9月9日(水)	受付	講義・演習1 食育を効果的に推進するための特色ある教育課程の編成に向けて 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘	休憩	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 全体計画 文部科学省 スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 全体計画 文部科学省 スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成 成	休憩	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成 成
9月10日(木)	受付	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成 成	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成 成	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成 成	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成 成	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成 成	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成 成	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成 成
9月11日(金)	受付	講義・演習3 「全体計画」の発表、及び「特別活動」、「体育、保健体育」の指導案の発表 山形県教育センター 指導主事 高野 浩男 福岡教育大学 教職実践講座 教授 脇田 哲郎 宇都宮市教育委員会 学校健康課 課長補佐 横嶋 剛	講義・演習3 「全体計画」の発表、及び「特別活動」、「体育、保健体育」の指導案の発表 山形県教育センター 指導主事 高野 浩男 福岡教育大学 教職実践講座 教授 脇田 哲郎 宇都宮市教育委員会 学校健康課 課長補佐 横嶋 剛	講義・演習3 「全体計画」の発表、及び「特別活動」、「体育、保健体育」の指導案の発表 山形県教育センター 指導主事 高野 浩男 福岡教育大学 教職実践講座 教授 脇田 哲郎 宇都宮市教育委員会 学校健康課 課長補佐 横嶋 剛	講義・演習3 「全体計画」の発表、及び「特別活動」、「体育、保健体育」の指導案の発表 山形県教育センター 指導主事 高野 浩男 福岡教育大学 教職実践講座 教授 脇田 哲郎 宇都宮市教育委員会 学校健康課 課長補佐 横嶋 剛	講義・演習3 「全体計画」の発表、及び「特別活動」、「体育、保健体育」の指導案の発表 山形県教育センター 指導主事 高野 浩男 福岡教育大学 教職実践講座 教授 脇田 哲郎 宇都宮市教育委員会 学校健康課 課長補佐 横嶋 剛	講義・演習3 「全体計画」の発表、及び「特別活動」、「体育、保健体育」の指導案の発表 山形県教育センター 指導主事 高野 浩男 福岡教育大学 教職実践講座 教授 脇田 哲郎 宇都宮市教育委員会 学校健康課 課長補佐 横嶋 剛	講義・演習3 「全体計画」の発表、及び「特別活動」、「体育、保健体育」の指導案の発表 山形県教育センター 指導主事 高野 浩男 福岡教育大学 教職実践講座 教授 脇田 哲郎 宇都宮市教育委員会 学校健康課 課長補佐 横嶋 剛

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修食育コース第2回（発展コース）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各地域で校長、副校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。							
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、教諭及び学校栄養職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ③食に関する指導において専門知識を有する栄養教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ④その他、上記①～③に準ずる者							
開 催 期 日	平成27年10月20日（火）～平成27年10月23日（金）					4日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	85	人	受講者数	85	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 700 人、 受講者数 631 人、 参加率 90.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	73	85.9	12	14.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	85	
		85		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・講師から、今必要な知識や最新の情報をたくさん得ることができ、また、全国から栄養教諭、指導主事、教員等が参加し、いろいろなアイディアの中で演習ができ、課題解決や改善に向けて取り組めたのが良かった。 ・他県の受講者と様々な情報交換ができ、最新情報をはじめ、食に関する指導の意義、大切さを再確認することができた。 ・講話を受けての協議という流れ、協議すべき内容の明確化など、自分が研修を担当する際に、どのようにコーディネートしていけばよいか参考になった。 ・食育、食に関する指導案の立て方などの基礎を学ぶとともに、そこから見える本質的な指導の可能性や課題、今後の推進の在り方についての方向性を知ることができ、自分自身の職責について改めて理解を深める機会となった。 ・発展的な研修としては、演習の時間がもっと確保されているとより良いと思った。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・第2回（発展コース）について、受講者自身がそれぞれ発展的な実践事例を持っていると思われるので班ごとにお互いの好事例や課題を交換する時間を設けた。
次年度に向けて ・第1回（基礎コース）と第2回（発展コース）の内容を明確にするため、実施要項で対象をより明確にすることとした。 ・「全体計画」については、受講者全員で考察すべき内容のため、部会から全体会へと変更することとした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度健康教育指導者養成研修 食育コース（第2回） 日程

	9:00	9:30	10:00	11:30	12:30	14:30	14:45	17:00
10月20日(火)	受付	オリエンテーション開講式 学校における食育の推進 ～学校給食の充実及び食に関する指導への活用について～ 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 濱田 有希 学校給食調査官 齊藤 るみ 学校教育全体における健康教育及び食育の果たす役割を理解するとともに、食育を推進するための基本的な考え方を理解する	昼・食	講義2 食物アレルギーにかかると個別の相談指導の在り方 国立病院機構相模原病院臨床研究センター 病因・病態研究室長 佐藤 さくら 食物アレルギーについての知識、アナフィラキシーへの対応、学校での対応等について理解を深める	休憩	協議 学校教育全体を通して食育を実践するにあたっての現状と課題 文部科学省 初等中等教育局 食育調査官 濱田 有希 各地域の事例を通して、学校の特色を生かした教育課程の編成と運用方法を学ぶとともに自地域や自校の現状と課題を明確にする		
10月21日(水)	受付	講義・演習1 食育を効果的に推進するための特色ある教育課程の編成に向けて 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘 学校全体で計画的・組織的に食に関する指導を行うにあたり、前提となる基本的な考え方を理解する	休憩	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導のポイント 全体計画 山形県立米沢栄養大学 教授 笠原 賀子 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	昼・食 休憩 特別活動 北九州市教育委員会 教職員研修企画担当部長 大庭 正美	休憩	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導のポイントを検討 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める 全体計画 特別活動 総合的な学習の時間 愛知教育大学 教育学部 准教授 加納 誠司	17:00
10月22日(木)	受付	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導のポイントを検討 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると全体的な指導計画の作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める 全体計画 特別活動 総合的な学習の時間 青森県総合学校教育センター 指導主事 木村 友昭 徳島県藍住町立藍住北小学校 教頭 小泉 雅彦 滋賀県教育委員会 指導主事 北崎 裕章 班別演習を通して、学校全体で取り組む食に関する指導の在り方、及び各教科等における食に関する指導の在り方について理解を深めるとともに、各地域の取組を知る	昼・食 休憩					17:00
10月23日(金)	受付	講義・演習3 「全体計画」の発表、及び「特別活動」、「総合的な学習の時間」の指導案の発表 青森県総合学校教育センター 指導主事 木村 友昭 徳島県藍住町立藍住北小学校 教頭 小泉 雅彦 滋賀県教育委員会 指導主事 北崎 裕章 学校全体で取り組む食に関する指導の在り方、及び各教科等における食に関する指導の在り方について、理解を深める 講義・演習2で作成した資料を基にしたポスターセッション形式の発表	昼・食 休憩	講義・演習4 食育を推進するための指導者として 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 濱田 有希 研修内容をふりかえり、講師として必要な内容を整理する	閉講式			17:00

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 学校安全コース						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する必要な知識等を習得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校(園)長、副校(園)長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成27年9月14日(月)～平成27年9月18日(金)					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	171	人	参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)						

※ 全体受講定員(全体計画人数) 700人、受講者数 631人、参加率 90.1%
※ 学校安全コース 220人、受講者数 176人、参加率 80.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	155	90.6	16	9.4	0	0.0	0	0.0	171
		171	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・学校安全の三領域について詳しく知ることができた。この研修会を基礎資料として、新たな計画を立てたり、計画を見直したりしていききたい。 ・非常に高度かつ直近の内容に触れることができた。全国の先生方と考えを共有でき、一体感を感じることができた。研修期間を通じて、常に緊張感ある雰囲気の中で研修できた。 ・テキストづくりを通して、さらに具体的に理解することができ、自校の安全管理、安全教育についても見直すことができた。 ・講義、講演、演習を通して、安全についてのアンテナが高くなったのを自分でも感じた。この一週間で得た知識と実習を県内に広めていきたい。 ・自分が県(地区)で担っている役割が自覚できた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・指導者養成研修であることを受講者に確実に認識させるため、初日最初の講義で流れと目的について説明した。 ・資料作成が中断され理解が深まらないという意見を受け、毎日一時間程度設けていた地域別演習を、長時間継続した演習時間になるようプログラムを変更した。
次年度に向けて ・年度計画に基づき、研修名称を健康教育指導者養成研修(学校安全コース)から、学校安全指導者養成研修に変更する。 ・部会ごとに演習の進捗状況に差がでないよう、指導助言者と連携して演習進行に配慮する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度健康教育指導者養成研修 学校安全コース 日程表

第1日

9月14日(月)	9:00	9:30	10:00	10:40	10:50	11:30	11:40	12:30	13:30	17:00
	受付	開講式・オリエンテーション	講義1 「学校安全の現状と課題 研修の全体構成説明」 文部科学省スポーツ・青少年局 安全教育調査官 吉門 直子 ◎目的:学校安全の現状等について理解するとともに、本研修の全般的構成について理解する。	休憩	講義2 「学校安全の基礎」 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ◎目的:学校安全の概念・構造等の基本的事項について理解する。	移動・休憩	演習① 「各地域における研修企画と学校安全テキスト作成」・各地域の現状と課題共有 ◎目的:それぞれの地域における学校安全の現状と課題について把握する。	屋食・休憩	講義・演習3 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について (学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 株式会社社会安全研究所 所長 首藤 由紀 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種毎で情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導をするための指導者としてのポイントを整理する。	

第2日

9月15日(火)	9:00	12:30	13:30	17:00
	講義・演習4 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について (学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 株式会社社会安全研究所 所長 首藤 由紀 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種毎で情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導をするための指導者としてのポイントを整理する。	屋食・休憩	講義・演習5 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について (学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 株式会社社会安全研究所 所長 首藤 由紀 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種毎で情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導をするための指導者としてのポイントを整理する。	

第3日

9月16日(水)	9:00	9:50	10:05	10:55	11:10	12:00	13:00	17:00
	講演1 「学校事故事例報告①」 ◎目的:学校事故被害の現状を知るとともに、事故後の対応の在り方をご遺族の立場に立って理解する。	休憩	講演2 「学校事故事例報告②」 桐淵 博 桐田 寿子 ◎目的:学校事故被害の現状を知るとともに、事故後の対応の在り方をご遺族の立場に立って理解する。	移動・休憩	演習② 「各地域における研修企画と学校安全テキスト作成」 ◎目的:都道府県毎の班により、各講義・各学校種の内容を共有するとともに、全国全ての教職員が使用できる「学校安全テキスト」を作成する。	屋食・休憩		

第4日

9月17日(木)	9:00	12:00	13:00	14:15	14:30	17:00
	演習③ 「各地域における研修企画と学校安全テキスト作成」 ◎目的:都道府県毎の班により、各講義・各学校種の内容を共有するとともに、全国全ての教職員が使用できる「学校安全テキスト」を作成する。	屋食・休憩		休憩	演習④ 「各地域における研修企画と学校安全テキスト作成」 ◎目的:作成した「学校安全テキスト」をもとに、それぞれの地域の課題を踏まえた研修企画を作成する。	

第5日

9:00		12:00		13:00		13:45		14:30		14:45	
9月18日(金)	演習⑤ 「各地域における研修企画と学校安全テキスト作成」 ・作成物発表準備 ・各ブロック毎の発表とフィードバックによる修正と改善 ◎目的:それぞれの地域の課題を踏まえた研修企画を発表することで、情報や課題の共有を図る。	昼食・休憩	演習⑥ 「各地域における研修企画と学校安全テキスト作成」 ・各ブロック代表班の発表による全体共有 ◎目的:作成した研修企画を発表することで情報や課題の共有を図る。	閉講式	講義6 「学校安全教育を推進するリーダーとして」 文部科学省スポーツ・青少年局安全教育調査官 吉門 直子 ◎目的:研修全体を振り返り、安全教育の推進者としての自覚を促す。	◆運営協力者(演習時指導助言)◆ ・ 小学校部会、Dブロック 広島県教育委員会事務局 教育部 豊かな心育成課 指導主事 有崎 美紀 ・ 小学校部会、Cブロック 静岡県掛川市教育委員会学校教育課 指導主事 高塚 秀和 ・ 中学校部会、Aブロック 岩手県教育委員会事務局学校教育室学力・復興教育担当 主任指導主事 森本 晋也 ・ 高等学校部会、Eブロック 熊本県教育庁教育指導局体育保健課 学校安全係 係長 工 孝幸 ・ 特別支援学校部会、Bブロック 千葉県教育庁 東上総教育事務所 山武分室 指導主事 瀧川 猛					
	◆東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ・9/14～9/15・9/17～9/18(12:00)については講師の時間以外の演習では指導助言者となる ◆株式会社社会安全研究所 所長 首藤 由紀 ・9/14演習①は指導助言 ◆東北工業大学 教授 小川 和久 ・9/14～9/16・9/18講師の時間以外は演習の指導助言者 ◆東京学芸大学大阪教育大学 教授 藤田 大輔 ・9/14～9/18講師の時間以外は演習の指導助言者										

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子供達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を習得させる。（JETプログラムにより日本に招致した外国語指導助手（ALT）に対する来日直後オリエンテーション（一般財団法人自治体国際化協会主催）の一環として実施）						
受 講 対 象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムにより招致した外国語指導助手（ALT）						
開 催 期 日	(4月期) 平成27年4月9日（木）					1日間	
	(A日程) 平成27年7月27日（月）					1日間	
	(B日程) 平成27年8月3日（月）					1日間	
	(第2次) 平成27年8月20日（木）					1日間	
受 講 人 数	定 員 (計画人数)	4月期	1,500 人	受講者数	49 人	参加率	—
		A日程			767 人		—
		B日程			934 人		—
		第2次			37 人		—
	計		1,500 人	計	1,787 人	計	119.1%
開 催 場 所	4月期=ルポール麹町（東京都千代田区） A日程、B日程、第2次=京王プラザホテル（東京都新宿区）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義で なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		おおむね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	699	39.1	651	36.4	121	6.8	7	0.4	309	17.3	0	0.0	1,787
		1,350		75.5										

2. 研修内容に関する主な意見

・授業の経験がない自分にとって、とても役立つワークショップと講師陣だった。 ・日本の外国語教育について、現状をはっきりと理解させてくれたので、有用だった。 ・もっと質疑応答をしたほうがよい。理論の時間を減らして実践的なデモンストレーションの時間を増やしてほしい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・アンケートの回収率の低さが問題になっていたが、アンケートの記入時間を設けたことと、会場出口前で退室前のアンケート提出を徹底したことにより、受講者全員から回収することができた。 次年度に向けて ・プレゼンテーション内容や運営面について、受講者の要望に対応できるよう、引き続き自治体国際化協会と文部科学省との情報共有を積極的に行う必要がある。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度外国語指導助手研修(4月期) 4月9日(木)

※当センターは1日目のみ担当

	時間	内容	
1 日 目	7:00 - 8:30	朝食	
	9:00 - 9:20	開会式	
	9:20 - 9:30	休憩	
	ALT分科会 (非英語圏ALTを含む)		CIR分科会
	9:30 - 9:50	重要事項の説明	9:30 - 9:50 重要事項の説明
	9:50 - 11:00	パネルディスカッション	9:50 - 10:50 CIRの心得と任用団体が期待すること
	11:00 - 11:10	休憩	- 休憩
	11:10 - 12:10	日本での生活等について	- パネルディスカッション
	12:10 - 13:10	昼食	12:10 - 13:10 昼食
	13:10 - 13:55	文部科学省学習指導要領等の説明 文部科学省 教科調査官 平木 裕	13:10 - 14:20 翻訳
	13:55 - 14:05	休憩	14:20 - 14:30 休憩
	14:05 - 14:55	チーム・ティーチングのデモンストレーションと効果的な授業計画 ① 京都市教育委員会 ALT担当主事 Matthew Hirakawa 八戸市教育委員会 指導主事 日向端 聖	14:30 - 15:40 通訳
	14:55 - 15:10	休憩	15:40 - 15:50 休憩
	15:10 - 16:00	チーム・ティーチングのデモンストレーションと効果的な授業計画 ② 千葉県立長生高等学校 ALT Goldson Terrique 千葉県立長生高等学校 教諭 百瀬 美帆	15:50 - 17:05 マナー関連 (電話対応、ビジ ネスメール含)
	16:00 - 16:15	休憩	
	16:15 - 17:05	MEXTワークショップ	
	17:05 - 17:15	休憩	
	17:15 - 17:45	取りまとめ団体別ミーティング	
	17:45 - 17:55	アンケート記入・提出	
	17:55 - 18:30	休憩	
	18:30 - 20:00	歓迎夕食会	
2 日 目	6:30 - 8:30	朝食	
	~10:00	各取りまとめ団体に出発	

平成27年度外国語指導助手研修(A日程) 7月27日(月)/(B日程)8月3日(月)

※当センターは1日目のみ担当

1 日 目	時間	内容					
	7:00 - 8:30	朝食					
	9:00 - 9:20	開会式					
	9:20 - 9:45	JETプログラムに関する重要事項の説明					
	9:45 - 10:00	休憩・移動					
	時間	ALT分科会	A日程(7/27)講師	B日程(8/3)講師	時間	CIR分科会	
	10:00-11:00	ALT全体会			10:00 - 11:00	CIR全体会	
	11:00-11:15	休憩				11:00 - 11:15	休憩
	11:15-12:00	文部科学省学習指導要領等の説明	文部科学省 教科調査官 向後 秀明	文部科学省 教科調査官 平木 裕	11:10 - 12:00	地方自治体の行政機構について	
	12:00 - 13:15	昼食				昼食	
13:15 - 14:25	ALTに役立つ情報・マナー			13:15 - 15:10	CIRとしての基礎スキル「翻訳」		
14:25 - 14:35	休憩						
14:35 - 15:25	チーム・ティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画 ①						
	高校 (クラス1)	千葉県立印旛明誠高等学校 教諭 戸村 玲子 千葉県立成田国際高等学校 ALT Mazel Vincent					
	高校 (クラス2)	京都市立西京高等学校 教諭 坂井 美保 京都市教育委員会 ALT Gregory Rawlins	京都市立西京高等学校 教諭 坂井 美保 京都市教育委員会 ALT Gregory Rawlins				
	中学校 (クラス3)	鳴門教育大学附属中学校 教諭 天王寺谷 圭司 神山町教育委員会 ALT Brandon Bollom	鳴門教育大学附属中学校 教諭 天王寺谷 圭司 神山町教育委員会 ALT Brandon Bollom				
	中学校 (クラス4)	水戸市立赤塚中学校 教諭 大口 由美子 水戸市立見川小学校 ALT Kristin Hanaoka	福山市教育委員会 指導主事 桑田 尚輝 福山市教育委員会 ALT Lee Owen				
	中学校 (クラス5)	鳴門市第二中学校 教諭 齋藤 智子 鳴門市教育委員会 ALT Megan Magwood	吉野ヶ里町立三田川中学校 教諭 吉田 喜美子 吉野ヶ里町立三田川中学校 ALT Trevor Alvero				
小学校 (クラス6)	八戸市教育委員会教育指導課 指導主事 日向端 聖 京都市教育委員会 ALT担当主事 Matthew Hirakawa	八戸市教育委員会教育指導課 指導主事 日向端 聖 京都市教育委員会 ALT担当主事 Matthew Hirakawa	15:10 - 15:20	休憩			
15:25 - 15:40	休憩				15:20 - 17:15	CIRとしての基礎スキル「通訳」	
15:40 - 16:30	チーム・ティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画 ②						
	高校 (クラス1)		B日程①同様				
	高校 (クラス2)	A日程①同様	B日程①同様				
	中学校 (クラス3)	A日程①同様	B日程①同様				
	中学校 (クラス4)	A日程①同様	B日程①同様				
	中学校 (クラス5)	A日程①同様	B日程①同様				
小学校 (クラス6)	A日程①同様	B日程①同様					
16:30 - 16:40	休憩				16:40 - 17:15		
16:40 - 17:15	日本語の独学法 初級A						
	日本語の独学法 初級B						
	日本語の独学法 中級A (上も含む)						
17:15 - 18:30	日本語の独学法 中級B (上も含む)			休憩			
18:30 - 20:00	歓迎夕食会						
7:00 - 8:30	朝食						
2 日 目	時間	ALT分科会			時間	CIR分科会	
	9:00 - 10:30	ALTパネルディスカッション「ALTの日本での生活について」□			9:00 - 10:30	パネルディスカッション	
		高校(クラスA)					
		小学校中学校(クラスB)					
	10:30 - 10:45	休憩		10:30 -	休憩		
	10:45 - 11:35	MEXTワークショップ				10:45 - 11:35	CIR業務について「イベント企画・実施」
		高校 (クラスA)					
		高校 (クラスB)					
		中学校 (クラスC)					
		中学校 (クラスD)					
		中学校 (クラスE)					
	小学校 (クラスF)						
	11:35 - 12:50	昼食					
	12:50 - 13:40	MEXTワークショップ			12:50 - 13:40	CIR業務について「外国語講座・学校訪問」	
	13:40 - 13:55	同上			13:40 -	休憩	
	13:55-14:45	MEXTワークショップ			13:55 - 15:50	CIRとしての基礎スキル「日本のビジネスマナーの基礎」	
	14:45 - 15:00	同上					
15:00 - 15:50	MEXTワークショップ						
同上							
15:50 - 16:05	休憩						
16:05 - 16:55	取りまとめ団体別ミーティング						
16:55 - 17:15	アンケート記入・提出						
17:15 - 20:00	集荷						
3 日 目	6:30 - 9:00*	朝食					
	7:00 - 9:00	朝食					
	～11:00	出発					

平成27年度外国語指導助手研修(第2次) 8月20日(木)

※当センターは1日目のみ担当

1日目

時間	内容							
7:00 - 8:30	朝食							
9:00 - 9:45	開会式 JETプログラムに関する重要事項の説明							
9:45 - 9:55	休憩							
9:55 - 10:55	パネルディスカッション							
10:55 - 11:10	休憩・移動							
時間	ALT分科会		時間	CIR分科会	時間	SEA分科会		
11:10-12:00	文部科学省学習指導要領等の説明	文部科学省教科調査官 平木 裕	11:10 - 12:00	CIR業務について (イベント企画・実施、学校訪問、外国語講座)	11:10 - 12:00	SEAの職務について		
12:00 - 13:00	昼食							
13:00 - 14:10	ALT全体会		13:00 - 13:55	CIRとしての基礎スキル「翻訳」	13:00 - 14:00	日本におけるスポーツ事情		
			13:55 - 14:05	休憩			14:00 - 14:10	休憩
14:10 - 14:20	休憩		14:05 - 15:00	CIRとしての基礎スキル「通訳」	14:10 - 15:10	SEAの基礎スキル		
14:20 - 15:10	ティーム・ティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画 ①	八戸市教育委員会教育指導課指導主事 日向端 聖 京都市教育委員会 ALT Etheridge William Nicholas					15:00 - 15:10	休憩
15:10 - 15:20	休憩						15:10 - 16:10	CIRとしての基礎スキル「日本のビジネスマナーの基礎」
15:20 - 16:10	ティーム・ティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画 ②	千葉県立印旛明誠高等学校教諭 戸村 玲子 千葉県立成田国際高等学校ALT Mazel Vincent						
16:10 - 16:20	休憩							
16:20 - 16:50	取りまとめ団体別ミーティング							
16:50 - 17:00	アンケート記入・提出							
18:30 - 20:00	歓迎夕食会							

2日目

6:30 - 9:00	朝食				
~11:00	取りまとめ団体へ出発				

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-1:学校経営の改善）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成27年10月5日（月）～平成27年10月16日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	12	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 251 人、参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	11	91.7	1	8.3	0	0.0	0	0.0	12
		12	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

- ・今回の研修において、保護者・地域が学校経営に参画するシステムや学校評価の在り方などを学び、学んだことを地域の研修会や自校の学校経営に還元していきたいと考えています。
- ・オランダで見聞きした教員の役割と資質向上の方策について、本県や本市の教育委員会に報告をし、地域の教員研修に生かしていただけるように働きかけていきたいと思ひます。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。

次年度に向けて

派遣テーマの見直しを行う。

- ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。
- ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。
- ・チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-2:学校経営の改善）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成27年11月16日（月）～平成27年11月26日（木）					11日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	11	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 251 人、参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	11	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	
		11		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーからの確かな助言をいただき、充実した研修となりました。 ・教頭という職務を通して学校評価を実際に進めています、イギリスの取組が日本とは大きく異なり、学校評価にも様々な形態があることが分かりました。国は違っても評価をどのように活かすか、具現化するかという点は同様である事に改めて気付かせていただきました。また、視察した学校で「評価に目が向く学校と生徒に目が行く学校がある」という言葉が聞かれました。どの国においても学校の中心は子どもであり、学校評価する上での戒めの言葉として強く残りました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。
次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-1:言語力・コミュニケーション力の育成）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成27年11月1日（日）～平成27年11月12日（木）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	20	人	参加率 ※
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 251 人、 参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	19	95.0	1	5.0	0	0.0	20
		20	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・海外の教育現場を実際に目で見て、肌で感じることができました。スペインの課題や取組について知り、日本と重ね合わせたときに日本の課題や教育制度・指導法のよさに気づくことができました。「百聞は一見にしかず」と言いますが、その通り非常に有意義な研修となりました。
・研修に行けて、コミュニケーションの仕方の視野が広がり、日本における外国語活動の在り方などへの課題、すべき点が見えてきました。今後、即生かして行きたいです。また、他地域の色々な先生と一緒に活動できたことで、学ぶことが多かったです。今後の教員生活へのよき転機となりました。同様9件
・個人の訪問ではできない貴重な経験をたくさん積ませていただくことができた。自分自身の見識を広げることもできたし、このような研修の機会には是非継続していただきたいです。
・大変貴重な研修を受けることができました。広い視野を持って課題をみることの大切さを実感し、他国の教育事情を知ることで、身近な教育を振り返ることができるということを学びました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・ 団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。
次年度に向けて
派遣テーマの見直しを行う。
・ 言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。
・ 学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。
・ チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (B-2:言語力・コミュニケーション力の育成)					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ					
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者					
開 催 期 日	平成27年12月1日（火）～平成27年12月12日（土）				12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	20	人
開 催 場 所	別紙のとおり					

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 251 人、参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	14	70.0	6	30.0	0	0.0	0	0.0	20
		20	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・外から日本の教育について見るという点で、たくさんの発見があり、とても刺激を受けました。貴重な経験ができ大変有意義な研修をさせていただきました。同様1件 ・説明が多くあり、教育カリキュラムについてよく学ぶことができました。出来れば、その実践（授業）を見て理解をもっと深めたかったです。オーストラリアでの授業や生徒の様子は本当にすばらしく、今後に生かしていきたいです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。 次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-1:PISA型学力の育成）									
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ									
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。									
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者									
開 催 期 日	平成27年11月23日（月）～平成27年12月4日（金）							12日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	25	人	参加率	※		
開 催 場 所	別紙のとおり									

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 251 人、 参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	25	0	0	0	0	0	25
割合 (%)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	25	100.0%					

2. 研修内容に関する主な意見

・自分の現状と比較して全く異なる文化や思想、教育システムを見ることができて、本当に良かったです。違いだけでなく共通する考え方から、実践のヒントも多く得ることができました。同様5件 ・今回「PISA型学力」というテーマでしたが、コミュニケーションの側面からもたくさん話が聞けて良かったです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。 次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-2:PISA型学力の育成）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成27年10月19日（月）～平成27年10月30日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	23	人	参加率 83.7%
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 251 人、参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	21	91.3%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	23
		23		100.0%										

2. 研修内容に関する主な意見

・この研修で、これまでの自分自身の教育観で何が不足していたのかを思い知らされました。派遣先ドイツは移民・難民の流入で学習者の多様化が進み、従来の一斉授業では授業が成立しない状況が生まれています。ドイツの先生方はこの状況に対応するため、学習の個別化を進め、目標標準型のカリキュラムを作成して成果を上げているように見えました。日本においてもこれらの要素を導入するようですが、それらを誰よりも早くこの目で観察することができて、とても光栄に思います。教員研修指導者として、勤務校と地域に研修成果を還元できるよう、誠心誠意努力したいと考えております。 ・海外の教育制度・授業実践に触れることで日本の教育を見つめ直す経験は、想像した以上に有効であった。今後の各地域での活用の仕方がポイントとなってくる。研修終了後の効果についても明らかにしていくことが大切と思われます。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。
次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-3:PISA型学力の育成）					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ					
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者					
開 催 期 日	平成27年11月2日（月）～平成27年11月13日（金）					12日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	24	人 参加率 ※
開 催 場 所	別紙のとおり					

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 300 人、 受講者数 251 人、 参加率 83.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	19	79.2%	5	20.8%	0	0.0%	24
		24	100.0%					

2. 研修内容に関する主な意見

・貴重な経験をすることができ、本当に良い機会を与えていただいたと感謝しています。この研修の成果をぜひ様々なところで生かし、発信していきたいと思います。同様5件

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。
次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・ 言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・ 学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・ チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-1:生徒指導・教育相談の充実）										
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ										
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。										
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者										
開 催 期 日	平成27年10月5日（月）～平成27年10月16日（金）									12日間	
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	13	人	参加率	※			
開 催 場 所	別紙のとおり										

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 251 人、参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	11	84.6%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%	13
		13		100.0%										

2. 研修内容に関する主な意見

・2週間という長い期間、職務という形で勉強させていただきとても自分の糧となりました。実際に自分で見て、触れて、考える事ができ、とても勉強になりました。教育相談、いじめの問題についても今後日本で取りいれていけたらと考えています。また、誰もが平等に教育を受けられ日本の教育のすばらしさも実感することができました。基盤となる子どもたちの育成を私たちは担っているので、来年度も多くの先生方に経験していただき、日本をさらに良い国にしていけたらと思います。同様4件 ・今回は、団長、副団長、シニアアドバイザー、そして添乗員のあたたかいお言葉や、ちょっとしたお心遣いから大きな不安が2週間後、まったく消えていました。また、団員の皆様のあたたかい気持ち、そして教育者として学ぶべき点などをたくさん吸収させていただきました。今回の派遣によって価値感が変わり今後の生活に大いに役立つことができます。 ・これからの教育活動に生かせるよい経験になりました。国際理解という点からも、この海外派遣研修は有意義なものだと考えます。また、英語のリスニング力や会話力をつけなければならないと強く再認識しました。 ・海外研修（ノルウェー）に向う飛行機の中、お隣に座られた女性とお話をした際、以前、教員をやられて、海外派遣でフランスやドイツ等に行った先輩であることが分かりました。その時のお言葉で「行くと価値感、考えが変わる」がありました。そして、帰国後、まさにその通りで、生徒とのちょっとした接し方や言葉のかけ方や考え方等、視野が広がったように感じます。 ・どの国でも「いじめ防止」について、よく考えていると思いました。日本との大きな違いは、「仕事終了の時間」でした。15:00には子ども達だけでなく教師も仕事が終わること。夕方は他の仕事の人たちも「家族との時間を大切にする」が国中で当たり前に行われていることに驚きました。さらに、「いじめ」については、教師が順番に見回するなど監視システムがあることも特徴だと思いました。日本では一緒に遊ぶイメージだが、完全に「見張り役」として黄色のベストを着て外に居る姿が印象的でした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。 次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-2:学校経営の改善）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開 催 期 日	平成27年10月12日（月）～平成27年10月23日（金）					12日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	14	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	9	64.3	4	28.6	1	7.1	0	0.0	14
		14	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・本研修を通して、アメリカの学校における生徒指導体制を確認することができ、参考にしながら本校に取り入れていきたいと思ひます。また、他都道府県の先生方といろいろな交流を図ることができ、有意義な時間を送ることができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。
次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-1:キャリア教育の充実）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成27年10月26日（月）～平成27年11月6日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	14	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 251 人、参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	12	85.7%	2	14.3%	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	14
		14		1.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・今回研修に参加させていただき、大変貴重な経験をさせていただいた。ただ、自分の勉強不足と、通訳を介して話を聞き、理解することの難しさを痛感した2週間でした。
・自分の目で実際に見たり、説明を聞いたりすることで、実感を伴って理解する事ができました。ドイツのキャリア教育についてはもちろんですが、日本各地の異校種の先生方と情報交換できたことも勉強になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・ 団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。
次年度に向けて
派遣テーマの見直しを行う。
・ 言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。
・ 学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。
・ チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (F-1:スポーツ・健康教育の推進)						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成27年11月16日（月）～平成27年11月27日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	14	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 251 人、 参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	10	71.4%	4	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	14
		14	100.0%									

2. 研修内容に関する主な意見

・アメリカの教育については、その背景となる文化や考え方が日本とは異なる点があり、そのまま取り入れることが難しい点もありますが、多くは「人を育てている」その方向性で一致しており、学ぶべきことが本当にたくさんありました。今後、本県での学校保健の取組に活用してもらえよう、学んできたことをしっかり伝えていきたいと思っています。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。 次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (G-1:学校教育の情報化・ICTの活用)					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ					
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者					
開 催 期 日	平成27年11月30日（月）～平成27年12月11日（金）				12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	15	人 参加率 ※
開 催 場 所	別紙のとおり					

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 251 人、参加率 ※

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	14	93.3%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15	
		15		100.0%											

2. 研修内容に関する主な意見

・多くの収穫のあるすばらしい研修です。ぜひ多くの教員が参加できるよう本事業の継続を希望します。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。 次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-1:特別支援教育の充実）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成27年11月16日（月）～平成27年11月27日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	19	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 251 人、参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	18	94.7%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	19
		19	100.0%									

2. 研修内容に関する主な意見

・教育課題研修指導者海外派遣プログラムに参加したことによって、教育をも含めた異文化に触れることができ、確実に視野が広がりました。貴重な体験をさせていただいたことに感謝し、この教育課題研修指導者海外派遣プログラムの主旨のとおり、今後、この研修成果を生かし、教員としての専門性の向上に努めていきたいです。同様7件 ・日本とは異なる文化・歴史のある国の教育制度・教育実践等を見聞するのは、とてもよい研修になり、日頃の実践や教育環境等を見直す機会となりました。ただ、学校の取組ではどうにも解決しないこともあり、今後の啓発等にも努めなければならないと感じました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。 次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-1:学校と地域等の連携）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成27年10月26日（月）～平成27年11月6日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	14	人	参加率 ※
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 251 人、 参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	12	85.7%	2	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	14
		14		100.0%								

2. 研修内容に関する主な意見

・実際に行ってみて体験して、幅広い知見を得ることができ、大変有意義な研修でした。同様6件 ・外国の教育制度や学校の様子について学ぶ機会がなかったので、視野を広げることができ、有意義な研修となりました。 ・現地に行かないと分からないことがたくさんあるので、今回イギリスに行かせて頂いて、日本の教育制度や在り方との違いが明らかになり充実した研修となった。訪問先はそれぞれの特色があり内容も良かったです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。 次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-2:学校と地域等の連携）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成27年11月15日（日）～平成27年11月26日（木）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	13	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 251 人、 参加率 83.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	13	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	
		13		100.0%											

2. 研修内容に関する主な意見

・台湾への派遣は、今回が初めてだとお聞きしました。地域との連携、地域の文化・教育の中心となる学校の在り方について学ぶ場として、台湾という地域は最適だったと思います。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・団長、副団長、シニアアドバイザー、団員間の情報共有・情報交換のため、SNSを設置し利用を促した。 次年度に向けて 派遣テーマの見直しを行う。 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとすることとする。 ・学び続ける教員像を確立していくための教員政策について、校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした「教員の資質向上」を新たなテーマとすることとする。 ・チームとしての学校の体制を整備することの重要性から「チーム学校の推進」を新たなテーマとすることとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成27年度 教育課題研修指導者海外派遣プログラム 派遣団一覧

派遣テーマ	団数	派遣 団名	人数	派遣国・地域 (派遣都市)	派遣期間	日数	事前研修会
学校経営の改善	2	A-1	12	オランダ	10月5日(月)～10月16日(金)	12	8/8(土)～8/9(日) 教員研修センター (つくば市)
		A-2	11	イギリス	11月16日(月)～11月26日(木)	11	
言語力・コミュニケーション力の育成	2	B-1	20	スペイン	11月1日(日)～11月12日(木)	12	
		B-2	20	オーストラリア	12月1日(火)～12月12日(土)	12	
PISA型学力の育成	3	C-1	25	フィンランド	11月23日(月)～12月4日(金)	12	
		C-2	23	ドイツ	10月19日(月)～10月30日(金)	12	
		C-3	24	カナダ	11月2日(月)～11月13日(金)	12	
生徒指導の充実	2	D-1	13	ノルウェー	10月5日(月)～10月16日(金)	12	
		D-2	14	アメリカ	10月12日(月)～10月23日(金)	12	
キャリア教育の充実	1	E-1	14	ドイツ	10月26日(月)～11月6日(金)	12	
スポーツ・健康教育の推進	1	F-1	14	アメリカ	11月16日(月)～11月27(金)	12	
学校教育の情報化・ICTの活用	1	G-1	15	オランダ・ デンマーク	11月30日(月)～12月11(金)	12	
特別支援教育の充実	1	H-1	19	イタリア	11月16日(月)～11月27(金)	12	
学校と地域等の連携	2	I-1	14	イギリス	10月26日(月)～11月6日(金)	12	
		I-2	13	台湾	11月15日(日)～11月26日(木)	12	

I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。					
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員					
開 催 期 日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）				日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	35	参加率 35.0%
開 催 場 所	東北芸術工科大学、国立大学法人宇都宮大学ほか					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	30	88.2	4	11.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.9	35
		34		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・自分自身がこれから授業を実施するために必要な知識を身につけられたことはもちろん、専門学校での指導方法を学び、生徒の理解を深めさせるためのテクニックなどを知ることができた。今後参考にし、より良い授業ができるよう努めたい。 ・企業先で学んだ事が実習に取り入れることが可能であったり、授業で話をする時の知識として役に立つと感じた。 ・学校現場を離れ、多くの時間をかけて研修を行うことができたことで、自分のスキルを大いに高めることができた。今後も、研修を積み重ねていきたいという意欲が高まった。 ・今回の研修を通して、学校だけでは学べない、農業の奥深さを知る事ができ、質を高める事ができたのではないかと思います。多くの先生が最新の知識や技術を吸収する機会を持つ事ができるならば、授業内容はもっと充実し、学校の活性化につながるのではないかと感じた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 産業・理科教育教員派遣研修 研修派遣一覧

No	都道府県	派遣 人数	派遣元	派遣先		
			所属	機関名	派遣時期	期間
1	山形県	1	山形県立米沢工業高等学校	東北芸術工科大学	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	12 ヶ月
2	栃木県	8	那須塩原市立波立小学校	国立大学法人宇都宮大学	H27. 4. 1 ~ H27. 9. 30	6 ヶ月
3			佐野市立城東中学校	国立大学法人宇都宮大学	H27. 4. 1 ~ H27. 9. 30	6 ヶ月
4			上三川町立本郷小学校	国立大学法人宇都宮大学	H27. 10. 1 ~ H28. 3. 31	6 ヶ月
5			真岡市立真岡東中学校	国立大学法人宇都宮大学	H27. 10. 1 ~ H28. 3. 31	6 ヶ月
6			矢板市立矢板中学校	国立大学法人宇都宮大学	H27. 4. 1 ~ H27. 9. 30	6 ヶ月
7			小山市立小山城南中学校	国立大学法人宇都宮大学	H27. 10. 1 ~ H28. 3. 31	6 ヶ月
8			栃木県立足利清風高等学校	大原簿記情報ビジネス専門学校	H27. 4. 1 ~ H27. 9. 30	6 ヶ月
9			栃木県立佐野松桜高等学校	国立大学法人一橋大学	H27. 4. 1 ~ H27. 9. 30	6 ヶ月
10	群馬県	1	群馬県立伊勢崎工業高等学校	前橋工科大学	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	12 ヶ月
11	長野県	2	長野県池田工業高等学校	国立大学法人信州大学	H27. 5. 1 ~ H28. 3. 31	11 ヶ月
12			長野県松本市立清水中学校	国立大学法人信州大学	H27. 5. 1 ~ H28. 2. 28	10 ヶ月
13	愛知県	7	愛知県立瑞陵高校高等学校	国立大学法人名古屋大学大学院	H27. 9. 1 ~ H28. 2. 29	6 ヶ月
14			愛知県立安城農林高等学校	愛知県農業総合試験場（東三河農業研究所）	H27. 9. 1 ~ H27. 11. 30	3 ヶ月
15			愛知県鶴城丘高等学校	豊橋技術科学大学	H27. 7. 1 ~ H27. 9. 30	3 ヶ月
16			愛知県立小牧工業高等学校	日鉄住金テクノロジー株式会社	H27. 7. 1 ~ H27. 9. 30	3 ヶ月
17			愛知県立一宮工業高等学校	戸田・名工特定建設工事共同企業体 愛知総合工科高等学校建設工事現場	H27. 9. 1 ~ H27. 11. 30	3 ヶ月
18			愛知県立春日井商業高等学校	トライデントコンピュータ専門学校	H27. 4. 1 ~ H27. 6. 30	3 ヶ月
19			愛知県立桃陵高等学校	社会医療法人 財団親和会 八千代病院	H27. 9. 24 ~ H27. 12. 22	3 ヶ月
20	京都府	3	城陽市立西城陽中学校	国立大学法人大阪大学大学院	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	12 ヶ月
21			京丹後市立網野南小学校	国立大学法人大阪大学大学院	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	12 ヶ月
22			京都府立南陽高等学校	国立大学法人京都大学大学院	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	12 ヶ月
23	大阪府	1	大阪府立淀川工科高等学校	大阪電気通信大学	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	12 か月
24	和歌山県	1	和歌山県立有田中央高等学校	国立大学法人和歌山大学	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	12 ヶ月
25	高知県	1	高知県立伊野商業高等学校	高知工科大学	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	12 ヶ月
26	福岡県	1	福岡県立久留米筑水高等学校	野村農園	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	12 か月
27	佐賀県	3	佐賀県立有田工業高等学校	国立大学法人佐賀大学	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	12 か月
28			佐賀県立唐津商業高等学校	大原簿記情報専門学校	H27. 4. 1 ~ H27. 9. 30	6 か月
29			佐賀県立嬉野高等学校	麻生外語観光&製菓専門学校	H27. 10. 1 ~ H28. 3. 31	6 か月
30	熊本県	1	熊本県立御船高等学校	泰明電機株式会社	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31	12 か月
31	札幌市	1	北海道札幌市平岸高等学校	国立大学法人北海道大学	H27. 9. 15 ~ H27. 12. 15	4 ヶ月
32	宮崎県	1	宮崎県立日南振徳高等学校	国立大学法人宮崎大学	H27. 9. 1 ~ H28. 2. 29	6 ヶ月
33	山口県	3	山口県立宇部商業高等学校	株式会社 下関大丸	H27. 6. 1 ~ H27. 8. 31	3 ヶ月
34			防府市立華陽中学校	国立大学法人山口大学	H27. 7. 1 ~ H27. 9. 30	3 ヶ月
35			山口市立宮野中学校	国立大学法人山口大学	H27. 12. 1 ~ H28. 2. 29	3 ヶ月

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業A－1）「生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成27年8月3日（月）～平成27年8月7日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	19	参加率 95.0%
開 催 場 所	クリエイト浜松、京丸園、スマイルベリー（静岡県浜松市）					

※ 全体受講定員 240 人、 受講者数 260 人、 参加率 108.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	18	94.7	1	5.3	0	0.0	0	0.0	19
		19	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・研修のプログラムも私たち現場の職員が知らない事ばかりで、勉強になった。この研修を生かして教育現場で生徒に還元できるように努力をしていきたい。 ・素晴らしい講師の先生方からお話を聴いたり、受講者間でのグループワークを通し、自分の意識が変わった。「生物活用」や「グリーンライフ」は今後の農業教育の中心となる科目で、この研修の成果を県内の農業教員に還元する責任を感じた。 ・商品開発の方法や手段、企画力の必要性など、多く学べた。最後の演習においては、今後の授業につなげられそうな感じだった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式 1)

平成27年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(農業, A-1)

団体名 特定非営利法人 しずおかユニバーサル園芸ネットワーク

日 時	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	12:30	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月3日 (月)			開講式	【講義】 生物活用・グリーン ライフの意義と動向 (田畑・1)	【研究協議】 自己紹介・交流 プログラム紹介 (久保田・1)	昼休み	【講義】 園芸の特質と活用 (塚本・2)	【講義】 農産物のブランド化と は (岩崎・2)			諸 連 絡
8月4日 (火)		【見学・実習】 観光農園の実際 (スマイルベリー)	【講義】 グリーンツーリズムについて (豊田由・1.5)		昼休み	【見学】 ユニバーサル農業の実際 (京丸園・2.5)	【講義】 農業生産法人の可 能性 (鈴木・1.5)				諸 連 絡
8月5日 (水)		【講義】 6次産業化の実際 (伊藤・1)	【講義】 新しい農業の可能性 (加藤・2)		昼休み	【講義】 ソーシヤルビジネスとし ての農業 (国保・2)	【講義・演習】 ファシリテーション法 とは (小川 1・1)				諸 連 絡
8月6日 (木)		【講義】 交流活動の進め方 (久保田1.5)	【演習】プログラミング演習① テーマの設定 (久保田1.5)		昼休み	【講義】 評価の具体例 (久保田・1)	【演習】プログラミング演習② 活動と評価 (久保田・3)				諸 連 絡
8月7日 (金)		【講義】 新たな授業の視点 (久保田・1)	【演習・研究協議】 新しい授業展開の可能性 (久保田・2)		閉講式						

実施会場： クリエイト浜松、京丸園、スマイルベリー (静岡県浜松市)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業B－1）教科「工業」における授業改善に関する講義と演習～工業科におけるPBL実践法～					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成27年8月18日（火）～平成27年8月22日（土）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	28	参加率 140.0%
開 催 場 所	金沢工業大学扇が丘キャンパス（石川県野々市市）					

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 260 人、参加率 108.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	22	78.6	6	21.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	28	
		28		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・グループワークを通しての活動する大切さを感じた。意見を出し合うことで、問題点や改善点が見えてきた。高校生には、指導と時間がとてもかかりそうだが、少しずつ実践していきたい。 ・PBLというものをよくわからずに受講し、大変ではあったが、充実感を持つことができた。今後、生徒に少しでも還元する場面を増やし、生徒にも同じような充実感や達成感を持たせたい。 ・普段の学校では実施していない指導方法や、演習・発表などを経験でき、今後の教科指導や学習支援での大きな指針となった。 ・県のセンター研修では実践する事が少ない為、体験させて頂くことで、自分の物に出来た。他県の先生方と交流が出来た事も大変有意義であり、大きな発見があり、自校に持ち帰って実行してみたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 27 年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

(工業：B－1)

団体名： 学校法人金沢工業大学

時 限	1 時 限 8:40～10:10	休 憩	2 時 限 10:30～12:00	休 憩	屋 休 み	3 時 限 13:00～14:30	休 憩	4 時 限 14:50～16:20	自主活動時間 16:40～18:00
日 時	8:40 9:00 10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
8 月 18 日 (火)	開講式 オリエン テーション 約 20 分	(講義) 工学教育① 教科「工業」における 授業改善について	(講義) 工学教育② PBL 概論、指導および評価法、 技術者倫理	休 憩	屋 休 み	(講義) 工学教育③ 金沢工業大学の工学設計教育	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ① メインテーマ領域の提示 模擬体験	(グループ活動)
8 月 19 日 (水)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ② メインテーマからプロジェクトテーマ を創出するための情報収集と テーマ絞り込み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ③ プロジェクトテーマ候補の 評価と発表、討議 市場・顧客の要望調査	休 憩	屋 休 み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ④ 市場・顧客の要望調査 プロジェクトテーマの分析と 取組ポイントの明確化	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ⑤ 進捗報告を口頭発表	(グループ活動)	
8 月 20 日 (木)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ① プロジェクトテーマの現状把握、 原因分析を行い、 取り上げる課題を提示	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ② 提案の評価と発表	休 憩	屋 休 み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ③ 提案のコンセプト表現と モデル制作	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ④ 提案のコンセプト表現と モデル制作	(グループ活動)	
8 月 21 日 (金)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ⑤ 成果のまとめと発表準備	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ⑥ 成果の発表、討議	休 憩	屋 休 み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ① 工業高校で活用可能な テーマを設定し、チーム内討議	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ② 情報収集、成果のまとめ 発表準備	(グループ活動)	
8 月 22 日 (土)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ③ 成果の発表、討論	(協議) 工学教育④ ～受講者と講師陣による 意見交換とまとめ～	休 憩	閉講式 12:00 ～ 12:40					

実施会場： 金沢工業大学扇が丘キャンパス (石川県野々市市)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業C－１）教科「商業」における授業改善に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成27年7月27日（月）～平成27年7月31日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	40	人	受講者数	39	人	参加率	97.5%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉縣市川市）							

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 260 人、参加率 108.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	35	89.7	4	10.3	0	0.0	0	0.0	39
		39	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・商業教育に対して日頃から疑問に感じていたことが、決して自分だけの思いではなかった。多くの先生方が不安に感じていたことを共有できた。 ・各種研修は今自分自身が学校現場で活用できる内容ばかりだった。今回の研修をきっかけに、その内容や方法について研究し、学校内で研修会を行い、教員相互で学ぶ環境を作り、生徒に還元していきたい。 ・今回の研修で、商業教育の課題、進むべき道など、あらためて考えることができた。自分のことだが、まだまだ知識不足、勉強不足であると痛感した。日々変わっていくビジネスと同様に私も日々学んでいくことを大切にしたい。 ・新学習指導要領の中での新科目も始まり、今一度商業教育について総体的に学ぶことができた。また、次期学習指導要領についての柱にかかわる部分についても、さまざまな視点から教授いただくことができた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式 1)

平成 27 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(商業, C-1)

団体名：千葉商科大学

日 時	9:00	9:30	10:30	10:40	12:10	13:10	14:40	14:50	16:20	16:30	17:00
7 月 27 日 (月)		受付	開講式	10:00-11:00 (講義) 「商業教育に魅力はあるか」	11:10(グループ研究) 「魅力ある商業教育の構築」	昼休み	(講義) 「ビジネスマナーに関する指導力の向上」	(講義) 「企業における知的財産管理と商業高校における知的財産教育への期待」	グループ研究		
7 月 28 日 (火)		(講義) 「ケーススタディによるマーケティング指導」	(講義) 「思考力・判断力・表現力等を育成する学習指導」	(講義) 「グループ研究」	(講義) 「ネットワークの理解と商業教育への応用」	昼休み	(講義) 「ビジネス経済分野の指導」	(講義) 「魅力ある商業教育の構築」協議	グループ研究		
7 月 29 日 (水)		(講義) 「商業高等学校におけるケースメソッドの利用」	(講義) 「ケースメソッド教育を取り入れた授業展開」	(講義) 「信用金庫業界が求める高校生像」	(講義) 「会計教育の意義と期待」	昼休み	(講義) 「産業界と連携した実践的な授業展開」	(講義) 「グループ研究」	16:30-17:30 情報収集	17:45 ～ 懇親会	
7 月 30 日 (木)		(講義と実習) 「ディベートを取り入れた授業展開」	(講義) 「商業高校におけるマーケティング教育」	(講義) 「商業教育の理解への促進 ～キッズビジネススタウン～」	(グループ研究) 「魅力ある商業教育の構築」まとめ	昼休み	(講義) 「魅力ある商業教育の構築」発表	(講義) 「企業における知的財産管理と商業高校における知的財産教育への期待」	グループ研究		
7 月 31 日 (金)		(講義) 「電子商取引の指導」	(講義) 「商業教育の理解への促進 ～キッズビジネススタウン～」	(講義) 「商業教育の理解への促進 ～キッズビジネススタウン～」	(グループ研究) 「魅力ある商業教育の構築」まとめ	昼休み	(講義) 「魅力ある商業教育の構築」発表	(講義) 「企業における知的財産管理と商業高校における知的財産教育への期待」	16:00-16:30 閉講式		

実施会場：；千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（水産D－１）水産物の資源管理と海洋環境に関する講義と実習					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成27年8月24日（月）～平成27年8月28日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	15	人	受講者数	29	参加率 193.3%
開 催 場 所	茨城県立海洋高等学校（茨城県ひたちなか市）					

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 260 人、参加率 108.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	24	82.8	5	17.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	29
	29		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・実技・講習ともに、講師の先生方からの的確なアドバイスを預くことができた。ダイビングの練習環境が整っており、実技練習に励むことができた。 ・学校で教えているやり方とは違うやり方を学べ、とても参考になった。他の学校においても安全に対する考えに基づいてそれぞれの指導されていることが分かり、指導の幅も広がったと思う。 ・短期間での研修であったが、講師の方々が親切丁寧で、実ある時を過ごす事ができた。共に参加した各地方の先生方との交流もあり、多々情報交換する事ができた。 ・実習が実技検定の練習が多く、生徒への指導を視野に入れた指導方法習得の時間が少なかったように思う。指導方法やスキル項目のポイント等を教えていただきたかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(水産、D-1)

団体名 一般財団法人社会スポーツセンター

日 時	8:30	9:00	9:30	10:00	12:00	13:00	15:00	15:15	17:15	19:00	21:00
8月24日 (月)		開講式 オリエンテーション	休憩	(実習) 救急蘇生実習	昼食・ 休憩	(講義・実習) ダイビングにおける水泳・ フィン泳力とスキングダイビングの必要性	休憩	(講義・実習) 潜水計画及び指導計画	夕食・ 休憩	自由練習	
8月25日 (火)		筆記テスト①	休憩	(講義) 潜水物理学	昼食・ 休憩	(講義) 潜水医学 メデイカルチェック	休憩	(実習) 指導実習の実践	夕食・ 休憩	自由練習	
8月26日 (水)		筆記テスト②	休憩	(講義) 潜水計画と指導計画 海況判断	昼食・ 休憩	(講義) 潜水生理学	休憩	(実習) 個人、集団の指導及び 評価方法	夕食・ 休憩	自由練習	
8月27日 (木)		筆記テスト③	休憩	(講義・実習) DC I E M減圧表について	昼食・ 休憩	(講義) 潜水計画及び指導計画	休憩	(実技検定) 40m平行潜水 400mフリッパー 10分間泳(クロール泳) スクーパー水中脱着	夕食・ 休憩	自由練習及び実技追試	
8月28日 (金)		筆記テスト④	休憩	(講義・実習) 調査潜水と器材について	昼食・ 休憩	(講義) インストラクターの役割 ダイビングの歴史と概要	休憩	(講義) 今後の潜水 教育のあり 方	閉 講 式		
	8:30	9:30	10:00	12:00	12:45	14:45	14:55	15:30	15:40	16:00	

実施会場：茨城県立海洋高等学校（茨城県ひたちなか市）

※詳細は、別紙参照

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭E-1）「社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービス等の生活産業に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成27年8月3日（月）～平成27年8月6日（木）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	25	人 参加率 125.0%
開 催 場 所	全国高等学校長協会家庭部会（東京都千代田区）、女子栄養大学坂戸校舎（埼玉県坂戸市）他					

※ 全体受講定員 240 人、 受講者数 260 人、 参加率 108.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	25	100.0	0	0.0	0	0.0	25
		25	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・様々な分野における最先端で最新の情報を提供していただいた。どの先生方も気さくで、気軽に情報を提供して下さることに驚いた。また、受講者同士で各学校の情報交換もできた。どの先生方もバリエーションでよい刺激を受けた。 ・多くの専門分野にわたって取り上げられていたのでとても勉強になった。4群点数法や色彩など生徒たちに今すぐでも教えられる内容だった。今回の研修で得たものを家庭での授業で実践していきたい。 ・参加させて頂き、本当に良かった。私は一人体制で家庭基礎とフードデザインを教えているが、教材研究も独りよがり、なかなか苦労していた。今回の研修で、自分が持つ知識がいかにあいまいで、浅いものかを痛感した。研修内容を復習しながら、学びが深められるように努力したい。 ・地方に住んでおり日頃見ることのできないものを見ることができたり、先端で研究しておられる方から最新の情報を学ぶことができてとても勉強になった。他県の先生方と交流し、情報交換ができたことが何より良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭、E-1)

全国高等学校長協会家庭部会

月日(曜)	午前1(9時30分～11時)		午前2(11時～12時30分)		昼休み	午後1(13時30分～15時00分)		午後2(午後15時00分～16時30分)		実施会場
	9:30	10:00	11:00	12:00		13:30	15:00	16:00		
1 8月3日 (月)	【開講式】 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	【講義】 「家庭科における 授業改善の視点」	【講義】 「主体的・協働的な学びの充実 ～家庭科の学習を通して～」 元校長 高賀 敦子			【講義】 授業実践事例 「知識構成型ジグソー法による指導」 埼玉県立新座総合技術高等学校 教諭 小久保 聡子 (食物)	【講義】 「暮らしを楽しむ住まいの工夫」 公益社団法人インテリア産業協会 資格制度検討委員会委員 日本女子大学家政学部住居学科、 文化学園大学造形学部デザイン・造形学科 非常勤講師 三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子 (一級建築士)			全国高等学校長協会 家庭部会事務局 会議室(千代田区)
2 8月4日 (火)	【講義】 「日本人の食事摂取基準(2015年版) －見方・使い方」 女子栄養大学 教授 石田 裕美	【講義】 「農林水産物の機能性評価 －新しい表示の導入」 女子栄養大学 教授 三浦 理代			【講義】 「わかりやすい食事献立法 －四群点数法の考え方」 女子栄養大学 准教授 西村 早苗	【演習】 「わかりやすい食事献立法 －四群点数法の使い方」 女子栄養大学 准教授 西村 早苗			坂戸校舎(坂戸市) 十二号館一二二〇二教室	
3 8月5日 (水)	【講義】 「身体表現と服飾」 杉野服飾大学 教授 瀬古 徹	【講義】 「オートクチュールとプレタポルテの ジャケット縫製技法について」 杉野服飾大学 教授 北折 貴子 杉野服飾大学短期大学部 教授 吉川 玲子	【見学】 「ラグジュアリー ブランドのジャケット －オートクチュールと プレタポルテー」 杉野学園衣裳博物館 衣裳博物館 館長 杉野服飾大学 教授 鈴木 美和子			【演習】 「色彩」 杉野服飾大学 准教授 桐山 征士 杉野服飾大学 助手 佐治 真理子	【講義】 「ドレス構成とデジタル教材活用・教室環境」 杉野服飾大学 教授 水野 真由美			杉野服飾大学 (品川区) 第二校舎二二〇三教室他
4 8月6日 (木)	【講義】 「現代の子供の生活の現状と課題」 東京都市大学人間科学部児童学科 教授 内藤 知美	【演習】 「絵本の選び方と読み聞かせ」 東京都市大学人間科学部児童学科 教授 内藤 知美			【講義】 「若者の消費者トラブルの 現状と課題」 東京都消費生活総合センター 消費者啓発員 (コンシューマー・エイド) 金藤 博子	【閉講式】	15:30		全国高等学校長協会 家庭部会事務局 会議室(千代田区)	

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護F－１）「看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成27年8月5日（水）～平成27年8月7日（金）				3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	14	参加率 70.0%
開 催 場 所	九州看護福祉大学（熊本県玉名市）					

※ 全体受講定員 240 人、 受講者数 260 人、 参加率 108.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	13	92.9	1	7.1	0	0.0	0	0.0	14
		14	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・教員でありながら、まだまだ知らないことが多く、本研修で新たに知ることがたくさんあり有意義だった。とくに教育に関すること、新しい看護に関するシステム・法律については、意味深いものであった。 ・講師の先生方からの今必要とすること、今後必要とされることをわかりやすくご教授下さったことや、全国の同じ立場にある先生方から、現状や考えをお聞きできたことが大変良かった ・他校との情報交換があり、各先生方が情熱的に、看護教育へ力を注いでいらっしゃる事が力となった。私達教員が担う責任の重さを強く感じ、日々努力していきたいと思う。 ・今後の実習展開や演習に活用できるためよかった。地域包括ケアについて、あらためて確認ができた。時代の流れを理解できた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式 1)

平成 27 年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

団体名 九州看護福祉大学

(看護, F-1)

日時	9:00	10:00	10:30	11:00	12:00	12:45	13:00	13:30	14:00	15:00	17:00
	9:30		10:45	11:45							
8月5日 (水)	受付	開講式	(講義・演習) 「コミュニケーション技術の教授 法ー演習を通じた学習方法ー」	昼食	(講義 1) 「看護を取り巻く 社会情勢」	(講義 2) 「特別支援教育に ついて」	(見学) 「九州看護福祉大学附属 鍼灸臨床センター」 *終了後、情報交換会				
8月6日 (木)		(講義) 「実習指導における 教材化」	休憩と 準備	(講義・演習) 「臨地実習指導ー看護統合実習の指導と課題ー」 *昼食は適宜							
8月7日 (金)		(講義 3) 「地域包括ケアシス テムについて」	休憩	(講義 4) 「済生会熊本 病院の取り組み について」	昼食	研修全体の 振り返り・ 総括	(講義) 「今後の 看護教育 について」	閉講式			

実施会場：九州看護福祉大学 (熊本県玉名市)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報G-1）「プログラミングツール・情報リテラシー等に関する講義と実習」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成27年7月27日（月）～平成27年7月31日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	14	人	参加率 70.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）						

※ 全体受講定員 240 人、受講者数 260 人、参加率 108.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義						
人数 (人)	割合 (%)	12	85.7	2	14.3	0	0.0	0	0.0
		14	100.0						14

2. 研修内容に関する主な意見

・民間企業で活躍される講師の先生によるお話しは、目まぐるしく変化する情報社会で、情報教育に求められるものについて、理解が深まった。しかし、情報技術（HTML、データベースなど）の内容について、基礎的なレベルのものも多く、既習事項だった。授業展開の工夫や授業実践についてもお聞きしたかった。 ・普段勤めている学校とは違った商業科や総合学科の先生の指導が受けられて、大変ためになった。また、文科省の教科調査官の話を聞いて、教科情報の今後の活動に身を入れるべきと強く感じた。 ・授業で扱える教材や内容のヒントが多くあり、とても勉強になった。また、校務でも活用できる事例もあり、多くの先生方や、生徒たちに還元できそう。 ・知らないことが多かったのととても勉強になった。これから勉強して生徒に伝えたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 ・当センターの第4期中期計画の研修の廃止等の規程により、適当な委託先がない休止中のコースを本コースに統合した。 次年度に向けて ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式 1)

平成27年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(情報, G-1)

団体名：千葉商科大学

日 時	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7月27日(月)		受付	9:30～ 開講式 (講義実習)	10:00～12:10 ネットワークの基礎(IPネットワーク)	12:10～13:10 昼休み	13:10～14:20 (講義実習) ネットワークの 応用(ファイル共有)	14:30～15:40 (講義実習) Webサーバの構築 と管理	15:50～17:00 (講義実習) HTML		
7月28日(火)		9:00～10:30 (講義実習) HTML	10:40～12:10 (講義実習) ダイナミックHTML	12:10～13:10 昼休み	13:10～15:40 (講義実習) ダイナミックHTML	14:50～16:20 (講義) 授業実践報告	15:50～17:00 (講義実習) Webアプリケーション			
7月29日(水)		9:00～12:10 (講義実習) プログラミングツール	12:10～13:10 昼休み	13:10～14:40 (講義) IT事業の展望	14:50～16:20 (講義) 授業実践報告	16:30～17:30 (講義)文部科学省講話	17:45 懇親会			
7月30日(木)		9:00～12:30 (講義実習) マクロプログラミング	12:30～13:30 昼休み	13:30～17:30 (講義実習) データベースの構築						
7月31日(金)		9:00～11:20 (講義)情報リテラシー	11:30～12:10 (講義実習) Webアプリケーション	12:10～13:10 昼休み	13:10～15:40 (講義実習) Webアプリケーション	16:00～ 16:30 閉講式				

実施会場：千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（福祉H-1）「実践的介護の知識及び技能の向上を図るための講習（教員介護知識技能講習）」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成27年8月19日（水）～平成27年8月21日（金）				3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	41	参加率 136.7%
開 催 場 所	名古屋市立西陵高等学校（名古屋市西区）					

※ 全体受講定員 240 人、 受講者数 260 人、 参加率 108.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義								
人数 (人)	割合 (%)	36	87.8	5	12.2	0	0.0	0	0.0	0	41
		41	100.0								

2. 研修内容に関する主な意見

・日頃授業等で生徒に説明している内容について、大変詳しく学ぶことができた。特にリハビリ、動物介在療法、福祉機器については外部機関に頼るしかなく、自校だけでの学習は難しいと考えるため、このような研修会で学ぶことができたのは大変有意義であった。 ・目からうろこではないが、様々な発見がある実りのある研修会だった。福祉の難しさ、奥深さを改めて感じる事ができた。学校に戻ったら、教員間で共有するだけでなく、生徒へも最新の情報を伝えたい。 ・新しい知識や技術を学び福祉教育に対する意識を変えていく機会となった。県費でこのような研修に出席させて頂いたことを感謝し、ここで学んだことを高校に戻ってから授業に活かし同僚の福祉科教員にも還元していきたい。 ・他県の先生との情報交換が出来たことも参考になりよかった。研修内容もこれまでのことを見直すきっかけとなった。頂いた資料も授業で大いに活用したい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式1)

平成27年度 産業・情報技術等指導者養成研修 日程

(福祉、H-1)

団体名 全国福祉高等学校長会

日時	13:00	13:15	14:45	15:00	16:30
8月19日 (水)	開講式				
8月20日 (木)	9:15	10:45	11:00	12:30	12:30
	講義① 理学療法法の理解	講義② 言語聴覚の理解	講義③ 動物介在療法の理解	講義④ 福祉用具・住環境の理解	16:30
8月21日 (金)	10:00	12:00	12:45	14:15	14:30
	施設見学 ユニットケアの特徴(介護現場の現状と課題) 施設と学校との連携について(実習指導) 会場:名古屋市北区	昼休み	高校福祉教育の現状と 今後の動向について	閉講式	

実施会場:名古屋市立西陵高等学校(名古屋市西区)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-1）「これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成27年8月3日（月）～平成27年8月7日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	15	人	受講者数	13	人	参加率
開 催 場 所	鳴門教育大学(徳島県鳴門市)						

※ 全体受講定員 240 人、 受講者数 260 人、 参加率 108.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	10	76.9	3	23.1	0	0.0	0	0.0	13
		13	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 普段の生活の中ではとても到達できない考えまで、深めることができた。同じく経験できないレベルの高い内容に触れることができた。先生方の熱い気持ちに自分の意欲がかきたてられた。 ・ これから10年後として課題になりそうな研修ができたのでよかった。10年前ぐらいに勉強していたことが現在利用されるようになり、これから先に何が求められるかを知りたかったのでよかった。 ・ 先進的な内容を先生方が丁寧にわかりやすくご教授くださったおかげで、非常に有意義な研修を受けることができた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 ・ 受講定員の削減及び研修の内容の見直しを行った。 次年度に向けて ・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式 1)

平成 27 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術, I-1)

団体名： 鳴門教育大学

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
平成 27 年 8 月 3 日 (月)		9:30- 10:00 開 講 式	(講義 10:00-12:00) 今後の社会を支える技術分野の在り方 ― 中央教育審議会における検討を踏まえて ―		昼休み	(講義 13:00-15:00) 計算機器の変遷	(実習 15:00-17:00) 技術教材の利用		
8 月 4 日 (火)	(実習 9:00-12:00) 第1班：エネルギー変換 (機械) と材料加工 第2班：エネルギー変換 (電気) と計測・制御				昼休み	(実習 13:00-17:00) 第1班：エネルギー変換 (機械) と材料加工 第2班：エネルギー変換 (電気) と計測・制御			
8 月 5 日 (水)	(実習 9:00-12:00) 情報システムとネットワーク				昼休み	(実習 13:00-17:00) 情報システムとネットワーク			
8 月 6 日 (木)	(実習 9:00-12:00) 第1班：エネルギー変換 (電気) と計測・制御 第2班：エネルギー変換 (機械) と材料加工				昼休み	(実習 13:00-17:00) 第1班：エネルギー変換 (電気) と計測・制御 第2班：エネルギー変換 (機械) と材料加工			
8 月 7 日 (金)	(研究協議 9:00-12:00) 第1・2・3班：(各班での協議) 技術教育ディスカッション				昼休み	(研究協議 13:00-15:00) 技術教育ディスカッション (全体発表)	15:00- 15:30 閉 講 式		

実施会場： 鳴門教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-2）「これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成27年7月27日（月）～平成27年7月31日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	14	人	参加率	70.0%
開 催 場 所	宮城教育大学							

※ 全体受講定員 240 人、 受講者数 260 人、 参加率 108.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	12	85.7	2	14.3	0	0.0	0	0.0	14
		14	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・技術科教師のあり方について考えさせられたことが多く、大変有意義であった。日々の生活ではなかなか体験できないことが多く、自分にとって貴重な時間であった。研修内容を子どもたち、学校、地域に還元していきたい。 ・自分の今の知識がどれほどのものかを考える、良い機会になった。自分自身の中にいろんなことを探究していく姿勢が何よりも大切だと実感できた。自分が教員であることの自覚をしっかりと持ち、生徒たちの前に立ちたいと思った。 ・今回大学の専門の先生方に詳しく奥深い学習をさせていただく機会をいただきありがたかった。やはり子ども達にウソは教えられないので、もっと専門的知識を学習したいと思った。これからも研修に励み、子ども達に指導していきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。 ・既に隔年実施となっているので、次年度は休止し、今後、研修内容の見直しを行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式 1)

平成 27 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭(技術), I-2)

団体名 宮城教育大学

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7月27日 (月)	受付 9:00- 9:50	開講式 9:30- 9:50	(講義) 今後の社会を支 える技術分野の在 り方 - 中央教育 審議会における検 討を踏まえて - 10:00-11:30	(実習) 材料加工(鉋の 刃研ぎ治具・木 材加工小作品の 製作) 11:40- 12:40	昼休み	(実習) 材料加工(鉋の刃 研ぎ治具・木材加 工小作品の製作) 13:30-15:00	(実習) 材料加工(鉋の刃研ぎ治具・ 木材加工小作品の製作) 15:10-17:10		
7月28日 (火)	(講義/実習) 新しいものづくり 教材と技術科教育 9:00-10:30	(講義) 電気の基礎知識と LED 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 省エネルギー照明としての LED の活用 (1) 13:00-15:00	(講義/実習) 省エネルギー照明としての LED の活用 (2) 15:10-17:10				
7月29日 (水)	(講義) システムの授業 設計 9:00-10:30	(講義/実習) 技術科に求められるブ ログラミング教育 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) ものづくりとしてのプログラ ミング 13:00-14:30	(講義/実習) ロボットを活用したコンピュ ータ制御学習(1) 15:10-17:10				
7月30日 (木)	(講義) 生物育成分野の目的・ 作物栽培技術の基礎 9:00-10:30	(実習) 作物の管理方法(圃場 作物の観察と管理実 習) 10:40-12:10	昼休み	(実習) 養液栽培の体験 13:00-15:00	(実習) 作物バイテク実験室の見学と 簡単な実験体験 15:10-17:10				
7月31日 (金)	(講義/実習) ロボットを活用し たコンピュータ制 御学習(2) 9:00-10:30	(講義/実習) 往復スライダクラン ク機構の設計・製作と機 構解析(1) 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 往復スライダクラン ク機構の設計・製作 と機構解析(2) 13:00-14:30	(講義/実習) デジタル工作 機械の教育利 用(3Dプリン タほか) 14:40-15:40	閉講式 15:50- 16:20			

実施会場：宮城教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（家庭）J-1）技術・家庭科における食育、幼児理解に関する講義と実習					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成27年8月18日（火）～平成27年8月21日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	24	参加率
開 催 場 所	横浜国立大学(神奈川県横浜市)					

※ 全体受講定員 240 人、 受講者数 260 人、 参加率 108.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	21	87.5	3	12.5	0	0.0	0	0.0	24
		24	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・どの授業にもしっかりと課題を持つこと、何をねらいとするか、何と評価するかということ、指導者がしっかりとおさえておかなければならないと再確認した。機会があれば、地区の先生方にも広めていきたい。 ・様々な先生方の講義、研究発表を聴くなかで、また、他県の先生方と情報収集なかで、自分が悩んでいたことを1つ1つ解消することができた。 ・食生活や幼児とのかかわり方など、“実習をしました”で終わりがちな内容が理論的に指導する方法がわかった。また、全国の家家庭科の先生方と交流することができ、自分の財産になった。学校に戻ったら、近隣の先生方にぜひ伝えたい。 ・学校に一人しかいない中、多少の不安や疑問に目をつぶって行っていたことに対して、払拭することができた。これからの実践に自信をもつことができた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭：J－1)

団体名：横浜国立大学

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月18日 (火)		受付	開講式 10:00 開会 10:02 挨拶 10:12 閉会 リエンテーション 10:15-10:25	(講義)「技術・家庭科(家庭分野)における食育・幼児理解に関する指導の充実」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 10:35-12:00	昼食	(報告)「技術・家庭科(家庭分野)における食及び幼児に関する指導の実践事例」 20分×2人、質疑応答30分 (担当) 大川美子(宇都宮市立陽西中学校教諭) 佐久間陽子(埼玉県越谷市大相模中学校教諭) (講義)「3学年間を見通した指導計画」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00	(講義)「幼児との触れ合い活動の留意点」 (担当)園田菜摘(横浜国立大学准教授) 教育文化ホール 中集会室 16:10-17:10	休憩 十分	
8月19日 (水)			(実習)「保育所における幼児との触れ合い活動」 森のルーナ保育園 (担当) 園田菜摘(横浜国立大学准教授)	昼食	(演習)「幼児の観察・触れ合い活動のまとめと発表」 (担当)園田菜摘(横浜国立大学准教授)、筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 13:00-14:25	休憩 十分	(講義)「幼児理解につながる触れ合い活動とは」 (担当)園田菜摘(横浜国立大学准教授)、筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 14:35-16:00	休憩 十分	(演習) 「幼児の観察や触れ合い活動における指導の工夫」 グループ討議 16:10-17:10
8月20日 (木)			(実習)「調理科学の視点を重視した実習指導」調理実習 (担当) 杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育人間科学部第1研究棟312室 調理学実験実習室 9:00-12:00	昼食・移動	(演習)食の現代的問題1 「環境に配慮した調理」 (担当) 杉山智美(東京ガス株式会社「食」情報センター) (株)東京ガス横浜ショールーム クッキングスタジオ 13:30-14:55	休憩 十分	(講義)食の現代的問題2 「食育における食品安全性」 (担当) 山本和貴(農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所 研究員) (株)東京ガス横浜ショールーム ホール 15:05-16:30	休憩 十分	(演習) 「肉又は魚の調理に関する指導の工夫」 グループ討議 16:40-17:30
8月21日 (金)			(実験)「食品選択を考える授業 オレンジジュース作りを例に」調理実験 (担当) 杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育人間科学部 第1研究棟 312室 調理学実験実習室 9:00-12:00	昼食	(ディスカッション) 「技術・家庭科(家庭分野)における食育・幼児理解に関する指導の充実」 (担当) 杉山久仁子(横浜国立大学教授)、園田菜摘(横浜国立大学准教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-14:25	休憩 十分	閉講式 14:35 開会 14:37 挨拶 14:45 修了 証授与 14:55 閉会 アンケート回収 諸連絡		

実施会場：横浜国立大学教育文化ホール、(株)東京ガス横浜ショールーム

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（工業） 教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開 催 期 日	平成27年8月24日（月）～平成27年8月28日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	34	人	参加率	170.0%
開 催 場 所	足利工業大学(栃木県足利市)							

※ 全体受講定員 20 人、 受講者数 34 人、 参加率 170.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	27	7	0	0	0	0	34
割合 (%)	79.4	20.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	34	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・今回のような研修の機会に参加でき、大変良かったと思う。講義や演習で学んだことを、帰ってから学校現場で生かせるよう努力していきたい。また、同じような研修の開催を希望したい。 ・各地域から先生方が来ていて意見交換ができた。興味深い経験や新しい取り組みから、今後の指導に生かしたいと思う。自然エネルギーに関してなぜ今後必要なのか、その有益性について生徒に説明するのに参考になった。写真、グラフ、図についてイメージしやすいものであった。 ・3Dプリンタや太陽光電池、ドリトル等学校に戻ってから使ってみて、授業にいかしたい。また自然エネルギーについて勉強できたので建築にいかしたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成27年度 産業教育実習助手研修日程

団体名：足利工業大学

(工業)

日時	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	17:50
8月24日 (月)	8:30 開講式	9:00～10:30 (講義) 工業科教育法① 工業科学学習指導要領	10:00	11:00 (演習) 職業指導② 技術者倫理	12:00	13:00 (講義) 工業概論① 持続可能型社会に向けた セメント・コンクリート材料 の動向	14:00 横室 隆 教授	15:00 (講義) 工業科教育法② 授業づくり	16:00	17:00 (講義) 工業科教育法③ 学習指導案(演習を含 む)	17:50 三田純義 教授
8月25日 (火)		9:00～10:30 (講義) 職業指導① 形と強さに関する実験 授業ワークショップ	10:00	11:00 (演習) 職業指導③ 実習における安全教育 ①	12:00	13:00 (演習) 職業指導④ 実習における安全教育 ②	14:00 森 慶輔 准教授	15:00 (講義) 工業科教育法④ 教材作成①(演習を含 む)	16:00	17:00 (講義) 工業科教育法⑤ 教材作成②(演習を含 む)	17:50 三田純義 教授
8月26日 (水)		9:00～10:30 (講義) 職業指導⑤ 学習と生活習慣①	10:00	11:00 (講義) 職業指導⑥ 学習と生活習慣②	12:00	13:00 (演習) 工業科教育法⑥ 教材教具の活用と指導 上の課題	14:00 安藤康高 教授	15:00 (演習) 工業科教育法⑦ 教材教具の活用(太陽 電池製作をとおして)	16:00	17:00 (演習) 工業科教育法⑧ 実習と安全確保(太陽 電池製作をとおして)	17:50 安藤康高 教授
8月27日 (木)		9:00～10:30 (講義) 工業概論② ものづくりに関する技術・ 技能の習熟過程の考察	10:00	11:00 (演習) 工業概論③ 3D-CAD応用と3Dブ リント演習①	12:00	13:00 (演習) 工業概論④ 3D-CAD応用と3Dブ リント演習②	14:00 塚本雄二 教授	15:00 (演習) 工業概論⑤ 3D-CAD応用と3Dブ リント演習③	16:00	17:00 (演習) 職業指導⑦ 工業高校生への進路指 導:職業指導からキャリア 教育へ	17:50 森 慶輔 准教授
8月28日 (金)		9:00～10:30 (演習) 職業指導⑧ 進路指導計画の実際	10:00	11:00 (講義) 工業概論⑥ システム工学による安 全管理	12:00	13:00 (演習) 工業概論⑦ 教育用プログラミング言 語Dolittle	14:00 佐々木正仁 准教授	15:00 (講義) 工業概論⑧ 環境問題と自然エネル ギー	16:00	17:00 閉講式	

実施会場：足利工業大学 大前キャンパス(栃木県足利市)

I 研修概要

研 修 名	学校評価指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	組織的・継続的に教育活動その他の学校運営の改善を図ることを目的とした学校評価を円滑に推進するため、第三者評価の観点を含めた自己評価、学校関係者評価の生かし方等について、必要な知識及び技能を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成27年5月26日（火）～平成27年5月29日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	148	参加率 134.5%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 0 人、 受講者数 0 人、 参加率 0.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	127	85.8	20	13.5	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	148	
		147		99.3											

2. 研修内容に関する主な意見

・他県の先生方とより多く交流できる機会を設けてもらえるとさらによい。設定されたグループ以外にも意図的に交流できないか。 ・スケジュールをきちんと示してもらっていたので大まかな見通しをもって臨めた。 ・カリキュラムがしっかりとっていて、展開がスムーズであると感じた。無駄な時間が殆どなく、非常に参加しやすい研修会だった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・初日の行政説明と講義により、学校評価の基礎部分の理解を深めた。 ・事例発表について質疑応答、班別協議（意見交換）の時間を拡充した。 ・全体発表について、発表後に班別で振り返りの時間を設定した。 ・最後の講義・演習では、個人が研修内容を振り返り講師へ質問する時間を設けて、疑問を解消できるようにした。
次年度に向けて

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度学校評価指導者養成研修 日程表

	9:00	9:30	10:00	10:45	10:55	12:15	13:15	14:15	14:30	17:00
5月26日（火）	受付	開講式 エンターシヨ	行政説明 「今、求められる学校評価の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局 視学官 矢幅 清司 目的：学校評価の現状と課題について理解するとともに、国の施策について学ぶ	休憩	講義1 「実効性の高い学校評価の推進」 流通経済大学 教授 小松 郁夫 目的：学校評価ガイドラインを踏まえ、学校評価の実効性を高めるための基本的な考え方について理解する	昼食 休憩	講義2 「演習の目的とその進め方」 目的：演習の目的を理解し、その充実を図るための研修手法等について学ぶ	休憩	事例発表・協議 「学校評価を生かした学校改善の取組～信頼される学校づくりを目指して～」 岡山県立倉敷中央高等学校 教頭 川上 佳子 鳥取県伯耆町立溝口小学校 校長 小澤 敦彦 世田谷区教育委員会教育政策部教育指導課 副参事 滝沢正史 〈指導助言者〉 山梨大学 大学教育センター 教授 日永龍彦 目的：先行事例・昨年受講者の取組から、学校評価を生かした学校改善の手法、課題への対応策等の実践について理解を深める	

	8:30	12:15	13:15	17:00
5月27日（水）	講義・演習1 「学校経営改善に生かす学校評価の在り方」 山梨大学 大学教育センター 教授 日永 龍彦 目的：学校評価の結果を効果的に学校改善につなげるための手法等や、学校と設置者との連動した取組を行うための方策等について学ぶ	昼食 休憩	演習1 「学校評価の手法とその生かし方Ⅰ～情報の整理と検討～」 〈指導助言者〉 国立教育政策研究所 総括研究官 植田 みどり 山梨大学 大学教育センター 教授 日永 龍彦 兵庫教育大学大学院 准教授 川上 泰彦	休憩

	8:30	12:15	13:15	17:00
5月28日（木）	演習2 「学校評価の手法とその生かし方Ⅱ～改善方策の検討と見直し～」 〈指導助言者〉 〔幼稚園・小学校部会〕 兵庫教育大学大学院 准教授 大野 裕己 〔中学校部会〕 国立教育政策研究所 総括研究官 植田 みどり 〔高等学校・特別支援学校部会〕 兵庫教育大学大学院 准教授 川上 泰彦 〔教育委員会部会〕 山梨大学 大学教育センター 教授 日永 龍彦 目的：モデル事例について、課題解決のための改善方策の検討と見直しを行うことにより、学校運営の改善につながる学校評価の在り方についての理解を深める	昼食 休憩	演習3 「学校評価の手法とその生かし方Ⅲ～改善方策の発表～」 〈指導助言者〉 〔幼稚園・小学校部会〕 兵庫教育大学大学院 准教授 大野 裕己 〔中学校部会〕 国立教育政策研究所 総括研究官 植田 みどり 〔高等学校・特別支援学校部会〕 兵庫教育大学大学院 准教授 川上 泰彦 〔教育委員会部会〕 山梨大学 大学教育センター 教授 日永 龍彦 目的：モデル事例の検討をとおして明らかにになった改善方策について、整理し、発表することにより、効果的な学校評価の展開を図るための視点を学ぶ	休憩

	8:30	11:30	12:30	14:30	14:45
5月29日（金）	演習4 「学校評価の手法とその生かし方Ⅳ～改善方策の更なる検討～」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 准教授 大野 裕己 国立教育政策研究所 総括研究官 植田 みどり 兵庫教育大学大学院 准教授 川上 泰彦 目的：モデル事例の検討をとおして明らかにになった改善方策について更に検討をすることにより、効果的な学校評価の展開を図るための方策についての理解を深めるとともに、本研修の成果を整理する	昼食 休憩	講義・演習2 「学校評価の充実を図るリーダーとして」 国立教育政策研究所 総括研究官 植田 みどり 目的：実効性の高い学校評価を推進するリーダーになるための課題を整理する	閉講式	

I 研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、学校は地域や学校の実態等に即し、学校の特色を生かした適切な教育課程を編成、実施していくことが重要となる。 このため、学校においてカリキュラム・マネジメントを効果的に展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等、カリキュラム・マネジメントを円滑に行うために必要となる知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等、指導者となることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等、指導者としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成27年12月14日（月）～平成27年12月18日（金）					5 日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	160	人	受講者数	183	人	参加率	114.4%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	172	94.0	11	6.0	0	0.0	0	0.0	183
		183	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・今後の学習指導要領を見据えた内容のため、これから取り組むべき内容や方向性を確認できた。大変解りやすく有効な手法の説明があり、その後の実践、発表と、とても実りが多いスケジュールだった。 ・カリキュラム・マネジメントによって、子供達が生きる力を身につけることができたり、学校の多忙化・疲弊化を解消できる、協働的な職場にしていきたい。 ・カリキュラム・マネジメントに関する基礎的なことから、先進校の実践、そして今後の学校教育のあり方について学ぶことができ大変有意義な研修だった。 ・講義・実践発表等、今後の教育の展望が分かる大変ホットな話ばかりだった。 ・「カリキュラム・マネジメントとは」という知識を得る講義、そしてそれを活かした演習・協議がうまく組み立てられていた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・初日の演習で事前提出課題の内容について掘り下げ、研修の趣旨の理解を深めた。 ・2日目のプログラム（事例発表・協議・講義）について、発表を聞きながら付箋紙を使ったり、班別協議を行ったりした。 次年度に向けて ・事例発表の質疑応答の時間を拡充する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成27年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 日程表

12月14日(月)

		9:20	9:45	10:30	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
				講義1		講義・演習	休憩		
第1日			受付	オリエンテーション	これからの学校教育 ～カリキュラム・マネジメントの観点から～ 文部科学省 視学官 太田 光春	屋食・休憩	休憩	カリキュラム・マネジメントの基本とその役割、各地域におけるカリキュラム・マネジメントの取組 岐阜大学 准教授 田村 知子	◎目的:カリキュラム・マネジメントの意義とその必要性、また、各地域の取組を知るとともに、課題を共有する

12月15日(火)

		8:30	10:30	10:45	12:25	13:25	15:05	15:20	17:00
			講義2	事例発表・協議・講義		(引き続き事例発表・協議・講義)	休憩	(引き続き事例発表・協議・講義)	
第2日		カリキュラム・マネジメントによる評価と改善 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘 岐阜大学 准教授 田村 知子 筑波大学 准教授 根津 朋実	休憩	学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実践と課題 【A言語活動】文部科学省教科調査官 ※全員受講 水戸部 修治 ※事例発表・協議・講義協賛・講義の時間の「事例発表者」は右下に記載。 ◎目的:先行事例をとおりて、学校の特色を生かしたカリキュラムの編成とその適正なマネジメントによる学校改善の手法等について学ぶことともに、課題をもつて学ぶ	屋食・休憩	【B道徳教育】文部科学省教科調査官 ※選択制 赤堀 博行 【C学校安全】文部科学省安全教育調査官 ※選択制 吉門 直子	休憩	【Dキャリア教育】昭和女子大学 准教授 ※選択制 望月 由起 【E総合的な学習の時間】文部科学省 視学官 田村 学	

12月16日(水)

		8:30	10:30	10:45	11:30	12:30	14:25	14:40	15:45	15:55	17:00
		講義3	演習1	協議	発表準備		部会別発表	全体発表			
		カリキュラム・マネジメントを促進するための研修の 在り方 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘	カリキュラム・マネジメントの実際	屋食・休憩		(引き続き演習1)	(引き続き演習1)	(引き続き演習1)	(引き続き演習1)		
		休憩	【A言語活動】奈良教育大学 准教授 赤沢 早人 【B道徳教育】秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威 【C学校安全】文部科学省安全教育調査官 吉門 直子 【Dキャリア教育】筑波大学 教授 藤田 晃之 【E総合的な学習の時間】鳴門教育大学 教授 村川 雅弘								
		◎目的:各県においてカリキュラム・マネジメントを要行するための研修 手法及びその効果についての知識・理解を得る									
		◎目的:各都県におけるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、事例検討をとおして必要な視点を学ぶ									
第3日											

12月17日(木)

		8:30	10:30	12:00	13:00	15:30	15:45	17:00
			演習2-1			(引き続き演習2-1)	休憩	学校種別発表
第4日		各地域においてカリキュラム・マネジメントを推進するために ～研修を実施するための研修プランや資料の開発～ (学校種別演習) 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	休憩	各地域におけるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、事例検討をとおして必要な視点を学ぶ	屋食・休憩	(引き続き演習2-1)	休憩	(引き続き演習2-1)

12月18日(金)

		8:30	10:45	11:00	12:00	12:15
第 5 日	演習 2－2	全体発表	休 憩	講義 4	閉 講 式	
	カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～	カリキュラム・マネジメントを推進するリーダーとして				
	奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	ブルー学院大学 教授 長尾 彰夫 (大阪教育大学 前学長)				
		◎目的:カリキュラム・マネジメントを推進するための方策について理解を深める				

12月15日(火)「事例発表・協議・講義」事例発表者

- 【A言語活動】 10:45-12:25 京都市立開晴小・中学校 (教頭 鶴岡 洋子)
- 【B道徳教育】 13:25-15:05 台東区立富士小学校 (校長 金子 雅彦)
- 【C学校安全】 13:25-15:05 世田谷区立塚戸小学校 (校長 永山 満義)
- 【Dキャリア教育】 15:20-17:00 世田谷区立尾山台小学校 (校長 渡部 理枝)
- 【E総合的な学習の時間】 15:20-17:00 高松市立下笠居小学校 (教諭 池下 奈津見)

12月14日(月)「講義・演習」13:00～運営協力 文部科学省安全教育調査官 吉門 直子

I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	平成23年度に中・高等学校において育成されるコミュニケーション能力の素地を養うことを目標に、小学校高学年において週1コマの外国語活動が導入された。また、平成25年度には、文部科学省から「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」の公表、さらに平成27年8月に中央教育審議会教育課程企画特別部会にて次期学習指導要領に向けた論点が見示され、小学校における外国語教育の拡充強化とともに、小中高等学校を通じた英語教育の充実が求められている。 このような状況の中、本研修では、小学校の外国語活動を担当する教諭及び、指導主事等に、中学校との接続を意識し、児童が意欲的に取り組む活動の設定・指導法及び学習評価、教員の外国語活動指導力向上のための研修等及び、今後の小学校外国語教育の方向性についての知識等を総合的に習得させることを通じて、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、円滑に行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校及び特別支援学校、中学校外国語科の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び、小学校における外国語活動推進の指導者としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成28年2月17日（水）～平成28年2月19日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	196	人	参加率 178.2%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	170	86.7	26	13.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	196
		196		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・3日間の中で、外国語活動の改善に必要な要素を可能な限り入れることは大変であると思うが、ポイントを教わり、自分たちで考え改善の糸口をつかむプロセスがよかった。英語で進められる研修に慣れていない人がいたと思うが、小学校の教員にとってよい機会になった。
・中学校籍である自分にとって、小学校外国語活動について集中的に学ばせてもらったことは大変有意義だった。全国の先生方との実践交流やマイクロティーチング交流会など、全ての面で意義深い研修会となった。
・これまで外国語活動の授業や講師をする際に疑問に思っていた点が解消されたり、今後の外国語活動、教科としての在り方について知れたりしてとても有意義だった。また、自分自身もこれから更に外国語活動を勉強したいと思う様になり、意欲の高まりにつながった。
・外国語活動の推進、充実に向けて、様々な角度からのアプローチでより整理され深まった。特に課題に感じている小中連携について考えることができた。行政がリードしていくことの難しさを感じながら来たが、様々な方法を示してもらえた。
・新しい英語教育に対応した研修となり、その概要を理解することができた。演習は時間が短く残念だったが講師の先生方が前向きな姿勢が感じられ、それぞれのポイントをつかむことができた。班別協議については、短時間の準備ながら研修をふまえた充実した討議を行うことができた。発表は各班の工夫がたいへん勉強になった。
・高学年の教科化、中学年の外国語活動の実施に向けて、どの様に取り組んでいけばよいのかがわかり、とても有意義だった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・外国語活動推進及び外国語科実施に向けて必要な事項を整理し、その方策等を考察する演習を導入した。
次年度に向けて
・引き続き、小学校における外国語活動の推進と外国語教育の在り方についての研修内容・方法の検討を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成27年度小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修 日程

	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	15:45	16:00	17:00
2月17日(水)		受付	オリエンテーション 開講式	講義1 外国語活動の現状と外国語教育の今後の方向性 文部科学省初等中等教育局教科調査官 直山 木綿子 ◎目的: 学校教育における外国語活動の現状と課題を踏まえ、今後の外国語教育の重要性と方向性を理解する。	休憩・食	講義2 外国語活動の充実及び、小学校外国語教育の今後のために求められること 信州大学学術研究院教育学系 教授 酒井 英樹 ◎目的: 外国語活動の充実のために必要なこと及び、小学校外国語教育の今後に向けて必要なことを理解する。	休憩	事例発表・協議 「中学校との接続を意識し、児童が意欲的に取り組む活動の設定・指導及び学習評価」 島根県雲南市立吉田小学校 教諭 村尾 亮子 「教員の外国語活動指導力向上のための研修等」 群馬県総合教育センター 主任指導主事 小川 加寿美 ◎目的: 先進的な取組事例をとおして、効果的な小中連携の在り方や指導力向上の研修の在り方等について理解し、外国語活動の充実のための方策についての視点や方法等を得る。	休憩	講義・演習1 小中連携と学習評価の在り方 文部科学省初等中等教育局教科調査官 直山 木綿子 ◎目的: 外国語活動の充実のために小中連携と学習評価の在り方について理解する。

	8:30	9:00	10:00	10:15	11:15	12:30	13:30	14:30	14:45	17:00
2月18日(木)	受付	講義・演習2 外国語活動を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅰ	①文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子	②島根県雲南市立 吉田小学校 教諭 村尾 亮子	休憩	③広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 大里 弘美	昼・食 休憩	④フリティッシュ・カウンスル 講師 Tom Ledbury	休憩	講義・演習3 外国語活動を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅱ 文部科学省初等中等教育局教科調査官 直山 木綿子 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事 大里 弘美 島根県雲南市立吉田小学校教諭 村尾 亮子 プリティッシュ・カウンスル講師 Tom Ledbury ◎目的・外国語活動の推進、充実及び外国語科実施に向けて必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を班別協議を通して深める。 ※①絵本を題材にした単元構成と活動 ②他教科等と関連した単元構成と活動 ③歌・チャンツを取り入れた授業、アルファベットの音を題材にした単元構成と活動 ④教室英語の使い方とALTとの打ち合わせの在り方 の4つのテーマを取り上げ、それぞれについて演習を行う。
			◎目的：外国語活動の推進、充実及び外国語科実施に向けて必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を班別協議を通して深める。 ※講義・演習2で体験した内容をもとに、講義・演習4における発表に向けて班別協議を行う。							

	8:30	9:00	12:00	13:00	14:30	14:45
2月19日(金)	受付	講義・演習4 外国語活動を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅲ 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事 大里 弘美 島根県雲南市立吉田小学校教諭 村尾 亮子 ブリティッシュ・カウンスル講師 Tom Ledbury ◎目的: 外国語活動の推進、充実及び外国語科実施に向けて必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法等を発表を通して深める。 ※講義・演習3で協議した内容について、代表班による発表を行う。	休 憩 食	講義・演習5 外国語教育を推進するための指導者として 文部科学省初等中等教育局教科調査官 直山 木綿子 ◎目的: 本研修を振り返り、成果等をまとめるとともに、研修講師となるための課題を整理する。	閉 講 式	